

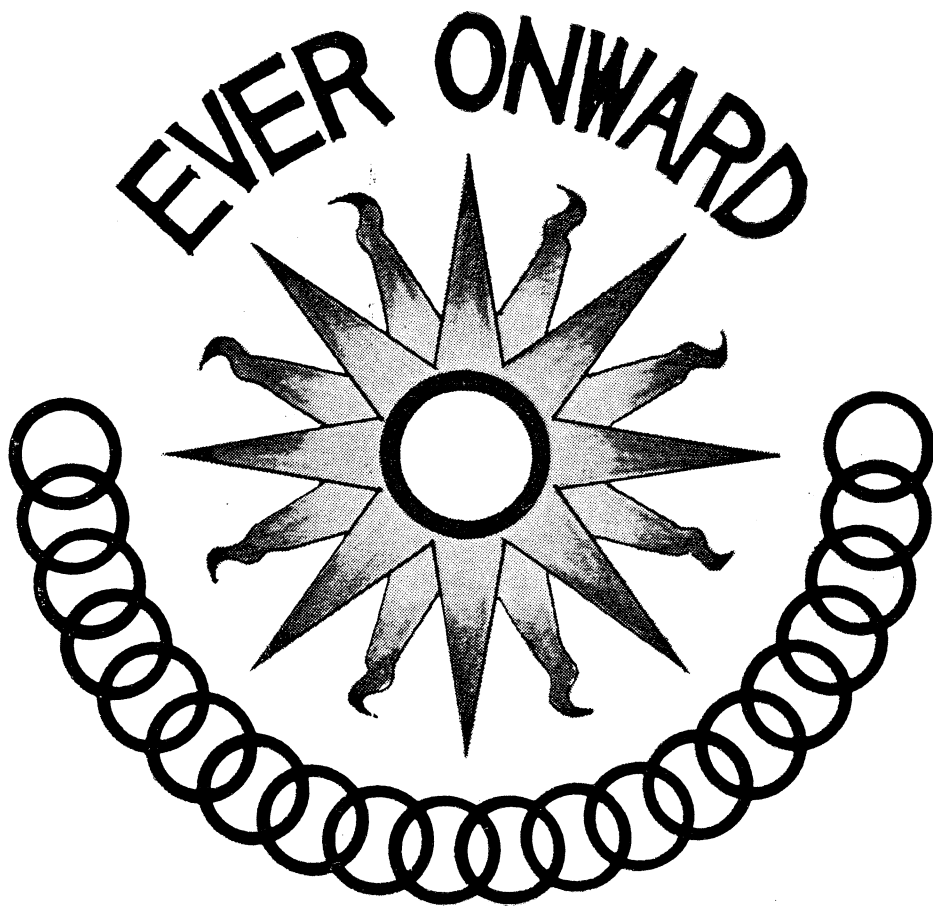
日本水泳連盟
機関紙

水泳

第 1 2 0 号

昭和 33 年 12 月

光



アジア大会特集

No. 120 "SUIEI" Dec. 1958

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

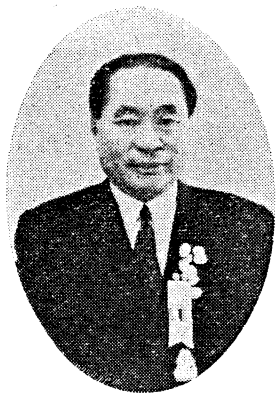
昭和33年度主要競技日程表(実施済)

2月22日—23日	日本泳法研究会	大伊豆温泉プール
3月24日—29日	シンクロ講習会	東京・Y・W・C・A・プール
5月10日, 11日	第3回アジア大会予選会	都屋内プール
5月28日—31日	第3回アジア大会	〃
6月7日—7月6日	関東学生春期リーグ戦	神宮プール
6月8日	第30回早慶対抗水上競技大会	〃
6月15日	第23回日・立・明三大学	〃
6月27日—29日	国際招待水上競技大会	ロサンゼルス
6月30日—7月13日	水泳安全講習会	9地区
7月6日	第3回日大対中大対抗水上競技大会	〃
7月10日—13日	ケオナカマ記念大会	ホノルル
7月16日, 17日	全国国公立対抗水上競技大会	駒場プール
7月23日—27日	北海道・東北水泳教室	秋田市管八幡プール
7月28日—8月1日	関東水泳教室	茨城県管プール
7月26日—30日	中部	名古屋市管豊田プール
7月28日—8月1日	近畿	高野口プール
	中国	進徳学園プール
7月22日—26日	四国	松山東高校プール
7月21日—26日	九州	男子 石橋文化センタープール 女子 瀬高町町管プール
8月2日, 3日	北海道高等学校選手権水上競技大会	函館商業高校プール
8月9日, 10日	東北	青森高校プール
8月7日, 8日	関東	館山市管プール
8月2日, 3日	中部	高岡プール
8月9日, 10日	近畿	布施市管プール
8月2日, 3日	中国高等学校選手権水上競技大会	宇都市管プール
8月9日, 10日	四国	城南高校プール
8月2日, 3日	九州	別府室内プール
8月13日	日本選手権シンクロ競技大会	目白プール
8月13日—17日	第2回ジュニア水泳指導会	神宮プール
8月14日—17日	日本選手権水上競技大会	〃
8月18日—24日	国民皆泳週間	各地
8月20日	日豪国際水上競技大会八幡大会	大谷プール
8月22日, 23日	〃	大阪プール
8月22日—24日	第26回日本高校学校水上競技大会	高知市管プール
8月25日	第3回日本泳法大会	天理プール
8月30日, 31日	第9回全国勤労者水上競技大会	野沢プール
〃	第31回関東学生選手権	神宮プール
8月31日	第4回日本中学校水泳通信競技大会	各府県一会場
9月5日—7日	第34回日本学生選手権水上競技大会	神宮プール
9月14日—17日	第13回国民体育大会	高岡プール

目

次

第 3 回アジア大会を終了して.....	樋 口 一 成.....	2
第 3 回アジア大会水上競技報告.....	日本チーム役員.....	3
第 3 回アジア大会総合成績.....	大会競技役員.....	17
アジア大会強化合宿を顧りみて.....	赤樫卓爾・浦畑チズ子.....	29
飛込準備その他.....	川 島 正 之.....	31
競技用機械関係設備について.....	深 谷 俊 明.....	33
アジア大会あれこれ.....	X ・ Y ・ Z.....	34
親善使節クロトワージー.....	柴 原 恒 雄.....	35
日本水泳指導者協会総会.....	小 泉 正 延.....	36
シンクロ競技関係事項.....	シンクロ委員会.....	40
日本水泳連盟役員.....		42
海 外 ニ ュ ー ス.....		43
臨時代議員会議事録.....		50
連 盟 日 誌.....		50



第3回アジア大会を終了して

連盟会長 樋口 一成

まづ本大会が予期以上の大成功裡に終了したことを関係者の一人として心から喜びたい。勿論個々に検討すればいべきことはあろうが、オリンピックに準ずべき一大国際競技大会をあれだけ盛り上げて、推進し得たことは体協を中心とする大会組織委員会の献身的な努力と、参加各国の役員選手の熱意によるものであって、東京が1964年のオリンピックを開催し得る能力のあることを十分世界に示したものと見える。

水泳は予期された通り、全勝に近い優勢振りを示したが、単に優勢というだけではなく、2種目にアジア大会始めての世界新記録を出し、女子が異常な躍進を示して世界水準に近づいたなど、内容的にも充実したものであった。これは北村監督以下コーチングスタッフの卓越した指導と全選手の旺盛な敢闘精神によるもので、特に水泳選手団の規律正しい行動は全選手団賞讃的となったことは、何と云っても本連盟が永年培った伝統のあらわれであって、就任以来日の浅い私としては、この美しい伝統を如何にして失わずに、更には積極的にのぼして行くかが課せられた大きな宿題であると、今更乍ら痛感した。

各国選手団はその実力において、我々との間に可なりの開きがあり、チームとしてまとまっていたのはフィリピン位であったが、水泳先進国としての我々の練習法、指導方法、更には競技会の運営等を少しでも多く取入れたいという熱心な国が多く、大会前の練習中に或る程度日本式のものをマスターして成功した所もあった位である。又後進国とはいえ、クイックターンの猛練習をしていたチームもあり、以て他山の石となすべき点多々あった。

このようにして外国選手団との交歓も円滑に行き、トラブルめいたことは全くなかったし、又日本側競技役員に対する信頼度も極めて高く、台湾の監督の如きは、日本役員の審判は公正であるから役員は日本人だけでよいという話も出たり、女子400メドレーリレーにおける日本チームの失格判定などは日本役員にして始めてできることだなどという賞讃の言葉もきいた。このようなことは本大会の如き国際試合において始めてあらわれるスポーツ精神であって、この気持を我々はあく迄失わないで行きたいと思う。

競技場は松沢氏等の努力によって完成した世界稀にみる屋内プールを使用することができたことは極めて幸であった。偶々I.O.C.総会に参列した各国役員にみてもらうことができたが、その完璧な施設に何れも感心していたようで、この大会に始めて登場した自動計時器、飛込採点器などと共にオリンピック招致に対するPR的効

果も大にあったようだ。ただこのプールが都の予算措置の関係上、着工がおくれ、突貫工事で辛うじて間に合うきわどい工事であったため、関係者は気をもんだが、都建設局関係者の涙ぐましい努力によって、大会に十分間にあったことは我々として感謝にたえない所で、特に、計画では3,000人の椅子席の他に、1000人位の立見を予定していたのを、我々の申入れにより大会直前臨時スタンドを応急に設けてくれるなど、その協力精神には大に感激している次第である。

我々はこの大会で圧倒的に勝つことはできたが、これで満足することはできない。既にローマ・オリンピックが目前に控え更には東京(?)オリンピックに対しても周到な用意をしなければならないのである。アジア大会を土台にしてローマ・東京への前進を如何にして推し進めるか。これが我々当面の課題である。我々の先輩は、かつては水泳王国の金字塔を打ち立て世界に君臨した。我々はこの輝かしい過去を再現するためにあらゆる努力を払はなければならないが、それは単に「夢よもう一度」というような甘い考えでは駄目である。豪州の今日あるのはロンドン大会以来、10年間の臥薪嘗炭が実を結んだ結果である。その努力を詳に検討すると、極めて科学的で、しかも英才教育的である。これをそのまま日本に適用し得るかどうかは即断できないが、国際レベルが急速に向上しつつある現在、何等か画期的方法を講じなければ、世界制覇は到底達成できない。幸に我が国は水泳人口の多さと、選手層の厚さにおいては世界で最も優れた国であるから、これを基盤として、ピラミッドの頂点を如何にしてあげるかが問題なのである。我々は日夜この問題と懸命に取組み、あらゆる努力を払いつつある。

アジア大会をおえた現在、我々は以上のようなことを考え、目論んでいるが、これらは所詮お膳立てであり、舞台装置に過ぎない。そして主役はあく迄選手諸君であり、その選手を育てた地方の指導者諸君である。我々はこのことを忘れないで、十分な計画をたて、同僚の協力を期待してローマに進みたいと思う。

筆者 略歴

明治 37 年 8 月 21 日生

東京出身。医博。慈恵大学長。同大学附属病院院長。日本産科婦人科学会理事。日本母性保護協会理事。対癌協会理事。昭和3年慈恵大学卒業後ベルリン大学ライプツヒヒ大学に留学。昭和33年3月21日臨時全国代議員会の承認により第3代本連盟会長に就任。

第 3 回 アジア大会水上競技報告

監督 北村久寿雄
 競泳コーチ 太田光雄
 " 赤樫卓爾
 " 永井武治
 飛込コーチ 岩佐道雄

水球コーチ 鵜田武
 " 神田明善
 マネジャー 菊池章
 シャペロン 浦畑チズ子
 丹羽孝忠

は し が き

1. アジア大会の目標

われわれ水泳界は、アジア大会に対して二つの大きな期待をかけた。

その一つは、ローマ・オリンピックへの大きな飛躍の契機にしようとする事である。豪州水泳陣をうち破って水泳日本の伝統をとり戻すことは、メルボルン以来わが水泳界の宿願である。豪州に追いつき追いこすには、われわれは彼等の数倍の努力を払わなければならない。

アジア大会を目標とする選手強化、水泳界のもり上りは、さらに豪州選手招聘を機会とする8月のシーズンに加え、1年に二度のシーズンをもつことによって2年分の前進を本年1年のうちに実現できるのではないか。冬から春にかけて強化を重ね例年まだシーズン始めの5月に、わが水泳界の最善の力を傾注しようとするわれわれの目的の第一は、ここにあったわけである。

水泳では日本とアジア各国の間に数段の開きがあるのは事実である。しかしわれわれは日本水泳界の全力を挙げてアジア大会に臨もうとした。それはスポーツマンであるからだ。世界のトップレベルにある試合振りを展開することは、特に主催国として参加各国の選手に対する最も良いプレゼントに違いない。さらに、わが選手の善戦ぶりが他国選手のよき刺戟となり、彼等の今後の飛躍の契機となれば、スポーツ人としてわれわれの喜びはこれにこしたことはない。

これが、アジア大会を迎えるわれわれの第二の期待であった。

2. 選手の強化と選考

日本水泳連盟は、33年1月の全国代議員会で、アジア大会候補選手選考方法を発表し、シーズン中の各試合の成果に基いてシーズンオフの9月から10月にかけて、飛込、水球、競泳それぞれの候補選手を発表した。候補選手の強化合宿は1月東大プールで行ったのを手始めに4

月末まで、それぞれ20日ないし30日間実施した。飛込は候補選手8名がそのまま正式選手に決定し、水球では、選考委員会の決定により22名の候補選手の中から11名が正式選手に選ばれた。競泳は5月10日及び11日、新装なった東京都屋内プールで最終予選会を開催し、選考の結果男子20名、女子16名が決定した。

こうして、アジア大会日本選手団の結団式が行われる5月13日の前日に、総員64名の水泳チームが最終的に編成されたのである。

監督	北村久寿雄	マネジャー	菊池章
競泳コーチ	太田光雄	シャペロン	浦畑チズ子
"	"	赤樫卓爾	男子競泳主将 古賀学
"	"	永井武治	女子" " 青木政代
飛込コーチ	岩佐道雄	男子飛込主将	馬淵良
水球コーチ	鵜田武	女子" " 宮本まさみ	
"	"	神田明善	水球主将 佐藤孝尚

3. 大会

5月13日午前日本青年館で水泳チームの結団を終り、同日午後都体育館で日本選手団全員の結団式が行われた。早目に正式選手を内定した飛込・水球は別として、前日によりやく最終決定をみた競泳選手は、体協その他関係者の協力によって一夜のうちにプレーザーコートの新調を終ったが、靴は間に合わないまま、この式に出席するというあわただしさであった。

選手団は14日、第一ホテルの選手村に入ったが、その日から都屋内プールを中心に試合前の練習に入った。19日青年館の選手村に移って、練習はいよいよ油がのってきた。

5月28日から31日まで展開された各試合の経過は別の項に譲るとして、ここでは、大会を通じて特に指摘しておかねばならぬ諸点を挙げたい。

(1) アジア大会にかけたわれわれ当初の期待は、ほぼ達成された。シーズン始めの5月であるにかかわらず、競泳選手の殆どがこれまでの各人のベスト記録を上廻る成績を示した。中でも山中400の世界記録、女子選手の飛

躍的な向上、水球のシンガポール打破は特筆さるべきものであった。

(ロ) このような好成績の原因には、選手各人の精進と各コーチの献身的な指導があったことはいうまでもないが、水泳陣全体としてかつて見ない程の一致団結したチームワーク、出場や成績に影響するほどの病人が1人も出なかった全体の志気の高揚。そして何よりも大切なことは、北村監督を中心とした水泳チームの支持、激励に日本水泳連盟全体が一致してバックアップする体制を推進したことであった。

(リ) 女子400mメドレーリレーの失格は、全種目完勝の機会を逸したが、われわれはこのことから「完全」ということの如何に困難なことを学んだ。監督、コーチ団としてはその失格でないことを信じているが、失格と判定される可能性のある引継ぎあるいは泳法は、「完全」なるためには正に不十分であったかといえるかもしれない。この教訓は、今後十分に活かされなければならない。

(ロ) 本大会を通じて、アジア各国の水泳界の交歓は遺憾なく発揮された。往々、有り勝ちなトラブルも全くなかった。練習プールの使用時間割りは外国選手を満足させ、練習試合を通じて、日本チームから出来るだけ多くを学ぼうとする外国選手の熱意は随処に見られた。アジア大会を契機にアジア各国に水泳熱が普及し、やがては日本の選手に迫り相競って、世界水泳界の一大勢力となる日の遠くないことを確信せしめるものであった。

(北村記)

競 泳

(1) 候補選手選考

日本水泳連盟では、昭和32年10月8日に選考委員会を開き、本シーズン中の成績を中心にアジア大会候補選手の選考を行った、日本水泳連盟がアジア大会に向けた二つの期待、すなわち (イ)ローマ大会への大きな前進とする。(ロ)アジア各国選手に対し日本水泳界の最善を示す。この二つを満たすために単に記録だけではなく将来性を十分考慮に取り入れて選考した。この結果、ローマ大会の主力になると予想される現在の、中、高校生をなるべく多く加えることとなった。

男子 38名 (内、高校生 17, 大学生 21)

女子 24名 (内、中学生 4, 高校生 10, 大学生 5, 一般 5)

(2) 強化合宿

冬期強化合宿

東大25m室内プール (24°C)

33年1月4日～1日13日 {男子高校 21名
女子 24名}

1月14日～1月31日 大学生

候補選手の第1回強化合宿は33年1月東大プールで行われた。プールの収容能力と強化の効果を考えて、競泳は高校生及び女子のグループと大学生のグループに分け前者は太田、赤樫コーチを指導として本郷大栄館に合宿し、後のグループは各大学監督の指導の下に通いで実施した。シーズン始めのアジア大会を目標にし、かつはローマ大会への大きな前進とするためには、冬期合宿もおのづから厳しいスケジュールの下に実施されることとなった。

1. 練習の計画を明確にし効率を良くするために選手の構成は、男子は高校生だけとし、大学生の強化は14日より各大学監督に任す。
2. 女子は今回の強化合宿で特に男と同じ練習法を試みる。
3. 練習の重点をビートとロングにおき、その間体操による陸上ハードトレーニングを併用する。
4. 規律面について特に厳格に指導。

わずか10日の短期間に、しかも25mプールで多人数の練習は、結局通算して平均3万米程度を泳ぐにとどまったが、各選手とも冬期合宿とは見えないほどの好調を示し自己の最高をマークする者が9名もあつた。この成果を得た原因には各候補選手が自覚して練習に励んだ事も勿論であるが、合宿に入る前にそれぞれの地方で合宿練習 (別府、峰温泉、釜石プール等) を行い、今度の合宿を本格的に強化練習として参加したためであったと考える。

春期強化合宿

別府50m室内プール (26°C)

33年4月1日～4月10日 52名 (男, 30, 女, 2)

1月の東大合宿と異り、今回の合宿は大学生、社会人を加えると共にアウトドアに直結する合宿であるからインターバル練習を加味した本格的な練習を行った。合宿期間中に温泉祭り、桜祭り等の催物が多く、ややもすれば選手の気分が弛み勝ちになるので規律を一層厳格にし精神面での強化に努めた。

1. 東大合宿に引続き練習量において男女差をつげなかった。これが女子のレベルを著しく向上させた原因ともなった。
 2. それぞれの地方並びに各チームが一連の強化策として本合宿前に強化合宿 (九州水連, 日大, 天理大, 峰温泉) を行ったことは、非常に練習の能率を良くし効果をあげた。
- 3日目よりスプリントをつけるべくインターバル練習

に入ったが、女子の一部には慣れないためか、疲労感が見られた。しかし山中、石井、増永、福井、田中、高松等は自己の最高に近い好調を示して約1ヶ月後に控えた最終予選会への期待を大きくさせた。

参考記録

(男子)		(女子)	
山中 200自	2:07.2	田中 100背	1:21.3
800自	9:37.8	高松 200平	3:00.4
1500自	18:17.0	宮部 100バタ	1:16.8
石井 800自	9:56.6		
1500自	18:58.2		
福井 200自	2:11.4		
渡辺 200背	2:28.4		
増永 200バタ	2:25.1		
増田 200平	2:47.2		

(3) 最終予選会 (アジア大会選手選考)

東京都屋内プール (24°C)

33年5月10日～5月11日

アジア大会競泳選手を決定する最終予選は、屋内プールの竣工が予定よりおくれたため5月13日行われる日本選手団結成式のギリギリ直前である5月10日11日の両日、都屋内プールで開かれた。アジア大会参加の榮譽に刺戟され、二度の強化合宿が効をあげて、シーズン始めとは思われぬほどの好記録が続出し、とくに女子においては背泳に2つ平泳に3つの日本新記録をだした。

11日の試合終了後直ちに選考委員会が開かれた結果、次の通り男子20名、女子16名の選手が決定し、併せて北村監督以下のコーチ陣も発表された。

(4) アジア大会合宿

東京都屋内プール (24°C)

33年5月12日～5月27日

最終予選会の翌日が結団式というあわただしさに加えて、宿舍の移動、選手村の混雑、外国選手との練習時間の調整等種々練習に制約を受けながらも1月、4月の強化合宿から最終予選会に至る盛り上った闘志をそのまま助長して一挙に試合にぶっつけようと、更に厳格な練習計画が実施された。

5月10日, 11日		最終予選会
午前	午後	
12日 休養	結団式	
13日 休養	休養	
14日 練習開始	入村式 (第一ホテル)	
15日 練習	練習	
16日 "	"	
17日 "	" (日本青年館に移動)	
18日 "	"	

19日 "	" (入場式の行進練習)
20日 自由練習	休養
21日 自由練習	記録会
22日 練習	練習
23日 休養	自由練習 (新宿御苑パーティ)
24日 練習	開会式
25日 練習	練習
26日 "	"
27日 "	"

この期間の練習では、次の事項が留意された。

- 予選会が終わったばかりで選手が疲労感から脱しないので12日、13日は休養
- 試合が近づけば種々の行事があり充分練習も出来ないことを考えて15日～19日の5日間に最も強く集中した練習を計画した。即ち午前中はロングコース、ビートに主眼をおき午後はスプリントのインターバル練習を中心とする。
特に外国選手と実力互角と目される女子400自、100バタ、100自、100背については徹底したスプリント練習を行い、全種目優勝確実の男子は日本記録世界記録への挑戦意欲を燃やすべく士気を鼓舞する。
- 従来の練習法は長時間で面もロングコースを多く泳いでいたので、今回の如き短時間内での練習法となると選手自身に強く自信を持たせることが必要である。そのため時機を見て記録会を行ったところ全員好調の大成功であった。

参考記録

男子		女子	
100m自	古賀 58.1	100m自	佐藤 1:06.4
"	横地 58.4	"	神野 1:07.6
200m自	福井 2:09.8	"	中沖 1:09.6
"	藤本 2:10.4	"	大宮 1:13.0
"	梅本 2:10.8	400m自	芝原 5:21.6
"	北原 2:11.0	"	和田 5:34.8
400m自	丸山 4:41.8		
1000m自	山中 12:01.0		
	1:03.0	2:11.0	3:20.6
	4:32.0	5:44.0	6:58.0
	8:14.0	9:28.2	10:48.0
	12:01.0		
"	石井 12:54.0		
100m背	二宮 1:06.2	100m背	田中 1:18.4
"	長谷 1:07.3	"	岡本 1:21.8
200m背	富田 2:27.2	"	村瀬 1:21.8
"	渡辺 2:30.8		

男子		女子	
100m平	太田 1:14.8	100m平	高松 1:24.4
"	古川 1:15.3	200m平	" 2:54.4
"	杉山 1:21.6	"	小田切 3:04.9
200m平	和気 2:47.0	100m平	青木 1:28.2
200mバタ	石本 2:21.6	100mバタ	宮部 1:13.5
100m "	増永 1:04.6	"	寺垣内 1:21.6
200m "	開田 2:25.1	"	片岡 1:18.5

4. 選手の調子調整は25日より始めたが風邪のため途中より練習に入るのが数日遅れていた山中、石井と第3日目、第4日目の試合に出場する選手とは試合の2日前迄練習を続ける。

限られた短期間で、しかも小人数のコーチでは満足すべき練習ができず、多くの研究課題を残したまま試合に臨むことになったが、練習当初の計画通り進められたが1人の事故者もなく試合に出場できたのは社会人となった選手達の真摯な練習態度と若手を中心としたチーム全体の盛り上げる力が一丸のファイトとなってチーム全体に漲ったことは最大の原因があったと考えられる。又5月の気候が我々に快適な睡眠、食欲、休養を与えてくれたことも忘れてはならない。(赤櫻記)

(5) 大会の経過

5月28日(第1日)

男子100m平泳予選 (2.30)

(A組) 3コースで出場した杉山は非常にスローペースで泳ぎ、タイムレースなので、あわやと思わせる様であったが、1分18秒1で3位。辛くも予選通過。タイムレースでは余りスローペースで泳ぐと、思わざる失敗をすることがあるから充分注意を要する。

(B組) 7コースの太田は終始よい泳ぎで危なく泳ぎ1分17秒5で1位、非常に自信にみちた泳ぎ振りで決勝を楽しみにさせた。

3コース徐(中国)も中々のスプリントがあり強敵。

女子200m自由形決勝 (4.00)

1着	佐藤喜子(日本)	2:26.9
2"	エスピノ(比)	2:32.2
3"	大宮涼子(日本)	2:36.5

大会最初の決勝レースであり、このエスピノの実力も相当なもので、佐藤は多少あがり気味であったが、スタートからよく飛び出し、前半よく迫っていたエスピノを100mターン直後から引離し、楽勝した。3位になった大宮も最後迄エスピノと争っていたが、試合経験の多い彼女にしてやられ3位に甘んじた。

男子100m平泳決勝

1着	太田勝(日本)	1:14.8
2"	杉山明男(中国)	1:16.8
3"	李	1:17.1

3コース杉山、6コース太田の日本勢は中央コースの中国勢の徐、李と最初から競り合ったが、自信をつけている太田は50mターンからよくピッチがあがり、ゴール前では2位杉山を1身長以上離し自己のベストタイムで堂々と優勝した。杉山も前半よく斗ったが、後半太田に離された。

女子200m平泳決勝 (4.35)

1着	高松好子(日本)	2:55.6(日本新)
2"	小田切紀子(中国)	3:02.6

合宿以来好調の高松は泳ぎも鋭さを加え、最初より飛び出し、100mラップは1分24秒8で廻った。レース前世界記録をねらうには1分22秒位で入る様について置いたがやはりまだ力不足、このラップでは望みが少なくなかった。後半もよく頑張るが他を寄せ付けなかったが、2分55秒6(日本新)に終わった。まだまだ記録の短縮は可能だ。小田切もよく頑張る後半よく出て2位に入る。

女子100mバタフライ決勝 (4.55)

1着	宮部シズエ(日本)	1:13.2(日本新)
2"	サンドラ・ボンギース(比)	1:17.9
3"	寺垣内達代(日本)	1:19.6

バタフライは比島選手が強いという宣伝に宮部も多少不安気であったが、練習中13秒位で泳いだのでレースは最初から飛び出した。1キック、1ストロークの変った泳ぎをする宮部のピッチはよく上り、最初からリードして大きく差をつけて楽勝した。

1分13秒2は国際的な好タイムである。比島勢もよく頑張る、ボンギースがラストで寺垣内をとらえて2位に喰い込んだ。

男子1500m自由形決勝 (5.10)

1着	山中毅(日本)	18:00.3(日本対)
2"	石井宏(中国)	18:28.8

絶対に強い山中が18分の壁を破るか、若手の石井が何処迄山中の記録に迫るかの期待の中にレースは始まる。山中は600mあたりまでは快調の1分11秒のペースで廻り、17分合は確実に出せる泳ぎ振りであったが、記録を意識し過ぎてか、肩に多少力が入り過ぎ、800mあたりから1分12~13秒のペースに落ちてしまった。

この間に若手の石井が次第に比のサイラニーを離して非常によいラップで泳ぎ、相当の好記録を生みそうな泳ぎ振りであった。

遂に山中は18分の壁を破る事は出来なかったが、メルボルンの時と同タイムでシーズンはじめにこの記録なら8月の豪州選手を迎えてのコンラッズとの一戦に望みを懸けられると大いに意を強くした。

石井も予想外によく泳ぎ彼としても勿論最高記録であるし、国際間にも、立派な記録であった。比島のベテランのサイラニもよく頑張る、来日以来ぐんぐん調子を上げて、このレースでは彼等のコーチが驚いた程の好記録で泳いだのが印象的であった。

男子400mメドレーリレー決勝 (5.40)

- 1着 日本(長谷・古川・石本・古賀) 4:17.2 世界新
- 2" 比(アグスチン・カイコ・エリサルデ・アルバニ) 4:47.7
- 3" インドネシア 4:48.0

4年前の、日米対抗以来、気の合ったベテランの長谷、古川、石本、古賀のオーダーで世界標準記録4:18.0に挑戦した。

長谷が先づ1:05.5の好調さで古川に引継いだので大いに期待がでてきた。古川も、今日の100m平泳決勝には出場していないので非常に軽そうで、1:13.3とこれも好調、昨年日大チームが4:17.8を出した時より01秒1早い。石本も世界新の確信をもって飛込み1:00.4で古賀にリレー。古賀も浮き乍らもよく頑張る、遂に4:17.2の堂々たる世界新記録となった。シーズン始めで、しかも今春卒業した連中のオーダーで記録更新したのでその意欲は大いに賞されてよい。

第1日の結果を見て予想通り全員好調で、全部金メダルを確保出来たが、われわれとしてはやはり世界の水準を頭に入れて更に頑張ることを誓った。

5月29日(第2日)

男子100mバタフライ予選 (2.00)

- (A組) 1着 石本 隆 (日本) 1:11.8
- 2" ウォルター・ブラウン(比) 1:15.5
- 3" ガジ・シヤー(パキスタン) 1:17.9
- (B組) 1着 増永文昭 (日本) 1:02.7
- 2" リ・チュン・キ(インドネシア) 1:08.6
- 3" フレッド・エリサルデ(比) 1:13.6

予選であるので、石本は非常に楽に泳いだ。増永は練習のつもりで飛ばし、1:02.7これも好調の泳ぎ振りである。

男子200m自由形決勝 (3.40)

- 1着 福井 誠 (日本) 2:08.2

- 2" 藤本 達夫 () 2:08.3
- 3" ハビブ・ナースティオン(インドネシア) 2:11.7

福井、藤本の若手好調同志の対戦であったが、スプリントに勝る福井が最初からよく飛ばしてタッチの差で藤本を抑えた。このように若手の中堅選手が大きく伸び、自己の最高記録で今シーズンに入れたので、今後に希望をもたらした。

3位になったナースティオン(インドネシア)はメルボルンの代表でもあり中々元気のよい処を見せ、中国の高と共に次第にアジア地区もレベルが上って来たと感じられる立派な泳ぎをしていた。

女子100m背泳決勝 (4.00)

- 1着 田中 聰子 (日本) 1:15.3 (日本新)
- 2" 岡本 節子 () 1:19.3 ()
- 3" シルビア・ボンギース(比) 1:20.2

予想では来日以来好調を伝えられたボンギースと田中とが、1分18秒位で激しく争うと考えられていたが、レースは田中が伸々とした泳ぎで軽く飛び出し、後半も全然問題なくむしろアツけないレースであった。それ程、田中の泳ぎは見事であり日本記録を一気に4秒7も短縮した。しかしまだ、なおす処は沢山あるが、バネのある泳ぎ振りで、体もいいので、今後の精進次第では直ぐに国際級になるだろう。2位の岡本もよく頑張る、ボンギースを降したが、この日本記録も偉い。

男子100m背泳決勝 (4.15)

- 1着 長谷 景治 (日本) 1:05.6(日本対)
- 2" 二宮 英雄 () 1:07.4
- 3" ルデイ・アグステイン(比) 1:09.5

ベテランの長谷も合宿以来非常によく練習し、好調を続けていたので、4秒台の日本新を期待していたが、前半31秒4で割合スローペースで入り二宮と同時にターンをしたが、後半はよく水に乗って危げなく優勝、しかも日本対の好記録であった。前半もう少し飛び出せれば4秒台に入れたろうといわれる程のよい泳ぎである。2位の二宮もよく泳いだ、力不足で7秒台にとどまった。

男子100mバタフライ決勝 (4.30)

- 1着 石本 隆 (日本) 1:01.4
- 2" 増永文昭 () 1:02.0
- 3" ウォルター・ブラウン(比) 1:06.9

60秒台の野望に燃える石本は非常な意欲を持って飛び出した。泳ぎも非常にうまくなり、然も力強くなっており、50mは28秒4で入った。練習時はこの位のペース

が普通なので安心してラストスパートを見守っていたところが80mあたりから肩の線が低くなり、水の切れが悪くなってしまった。(いわゆる浮いてしまった)。遂にピッチもグンと落ちて1秒を割れなかった。やはりシーズンも浅く練習が不充分のためだが、今年中にはペースさえ上手に泳げれば、今の泳ぎで1分を割るのではないかと思う。

2位になった増永は後半よくピッチを上げて石本を追い、ゴール前では一掻きの差であった。

女子400mリレー決勝 (4.45)

- 1着 日本 (佐藤, 島田, 中沖, 神野) 4:27.3 (日本新)
 2着 比 4:50.4
 3着 中国 5:31.5

2位の比島以下を全然問題にしないで、日本記録を目指して力泳、第1泳者佐藤は1:05.8で島田に引継ぐ。島田が予想以上によい、自己最高の1:06.6で入り中沖にかわる。中沖もピッチを上げて、1:07.6、アンカー神野は1:07.3で30m位の差をつけて優勝した。これで2日目を終ったが、全員好調で皆自己の最高、或はこれに近いものを出した。

5月30日(第3日)

男子200m平泳予選 (1.50)

- (A組) 1着 和 気 統 (日本) 2:47.5
 2着 徐 興 泰 (中国) 2:55.6
 3着 M.A. ウィリアムス (セイロン) 1:58.1
 (B組) 1着 古 川 勝 (日本) 2:53.2
 2着 アントニオ・サロソ (比) 2:53.9
 3着 李 岑 生 (中国) 2:56.2

和気が元気で一人だけ40秒台で泳いだ。古川も力をセーブしているので決勝での新旧選手の争が見物で、予選だけを見た処では他国には強い選手がいないようだ。

女子400m自由形決勝 (3.40)

- 1着 芝 原 笑 子 (日本) 5:15.8 (日本新)
 2着 ヘルトル・デス・ロザダ (比) 5:16.2
 3着 和 田 映 子 (日本) 5:30.6

国際試合経験の多い、ロザダ(比)は来日以来好調で、秘かに優勝をねらっているが、新鋭芝原もその体力に物をいわせて非常に調子が良いので、この両者の争である。スタートから9コースを飛び出したロザダは快調そのもので、100mでは2コストローク芝原をリードして入ったが、芝原は200m迄に差をちぢめて同時にターン、以後全く両者のせり合いとなったが、スプリントのついてきた芝原がラストスパートよく最後に抜いてタッ

チの差で勝った。両者とも自己の最高記録をだし、ようやく国際級の記録に一歩近づいた。

男子200m自由形決勝 (4.00)

- 1着 山 中 毅 (日本) 4:23.9 (世界新)
 2着 丸 山 長 敏 (比) 4:36.1
 3着 パナ・サイラニ (比) 4:40.9

山中は記録をねらっていた。軽い泳ぎで肩に力が入らず非常にスムーズに飛び出した。2位の丸山とパボル(比)を50mで一身長の差をつけ、100mでは4mとなり1:01.2の絶好のペースで入る。丸山は200mでそれ迄よくついていたサイラニ(比)を振切る。山中は依然好調、ピッチもよく上りいつも水しぶきを上げる泳ぎでなく、非常に静かな泳ぎだがスピードは凄く200m 2:08.0で極めて快調だ。丸山も山中に遅れてはいるが非常によいラップで2位を確保して力泳。200~300と山中のいつも落ちるペースがここでも落ちず、300m 3:16.6の早いペースで入った。これでは世界新記録確実と場内が沸く中をラストスパートをかけて飛び込み、4:23.9の快記録を樹立した。1月コンラッズ(豪)の出した4:21.8には及ばなかったが堂々たる世界記録で、その持っている実力には驚かされた。2位に入った丸山も4:36.1とこれも非常に好記録で、真面目な練習の成果である。

男子200m背泳決勝 (4.20)

- 1着 富 田 一 雄 (日本) 2:22.3 (日本新)
 2着 渡 辺 和 夫 (比) 2:26.8
 3着 ロレンゾ・コルテス (比) 2:31.6

最初から富田、渡辺の競り合いでレースが始まる。200mに自信を持つ富田がシリシリと渡辺との差を開けてゴールでは約5mの差で快勝、しかも自分の持つ日本記録を更新した。

別府の強化合宿以来急激に泳ぎがうまくなった渡辺も5:26.8の自己の最高で、泳ぎからいっても、もう一息のスプリントが欲しい処だ。

男子200m平泳決勝 (4.35)

- 1着 古 川 勝 (日本) 2:44.0
 2着 徐 興 泰 (中国) 2:47.3
 3着 和 気 統 (日本) 2:47.9

予選では目立たなかった徐(中国)が隣りコースの古川を追ってピッチを上げ最後迄よく泳いで遂に和気を抑え2位に入ったのは賞されてよい。

古川はやはり王者の貫録というか、終始堅実なペースで首位を保ちつつ勝ったが、和気は若いのでまだ泳ぎが

ギゴチなく、早くこれをなおして置かないと平泳としては伸びなくなる恐れがある。

女子400mメドレーリレー決勝 (4.50)

1着 比 (J・ボンギース, カガヤット, S・ボンギース, エスピノ)

5:22.2

2" 中国 5:50.7
日本 失格

日本女子リレーチームが世界記録に挑戦するということは今迄夢にも思わなかったことが現実となって目前に現われた。

選手達も異常な意欲でスタートした。

第1泳者田中(背)は非常に好調で再び1:15.1の日本最高記録で入る。第2泳者は高松(平)1:23.6で宮部(バタ)に引継ぐ、このペースでいくと或いはという可能性が強くなって来た。宮部も歯を喰いしばって頑張る。1:12.6の好タイムで佐藤(自)にまかせる。佐藤も1:05.8で入り4:57.1で惜しい処で世界標準記録4:57.0を破り得なかった。しかもそのみでなく、第3泳者と第4泳者の引継ぎに反則があり失格とされて、この快記録も消え去ってしまった。

吾々としては、今迄女子の引継ぎは非常に遅く、記録上大変損をしているので、練習に依ってこれを補うべく努力し、その通り引継ぎで決して反則とは思わなかったもので、上訴審判迄抗議したが入れられなかった。

全員好調であっただけに、あきらめ切れないものがあったが、やはり反則と見られるような引継ぎについては大いに反省しなくてはならない。

全種目金メダルの期待は遂に崩れた。

5月31日(最終日)

男子100m自由形予選 (1.00)

(A組) 1着 古賀学(日本) 59.1
2" 高嘉弘(中国) 1:00.4
3" エルネスト・マピリ(比) 1:01.4
(B組) 1着 横地森太郎(日本) 59.3
2" ダクラー・アラバニ(比) 59.6
3" A. マリク(パキスタン) 1:05.8

古賀、横地とも軽く1位で通過、しかしアラバニ(比)高(中国)共に泳ぎもよくスプリントも相当あるので、決勝には大いに警戒を要する。

男子100m自由形決勝 (3.50)

1着 古賀学(日本) 58.3
2" 高嘉弘(中国) 58.8
3" 横地森太郎(日本) 59.1

古賀を中央にして、横地、高(中国)、アラバニ(比)と激しく争い、僅かに横地がリードして前半を廻り、依然として混戦、75m迄横地が有利だったが、古賀よくスパートして半ストロークの差、続いて高(中国)がラストよく出て、横地を抜いて2位、横地は3位となる。高とアラバニが、予想外に強く苦戦であった。

女子100m自由形決勝 4.05

1着 佐藤喜子(日本) 1:06.0(日本新)
2" ヘイディ・C.エスピノ(比) 1:06.4
3" 神野眸(日本) 1:06.7

前回マニラ大会の勝者コロソが依然として強いので、佐藤、神野共安心できない。スタートは佐藤うまく水に乗って飛び出しエスピノ、神野をグンと引はなし、楽々とその儘逃げ切るかと思っただが、後半ゴール前佐藤がやや浮き気味の処をエスピノと神野が追い込んで来たが、その儘ゴールした。ベテランのエスピノと神野が意外に強くよいスプリントをしていたのが目立った。

男子200mバタフライ決勝 (4.20)

1着 石本隆(日本) 2:21.4(日本新)
2" 開田幸一(日本) 2:24.2
3" フレッド・エリザルデ(比) 2:47.7

日本の石本、開田以外は全然問題なく、この2人がはじめから飛び出す。石本は体力の不足をその美しい泳法でカバーし、全く素晴らしい泳ぎで軽い。開田も200mには自信を持っているので、前半100mは開田がややリードして1:09.6で入る。大分遅いペースであるが、泳ぎが軽いので後半を期待した。開田は後半ペースが落ちて来たが石本はその儘よく頑張り、ルール改正後の最高記録をマークした。

女子100m平泳決勝 4.40

1着 高松好子(日本) 1:24.1(日本新)
2" 青木政代(日本) 1:27.7
3" リア・トピン(インドネシア) 1:28.3

風邪で体の調子の悪い高松であるが、問題なく最初からリードして日本新で優勝。青木もよく頑張って2位を確保。高松は泳ぎも大きく力強くなって来たので、早くペースを覚えて国際クラスに入って貰いたい。

男子800mリレー決勝 (5.00)

1着 日本(山中・福井・藤本・梅本) 8:29.5(日本新)
2" 比(ロサダ・パボル・サイラニ・アラバニ) 9:06.7
3" 中国(林・孫・季・高) 9:39.0

トップ山中は自己の200m正式計時を目標に飛び出す。泳ぎは非常になめらかであるがスピードは物凄。100mラップは59.5で早いペースだ。その儘グイグイ出て遂に2:03.6の世界新で福井に引継ぐ。福井もよく頑張る2:07.5第3泳者藤本2:03.6アンカー梅本2:09.8でヘルシンキで作った日本記録を破った。今度のオーダーは山中を除いてはガラリと変わった若手ばかりであり、彼らで日本新記録を作った処に意義がある。今後は彼等が中心となって日本の水泳を押し上げて行くことだろうと心強く感じた。(太田記)

飛 込

(1) 候補選手選考

第3回アジア大会代表飛込選手選考会は、我国における飛込施設の関係上、またとくに大会用屋内プールの完成期日が不明確であったため競泳のそれに先立ち32年9月14、15両日神宮プールで実施された。この選考会に出場する選手は水連主催による主要競技会中、日本選手権、日本高校選手権、日本学生選手権各大会飛込競技における成績に基いて飛込委員会が予め選んだものに限定しその数は男子14名、女子7名であった。その選考会の成績により男子4名、女子4名の候補選手を決定した。

アジア大会代表飛込選手選考会結果

男子飛板飛込

1. 馬場 豊 (天御津建設) 133.70
2. 馬淵 良 (長野電鉄) 131.27
3. 坂本章八 (ミツヤ送風機) 122.06
4. 山野外嗣夫 (日 大) 121.76
5. 岩橋 弥生 (早 大) 119.34
6. 中島 義久 (日 大) 118.31

(7位以下略)

男子高飛込

1. 馬場 豊 (天御津建設) 143.37
2. 馬淵 良 (長野電鉄) 136.66
3. 山野外嗣夫 (日 大) 132.24
4. 清水 磊三 (本州石油) 130.37
5. 中島 義久 (日 大) 127.85
6. 岩橋 弥生 (早 大) 124.76

(7位以下略)

男子候補選手

馬場 豊 馬淵 良 山野外嗣夫
坂本章八 以上 4名

女子飛板飛込

1. 渡辺久美子 (日 体 大) 120.62
 2. 角倉佐久子 (日本生命) 116.97
 3. 津谷鹿乃子 (松蔭短大) 109.31
 4. 宮本まさみ (天理大) 97.91
 5. 山中不美子 (日 体 大) 96.79
 6. 渋谷順子 (横浜タンク, クリーニング) 91.80
- (7位以下略)

女子高飛込

1. 津谷鹿乃子 (松蔭短大) 76.24
2. 渡辺久美子 (日 体 大) 75.30
3. 宮本まさみ (天理大) 70.17
4. 山越美香 (日 体 大) 59.33
5. 渋谷順子 (横浜タンク, クリーニング) 53.27
6. 葛日千鶴子 (高知小津高) 50.32

(7位以下略)

女子候補選手

渡辺久美子 津谷鹿乃子 角倉佐久子
宮本まさみ 以上 4名

(2) 強化練習

以上の如く8名を候補選手とし飛込委員会において種々検討の結果下記の如き強化合宿練習を実施した。

(イ) 第一次強化合宿練習 (冬期)

期日 昭和33年1月4日～13日

場所 東大室内プール 宿舎 本郷太栄館

この合宿練習は競泳と共に行ったので実際に水に入れる時間は午前、午後合せて1日に3時間位であったが、選考会以後の身体の復調をはかるため飛込の基本動作(1米飛板における助走踏切等)及び柔軟体操を主として行った。合宿当初においてはまだ非常に身体が硬い者も見受けられたが、後半に到って各選手とも漸次復調の様子が見られ、大いに効果の上ったものと確信する。

(ロ) 第二次強化合宿練習 (春期) と選手決定

期日 昭和33年4月21日～5月2日 (13日間)

場所 長野県野沢温泉プール

宿舎 野沢温泉観光ホテル

ここではシーズン初めとはいえ相当なハード・トレーニングを行い、基本技術及び飛板、高飛込両種目の整備を中心とした。この練習で各選手とも非常に良好なる成果を得たので、名の候補選手はそのまま正式にアジア大会の代表選手と決定した。

(ハ) 第3次強化合宿練習

期日 昭和33年5月6日～13日

場所 東京都屋内プール 宿舎 日本青年館

野沢の合宿練習に引続き、屋内プールの完成をまって合宿を都屋内プールに移し、選手団結成までいよいよ最後の本格的練習に入った。

馴れぬインドア・プールのためか、各選手とも今迄と異ったふん囲気にややとまどった感があったが、数日の中には環境にも馴れ、間もなく軌道に乗せることができた。

また選手団結成以降も競泳、水球、飛込各部門の連絡が非常に緊密であったこと、開催国という有利な立場にあったことのために競技開始までの練習時間等は申し分ない程十分なものであった。即ち午前2時間半、午後3時間半、計1日6時間、選手人当たり平均約150回の練習をすることができた。シーズン始めにも拘らず、例年の最盛期に近いコンディションに迄持ってゆくことができたのは誠に成功であったといえよう。

競技が近づき外国選手も順次到着したが、男子ではイランのフアシィ・マヌチエル（飛板）、アザミ・ハッサン（高飛込）韓国の李弼中（飛板、高飛込）女子では中国の戴霞（飛板）等は何れも我国B級選手位の実力とみ受けられる程度で、前回マニラ大会で毛利、馬場等と熱戦を展開したイスラエルのラーナン、インドのタカル等の参加がなかったのは物足りない感じであった。

（3）大会経過

5月28日（第1日）女子高飛込競技には外国からの出場申込がなくわが国の渡辺と宮本との間で優勝が争われる結果となった。この種目で渡辺は昨年度の日本選手権者であり、また宮本は前回マニラ大会の優勝者、ヘルシンキ、オリンピック大会出場という国際競技出場経験充分で何づれが覇を称えうるかは予測できなかった。渡辺は最初やや硬くなり規定第一の前途中宙返り一回半においては僅かにの得点を得たに止まった。然し乍ら次の種目から落着きを取戻し自己のペースで競技を進め、得点合計81.76という立派な成績で優勝、宮本も敗れたとはいえ堂々たる態度で競技を行い、自己の最高である80.15点で銀メダルを獲得したのは、ともに賞讃に値した。

5月29日（第2日）男子高飛込

第2日目の男子高飛込競技には馬淵、山野が出場した。最初から馬淵がフォームの整った確実性のある飛込でリード、山野も健斗してこれを追ったが及ばず、馬淵が優勝、次いで山野が第2位となり、イランのアザミ・ハッサン、韓国の李弼中を大きく引離して完勝した。

5月30日（第3日）女子飛板飛込

津谷、角倉が出場、規定飛では津谷が僅かにリードしていたが、選択飛に入って角倉が良く頑張り、最後の一種目まで大接戦を演じ覇を競ったが、さすがに競技経験に一日の長ある津谷がベテラン振りを発揮し133.74で優勝した。第3位の中国の戴霞は体力的にも、また技術的にも格段の相異があり、わが2人には遙かに及ばなかった。

5月31日（最終日）男子飛板飛込

最終日の男子飛板飛込競技は、日本の馬場、坂本、イランのフアシィ・マヌチエル、韓国の李弼中の4名出場により行われた。馬場は独自のスプリントを生かしたスケールの大きな飛込で最初から他を引離し、得点142.49で楽勝、坂本は国際競技というふん囲気に吞まれてか前半やや上り気味で踏切が不安定であったが漸次復調し、これも自己の最高得点133.91で第2位となった。イランのフアシィは柔軀な身軀と良い素質を持つ将来性の大きい選手であったが、助走踏切等の基本技術に未熟な点が多く坂本に次いで第3位入賞は順当な結果であった。4位の李には未だ経験も浅く然も練習不足の感が強かった。（岩佐記）

水 球

（1）選手候補

昭和32年8月日本選手権大会が終了後、パリーの世界学生選手権（F I S）に参加した代表選手（10名）を中心とし、これに春季関東学生水球リーグ戦以後の各競技大会の結果から特に国際競技で十分な活躍を期待できる選手を選び加えて、第一次候補22名を決定（G K 4名、B. W. 9名、F. W 9名）

昭和33年4月中旬の野沢温泉プール強化合宿における最終日に、それまでのあらゆる練習過程を参考として最終代表選手11名を下の通り内定、選手選考委員会の議を経て確定した。

G. K 加藤 峯男(早大OB) 佐藤 賢助(日大OB)
B. W 沢村 正一(日大OB) 浅沼 寛治(中大4年)
小野 洋(日大OB) 遊佐 孜(中大4年)
F. W 佐藤 孝尙(慶大OB) 高木 弘毅(日大4年)
宮村 元信(日大4年) 橋本 利夫(中大4年)
オールラウンダー A. L. 荒川 八郎(慶大OB)

（2）強化練習

1954年第2回アジア大会（マニラ）の優勝戦でわがチームがシンガポールチームに4対2で敗戦した結果を反省し、また1956年メルボルンオリンピック大会に視察員として派遣された鴎田武氏の蒐集した貴重な資料を参考として、また1957年パリー学生選手権大会に出場した各選手並びに鴎田監督の体験及び報告を十分検討して、今回のアジア大会に備える練習目標を決定した。しかし、

(1)アジア大会準備のためにはシーズンオフで練習場が限定され、野沢温泉プール及び東京都屋内プールを使うまでは基礎練習に重点を置いた。そして従来考えられていた日本チームの特長である泳力に加えて水中よりの強力なる出足、浮力、敏捷なる身のこなしに約8割以上の

練習力を注ぐ。

(ロ) 4月中旬になって野沢温泉プールで合宿、5月初旬より東京都屋内プールを使用してチームゲームの特質たるコンビネーションに練習の重点をおく。

い総ゆる角度から検討してみても、シンガポール以外にこれという敵はなく、インドネシア、香港、フィリピンなど他の参加チームは何れも大学一部校の下位の實力程度で練習するにはあまりに差がありすぎると思われた。しかし強敵シンガポールは前回優勝の自信や、メルボルンオリンピック大会に出場の経験もあり、これとの決戦に総ゆる練習方法を研究することが必要であった。すなわち、シンガポールの特長であるボールハンドリングを如何にし阻止し、如何にして日本の特長たる速攻戦に敵を捲き込むかに練習の最大目標をおいた。

強化練習は次の通り実施された。

- (1) 昭和32年12月末までは、候補選手をそれぞれの大学におけるシーズンオフ練習に参加させ、OB選手はY.M.C.A室内プールで泳力強化の夜間練習を行う。
- (2) 昭和33年1月8日、候補選手全部をY.M.C.Aに集めて10日より14日まで準備練習に入る。
- (3) 1月14日より21日まで文京区の太栄館に合宿し、東大プールを利用して強化練習を行う。
- (4) 1月23日から2月28日まで、Y.M.C.A室内プールで月曜日及び木曜日を全員集合日と定め、他の日は各人毎日2時間以上の練習を行う。
- (5) 3月1日より同月21日までプールで月、火、木、金、土全員練習。
- (6) 4月1日より同月10日まで東大プールで1日約3時間の練習
- (7) 4月11日より同月21日まで、野沢温泉プールで最終代表選手決定のための強化合宿を行う。
- (8) 4月25日より30日まで東大プールにて練習。
- (9) 5月5日より同月11日まで青山日本青年館に合宿、東京都屋内プール及び東大プールを利用して練習。
- (10) 5月14日アジア大会選手村に入村、以後東京都屋内プール及東大プールにおいて最終的練習に入る。

このようにして32年シーズンオフから引続いて数度の強化練習を重ね、総ゆる準備に万全を期した積りであったが、技術的には希望の約7割程度しか達成できないまま大会期日は既に目前に迫っていた。

第1次候補決定後大会までかなり期日があり、余裕をもってチーム結成ができるものと信じていたが、二つの点で困難につき当たった。第一に練習場難があった。冬期の水球練習用プールとしては、都内にはこれまで東大プールしかなく、これを競泳、飛込、水球の三部門で使用する有様では、時間的にかなり無理があった。第二に

学生、O.B.の混合であるためかなり練習時間の喰い違いができた。また学生の試験期及び卒業生の就職等によって練習が相当妨げられた。しかし各選手は必勝の意気に燃え、しかも日本水球界の期待にこたえられてこれらの困難を克服して猛練習に励んだわけである。

現在日本のもつ力をフルに発揮するには苛酷のようであるが猛練習を要望し、如何にして苛酷な練習から如何にして最上のコンディションに仕上げるか、能力、技術に差のある選手を一つのチームにするためには、大会前に各国との練習ゲームを重ねるほか、各人のテクニク、基礎補修を重要視しなげねばならなかった。

特に、試合前の5日間は、コーチとしてもコンディション調節に最善を尽した。そのもって行き方は、結果的にみて、殆ど100%に近い理想のチームとなすことができたと思ふ。

(神田記)

(3) 大会経過

5月28日から始った大会にはシンガポール、インドネシア、香港、フィリピン、日本の5チームが参加した。試合の方法は、

- (1) 総当りで、リーグ戦方式で行う。ただし延長戦は行わない。
- (2) 勝利チームには2点を与え、引分けの場合は各1点を与える。
- (3) 勝利点と同じ場合は、次のゴール・アベレージで決定する。 得点/失点×100
- (4) ゴール・アベレージが同じ場合は、そのチームの間で最終決勝を行う。

(この場合、勝敗が決まるまで延長競技を行う)

5月28日(第1日)

日本 22 { 11 ~ 0 } 0 香港

レフェリー、エラヒー(イラン)

得点、高木8、佐藤5、沢村4、浅沼3、宮村2

この試合はスコアが示す通り一方的な試合であった。前半はR・F・高木にボールを集め過ぎてチーム全体の動きがにぶくなり、相手方の特定の防禦方法でこちらの攻撃力を半減される傾向が見えた。そこで後半はバック陣より攻撃をさせ、鋭い出足を利用してノーマークを作り、ゴール前で相手方バック陣を混乱させ、フォワードにシュートチャンスを与えゴール・キーパーを左右に振って得点する正攻法をとり、順調に試合を運ぶことができた。香港チームは泳力が弱いのので、バック陣に泳力の強い沢村、荒川を置いて、香港の攻撃をゴール前でつぶし、攻防轉換のチャンスをつかみ、スピードを生かして相手を引離す作戦が効を奏した。

5月29日(第2日)

日本 8 $\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 5 \end{array} \sim \begin{array}{l} 1 \\ 1 \end{array} \right\}$ 2 インドネシア

レフェリー、ウー (香港)

得点・日本、高木3, 宮村2, 沢村2, 佐藤1,

インドネシア、リム・シンブンウ, 1
イ・テン・ピー, 1

インドネシアチームはゴール前に強力なフローティング、フォワードを置き、的確なパスを中盤のH・Bから受けてシュートを定めて居り、ゴール前のバックは身体の大きい、リーチのあるプレイヤーを据えている。たての線の強い特色のあるチームで、丁度シンガポースを少々小粒にした様なチームなので、こちらも対シンガポール戦を前提にした作戦でのぞんだ。つまり中盤のマークを水あきをつけずに競り合いの位置でやらし、フローティング、フォワードへのパスをカットする。競り合って相手のパスを狂わせるようにして、タイムリーなシュートをつぶし、ゴール・キーパーにとめさせて逆チャンスをつかんで速攻にうつり、ゴール前で、ボールを左右に廻して、ゴール・キーパーを振り切り、コーナーへシュートを定める。このような戦法をとって試合にのぞんだが、全般的にラフなゲームとなり、インドネシアチームも日本チームの出足を警戒して、ボディ・タックルがひどく、出足をつぶされ勝ちとなった。また第一戦の香港戦同様R・F高木にボールを集めすぎたため、ゲームが硬着状態におちいり動きがにぶくなってしまった。前半は高木がマークされ殆んどシュートができない状態になったので、後半はC・F佐藤をゴール前に置き、高木を二段目に下げて動き易くして、宮村とのコンビで左右から攻撃するように試みた。しかし前半にも増してゲームがエキサイトし、退水者が続出して、少数防禦のやむなき窮地におこまれた。2・1・2のゾーン、デフェンスが効を奏してインドネシアの攻撃を阻止し、最前列の宮村、沢村、のスピードに物をいはせて速攻に移り、相手を引離して得点するという機会が2回もあった。しかしここで特に注意すべきことは、相手のラフなボディ・タックルに対して感情的になり、ミスプレイが続出してコンビネーションがくずれ、自己のペースで試合を運ぶことができなくなったことである。ゲームはあくまで冷静的確な判断力を失はぬよう心掛けなければならないことを痛感した。

5月30日 (第3日)

日本 17 $\left\{ \begin{array}{l} 8 \\ 9 \end{array} \sim \begin{array}{l} 0 \\ 0 \end{array} \right\}$ 0 フィリッピン

レフェリー、シャープ (香港)

得点 高木6, 佐藤5, 沢村2, 浅沼2, 小野2

フィリッピン・チームとは試合前数回に亘り練習ゲー

ムを行ったが、ボール、ワークも悪く、泳力も弱いチームなので、速攻戦法が効果的で殆んど全員で得点できたが、チーム全体の動きは思はしくなかった。下痢気味の宮村を明日の対シンガポール戦に備えて、大事をとり休場させたためフォワードのコンビが悪く全体のコンビネーションにちぐはぐな感を示した。

5月31日 (最終日)

日本 4 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 3 \end{array} \sim \begin{array}{l} 1 \\ 1 \end{array} \right\}$ 2 シンガポール

レフェリー、エラヒー (イラン)

得点・日本・高木3, 荒川1,

シンガポール・エン・テック・ガン2

シンガポール・チームとの試合は予想通り決勝戦となった。シンガポールチームについては、試合前の一度の練習試合でその実力打診をしていたし、他チームとの練習試合や大会第1日以来の試合を通して研究を重ね、その結論に基いてこちらの作戦を考え試合にのぞんだ。シンガポール・チームの特色は、ボール離れが特に早く、ゴール前のフリスローを極度に活用していることであった。しかし、ずばぬけたゴール・ゲッターがなく動きながらシュートを定めていた。またゴール前のバックは非常に強力で、ここでシュートを阻止するか、狂わせるかして、チャンスメーカーとなり、ゴール・キーパーからのパスをタイムリーにそして正確に味方のフォワードにパスして攻撃の原動力となっている。全般的にいうと、攻防転換を利用しての速攻戦法をとり、バック陣より飛び出してチャンスを作って味方フォワードの攻撃を積極的に援助し、またみづからも直接相手陣内に突込んで得点をするという傾向で、いわば日本チームと同型のチームである。そこで対シンガポール戦の対策としては、相手のパスワークを積極的なタックルで乱し、タイムリーな出足を押えて、フォワードとバックの線を切断して相手のペースを乱す。ゴール前と中盤に泳力60秒台の沢村、荒川、宮村の3人を置いてスピーディーな動きと早いパスワークで相手の防禦体勢を乱す。同時に、逆チャンスのマークチェンジにも備えて攻防両面に威力を発揮出来るメンバーを組み、試合が硬着状態におちいった場合には、C・F、佐藤、R・F、高木のスクリーン、プレイにパスを集中して得点して行くとう2本立ての戦法をとった。試合は最後迄一進一退の状態であったが、結局はあく迄ボールに喰いついて行った積極的な攻撃と、相手の出足を押え、バック陣からのチャンスを含めてつぶし、相手のペースを乱すことに成功したのが勝因であったと思う。かくして4日間にわたる試合終了。4戦全勝で優勝することができたことは誠に喜ばしいことであると同時に、これにより2年後のローマ、オリンピック

大会の参加を約束された今日、本大会をかえり見て、次期ローマ大会には如何なる対策にてのぞむべきかを考える必要があると信ずる。第一に本大会をかえり見て考えられることは、昨年のパリ国際学生大会の参加及オランダ遠征によって得た幾多の体験から結論的に基礎技術の向上を第一主義に考えて1月から3月迄泳体力、出足、廻転技術と全くボールを忘れてこれらの事に全力を集中して練習し、ほぼこちらの考えている線迄引き上げることができたので第二段階としてこれらの基礎技術を含んだハンドリング及フォーメーションの練習を4、5月でやり最終の仕上げをした。従って日本チームのフォーメーションとしては、泳力と、出足、回転を生かした速攻を第一に考え、遅攻の方法としてはゴール前のスクリーンプレイとリレー・シュートを併用して行く様に構成し、防禦方法としては、マン・ツー・マンのインサイド・マークとゾーン・デフェンスを練習して五分の体格の時にはマン・ツー・マン・少数防禦の時はゾーン・デフェンスを用いる様に練習して本大会に臨んだ訳である。

結局シンガポールと接戦の末優勝したが、これの一番大きな力となったのは、昨年のパリー大会に出した選手が8人本大会に参加して昨年からの練習と試合による体験とを生かして基礎練習に精進して他の選手を引張ったことにあるのではないかと思う。

しかしここでわれわれとして第回アジア大会から学ぶべきものはなにかという事を考えて見ると、

(1) ボール離れが誠におそい、いいかえればボールを持ち過ぎて、パスやシュートが一瞬おくれて、あたりチャンスが失っていること、これは速攻を主眼にして動く事を主体にしたプレイに致命的なブレーキである。これは是非共正確で素早いパス、及ボールの切れのよいシュートをマスターすべきであると思う。

(2) ゴール前のマークの研究、特にバック・マンとしての浮力の強化。

(3) ゴール・キーパの強化・育成。

この三つが研究課題として挙げられると思うが、この三つのことをこなして行くことが来るべきローマ・オリンピックの強化対策の重要な問題であり、これを育成して行くことが日本の水球が現在より一步前進して行く原動力となると考える。(鷗田記)

大会一般概要

小さな失敗面は若干あるとしても一般的にいうと水上競技は成功したといえよう。会場が狭いながらも良くまとまっていたこと、役員が数度の国際大会で運営の要点を良く理解していたこと、又英語を話せる役員の多かったことなどが、この成功に大きく寄与した。競技結果か

らえば殆ど全種目の金及び銀又は銅のメダルを独占し、記録的にも立派な水準を示して、日本チームの独り舞台の感があったのに、外国の選手、役員はあげて日本選手の活躍を称讃し、かつ自己の将来のための有益な参考として日本チームの技術その他を学び取ろうとするなど、国際親善にも多大の貢献をなしたことを考える。

さて大会の運営について二、三感想を述べてみたい。

(1) 会場整理問題

(i) 入場券の作り方

会場別、日付、席別(上段下段等)の区別がはっきりしないため大変困った。馴れない人が入場をさせるお客の切符を敏速確実に見分けるためには色分けや模様分けなどの工夫が必要である。

(ii) 入場券販売に就て

競技会入場の運営に就ては体育館側と水泳連盟とだけがその衝に当たっていたが入場券の販売に就てはその方法、数量等について、組織委員会の方から何も相談がなかったため定員以上の入場券を発行し、あとから回収したり補助席を作ったり大騒ぎを演じた。組織委員会が総べての入場券を一括統制するよりは各競技団体と話し合っって運営した方が寧ろ円滑にいったのではないかと思はれる。

(iii) 無料入場者の件

(i) パッチにより入場できる外国役員の取扱いは、途中で水泳場のみ変更されたことが各国に伝わっておらず、このため例えばパキスタンの水泳監督が入場を拓否されるような非礼なことが多かった
(ii) 入場証による外国選手の入場も同じであった。英語の語せないゲイトの人間との押問答で不愉快な思いをした選手も多いことと思う。

(iii) 招待席その他予め充分な予備を見ておくべきであった。この扱いがうまく行かなかったため、試合当日になって不要な心配をしなければならなかった。

(2) 組織委内部間の意志の疎通

例えば5月14日に行ったエントリー会議のことは4月中から日を指定して数度に亘り競技部に申し入れしていたにも拘らず、各国アタッシェに連絡すべき渉外部がこのことを聞いたのは当日午前11時だということで、その時は既に各国共、他会議に出かけた後であり、重要な議事を極く少数者の出席丈で決定せねばならなかったりした一つの部内でも誰某と指定して個人に話をしなければ重要なことでも他の人は何も知らなかったり又逆に世界記録その他のことに関して、競技、報道外の部から全く同じ質問を受けたりするような状態であった。

つまり組織委員会を横に何部々々と並べるよりも窓口

を決めて、水泳担当は誰某と縦に責任を持たせる方が良かったように思はれる。

以上極端なことだけをあげたのであるがこれらは何れも機構の不備、事務の不馴れ、準備不足等から来るミスであって組織委各位は少人数なるにも拘らず、縁の下の力持としての努力を黙々として尽されたことは深く感謝する。特に体育館建設事務所及び報道部の方々の献身的な御協力には感激している。

(3) 試合運営概要

大会準備に比すれば試合の運営は遙かに円滑、且安易であった。外国選手団から運営上の抗議もなく、極めて円満に進行した。

プールに関しては竣工後試合迄の日数が僅か1ヶ月足らずしかなかったため会場への馴れが不十分でこのため折角の新プールの機能を100%発揮出来なかった憾みがある。

新しい施設はいきなり本番にはいる前に、ある程度使用して十分知り尽くす必要があることを痛感した。

(4) 練習場関係

練習場としては都屋内プール及び東大プールの2ヶ所を使用した。初め各国選手団が全部到着するまでは2ヶ所あれば良かったが、期日が迫るにつれ、競泳の

みならず、水球、飛込と三部門を2ヶ所のプールで調整するのは不十分であった。このため、水球は夜の9時頃迄の日程を組まざるを得なくなり、数々の不平も出た。以上の結果から練習用プールはアジア大会位の規模においてさえ最低3ヶ所は必要であろう。又練習場におけるコースラインや水球ゴールの出し入れ等の要員の手当がつかず、止むを得ず日本選手団が自分でやったのであるが、この様なことは迅速適切な方法を講じないと練習不能の場合も生じたりするのではないかと心配した。

(5) 水泳関係

施設並びに水球用具 施設競技用具の購入についてはN.S.R.と連絡を保って行はれたが細部においては都の購入組織の煩雑さのため、不適のものも出た。今後、研究を要する点である。

練習プール 水球の練習は競技の関係上プール一面を使用するので、参加チームが多いと競泳も含み練習時間がなく各国とも困った。充分準備する必要がある。

外国役員 水球に就いては、オフィシャル・レフエリーの制限があるので、外国役員の参加は早めに決める必要があろう。水球の場合は、遅れてくる人もあり大変困った。(丹羽記)

アジア大会各国参加選手一覽表

		アフガニスタン	ビルマ	カンボジア	セイロン	台湾	香港	インド	インドネシア	イスラエル	日本	韓国	マレー	ネパール	北ボルネオ	パキスタン	フィリピン	シンガポール	タイ	ペトナム	合計	
陸上	男子	6	1	6	14	2	20	1	8	2	46	15	12	3	5	20	18	2	8		189	
	女子				9	1	5	1	2		17	2			3	11		4			55	
水球	男子			1	7	1	8	2	5	24	1	2			4	17	4		1		80	
	女子				7	6	4(9)	6(11)		11	20	1	1			11	10	6(10)			45	
テニス	男子	1		3	4	4	4	3	4	4	4	2		2	2	4	4	4	3		48	
	女子				2	2	2	2		2	2				2	2					12	
卓球	男子			4	4	4	4	4	4	4	4	4		2(2)		4			4		29	
	女子			4	4	4	4	2	2	4	4	4		1		4					19	
サウホ重	男子	19		22	22	22	18	22	18	21	22	18	18		18	20	16		18		272	
	女子			4	4	4	22	1	1	16	4	4			5	2			6		38	
レスリング	男子	2	4		8			4	8	8	8	8	4		4	6	4				60	
	女子	6						8	8	8	6	2			8	6					44	
バスケットボール	男子	6	1		8		3		9	10	7				5	6	2	6			63	
	女子		10		14	13	3	14	3	4	14	12	14		3	5	2	5			132	
ラケットボール	男子				1		(14)			1	1	1			1						5	
	女子				15		14	11	10	11	12				15						57	
バドミントン	男子				6					6					(15)				6		46	
	女子				4					17	2										18	
合計	男子	8	36	12	10	114	72	74	61	79	23	244	115	75	6	5	87	128	53	43	32	1277
	女子						(77)	(66)							(7)			(57)				
合計	男子	8	36	12	11	136	80	79	66	83	23	287	120	80	7	8	87	152	54	47	32	1408
	女子						(85)	(71)							(8)			(58)				

カッコ内の数字は他種目と重複して出る人数を示す

第3回アジア大会日本水泳チーム

監督選手氏名 (役員9名 選手55名)

監督 北村久寿雄 (40) 東大出
マネジャー 菊池章 (34) 東京体專出
 " 浦畑チヅ子 (22) 帝塚山学園出
競泳コーチ 太田光雄 (36) 立大出
 " 赤樫卓爾 (31) 慶大出
 " 永井武治 (27) 日大出
飛込コーチ 岩佐道雄 (38) 慶大出
水球コーチ 辨田武 (33) 日大出
 " 神田明善 (35) 慶大出

男子競泳選手 (20名)

主将 古賀学 (22) 自由型 早大出, 富山トヨタ
 横地森太郎 (18) " 早大出
 福井誠 (18) " 浜田高出, 八幡製鉄
 藤本達夫 (18) " 中大1年
 北原一彦 (18) " 伝習館高出
 梅本利三 (17) " 五条高3年
 山中毅 (19) " 早大2年
 石井宏 (18) " 日大1年
 丸山長敏 (19) " 佐伯鶴城高出, BSタイヤ
 富田一雄 (19) 背泳 日大2年
 二宮英雄 (20) " 慶大3年
 長谷景治 (22) " 早大出, 倉敷レーヨン
 渡辺和夫 (20) " 日大2年
 古川勝 (22) 平泳 日大出, 京都大丸
 太田勝 (22) " 早大4年
 杉山明男 (23) " 日大4年
 和気統 (18) " 瀬戸田高2年
 石本隆 (22) バタフライ 日大出, 無煙ボイラー
 増永文昭 (19) " 日大3年
 開田幸一 (19) " 中大2年

女子競泳選手 (16名)

神野眸 (21) 自由形 天理大中退, 淑徳中教員
 島田節子 (19) " 五条高出, 東洋レーヨン
 佐藤喜子 (20) " 天理大3年
 芝原笑子 (16) " 天理高2年
 中沖滋代 (18) " 成女高出, 白木屋
 和田映子 (18) " 天理大1年

大宮涼子 (19) " 淑徳高出, 東洋レーヨン
 高松好子 (19) 平泳 天理大2年
 小田切紀子 (20) " 筑紫女学園出, 旭化成
主将 青木政代 (22) " 帝塚山短大出, 三冷社
 田中聰子 (16) 背泳 筑紫女学園1年
 岡本節子 (18) " 五案高出, 白木屋
 村瀬里子 (20) " 天理大3年
 宮部シズエ (20) バタフライ 天理大3年
 片岡幸子 (17) " 五条高2年
 寺垣内達代 (19) " 帝塚山大1年

男子飛込選手 (4名)

主将 馬淵良 (25) 日大出, 長野電鉄
 馬場豊 (25) 早大出, 天御津建設
 坂本章八 (25) 日大出, ミツヤ送風機
 山野外嗣夫 (20) 日大2年

女子飛込 (4名)

主将 宮本まさみ (21) 天理大出, 高岡女高教員
 津谷鹿乃子 (20) 関西学院大学1年
 渡辺久美子 (21) 日体大3年
 角倉佐久子 (21) 泉尾高出, 日本生命

水球選手 (11名)

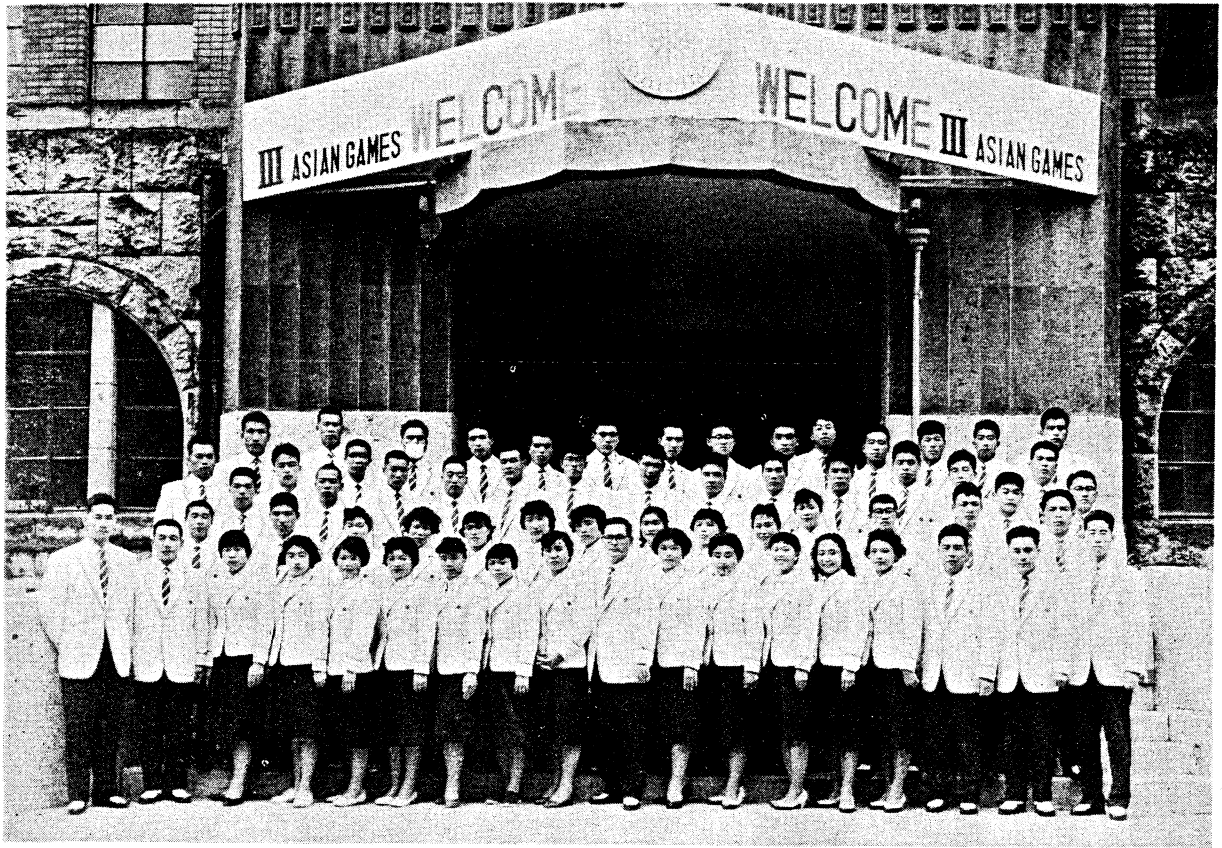
主将 佐藤孝尙 (25) 慶大出, 太平山酒蔵
 加藤峯男 (24) 早大出, 横河電機
 沢村正一 (02) 日大出, 荒忠商店
 小野洋 (22) 日大出,
 浅沼寛治 (23) 中大4年
 遊佐孜 (20) 中大4年
 高木弘毅 (21) 日大4年
 宮村元信 (21) 日大4年
 橋本利夫 (21) 中大4年
 荒川八郎 (25) 慶大出,
 佐藤賢助 (22) 日大出,

選手選考委員

委員長 樋口一成

委員 小山賢之助 小出靖彦 安部輝太郎 北村久寿雄
 太田光雄 古橋広之進 小川道郎 柴原恒雄
 西本竜三 志村義久 松沢一鶴 高石勝男
 赤樫卓爾 菊池章 永井武治

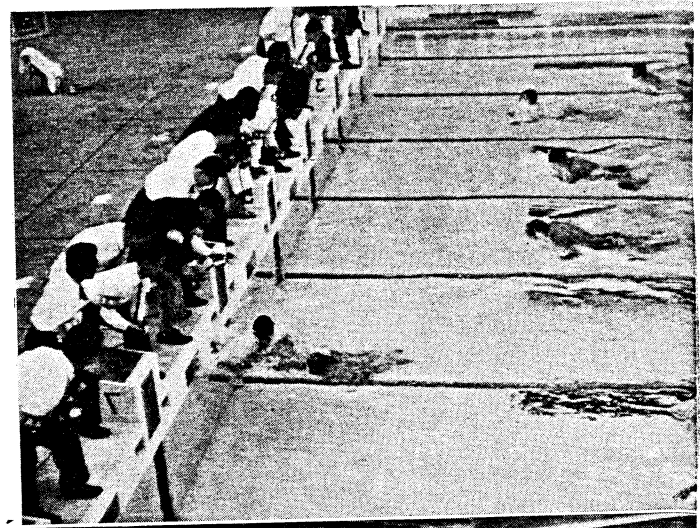
第3回アジア大会水上競技大会写真集



第3回アジア大会水上競技日本役員選手団

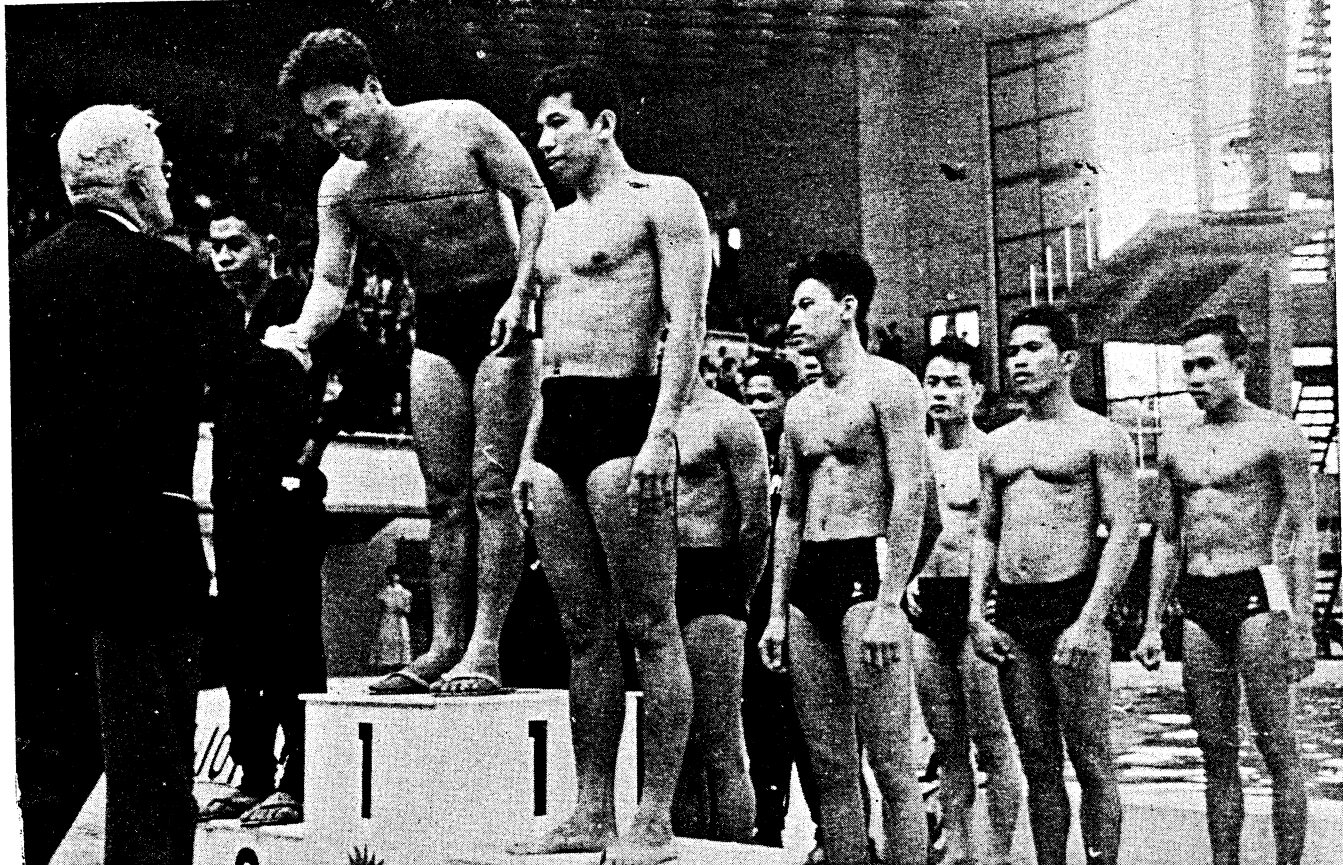


男子 100m 平泳決勝 太田 快調にゴールイン ↓



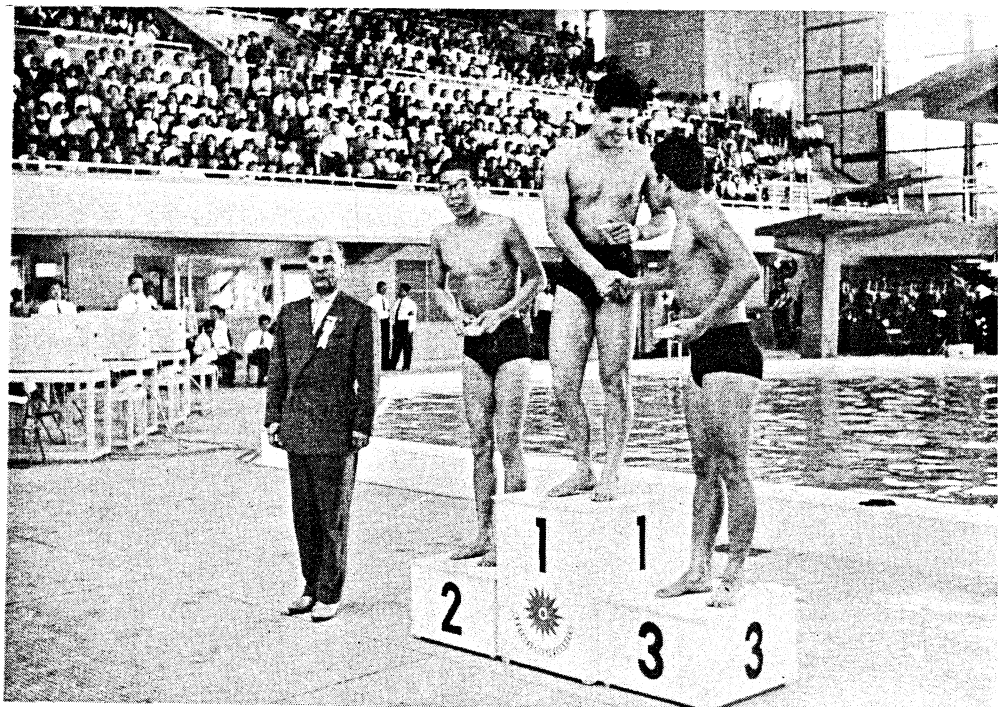
↑ 天皇、皇后両陛下下御来場、先導する樋口水連会長と津島大会組織委員長

400m メドレーリレーに日本チーム、世界新で優勝 F.I.N.A. 競技委員長ジョンソン氏の握手をうける古賀選手 ↓



↑ 女子百米背泳 優勝の田中(右)と仲良く握手する
フィリピンのJ・ボンギース(左)

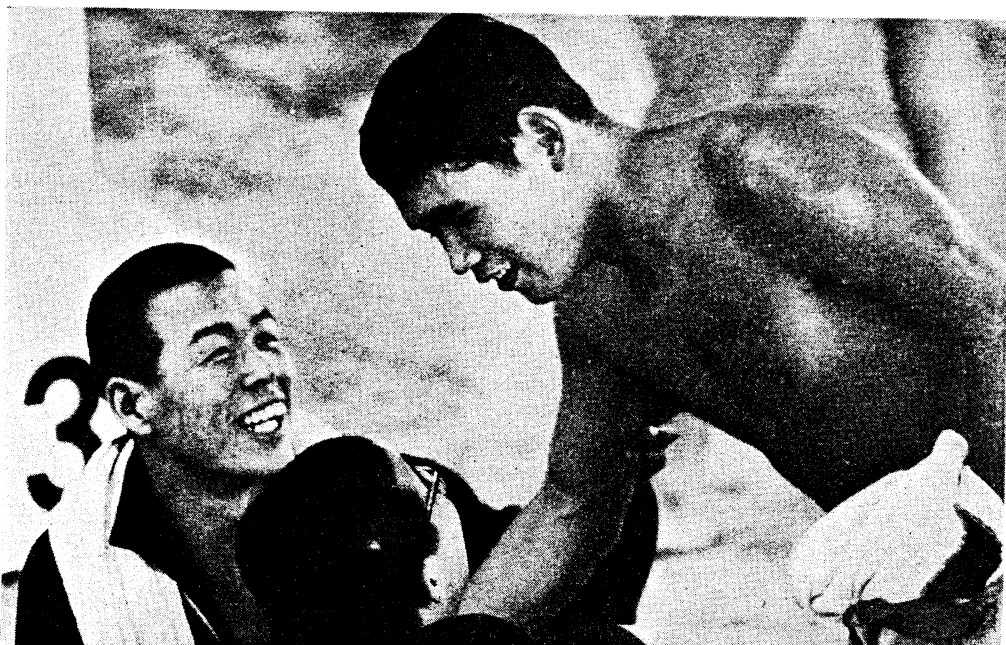
(写真は毎日提供)



男子二百米自のトリオ
 左より 藤本(日) 2位 福井(日) 1位
 ナステオン(インドネシヤ) 3位



女子 400m リレー優勝の日本チーム 左から 神野, 佐藤, 島田, 中沖



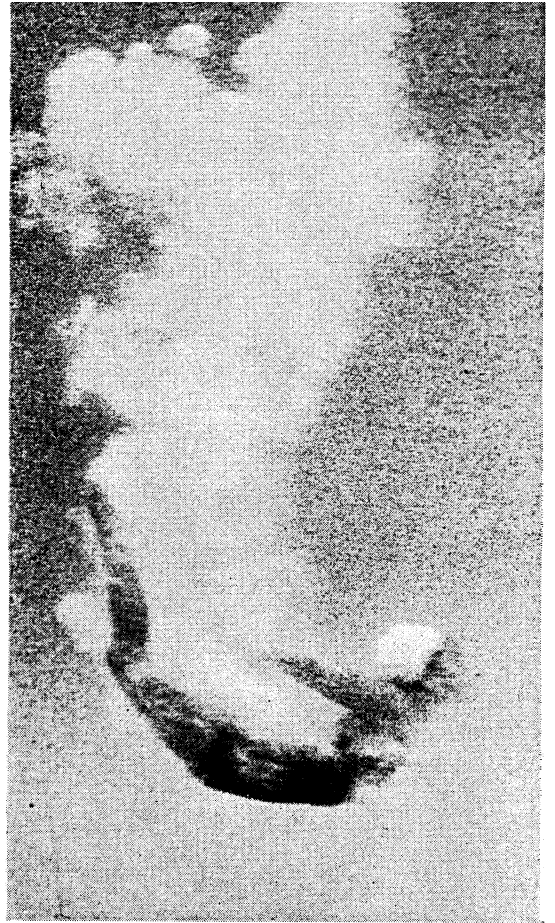
八百米リレーの第一泳者山中の世界新を
 喜ぶ梅本(左)・藤本(中)

(写真は毎日提供)

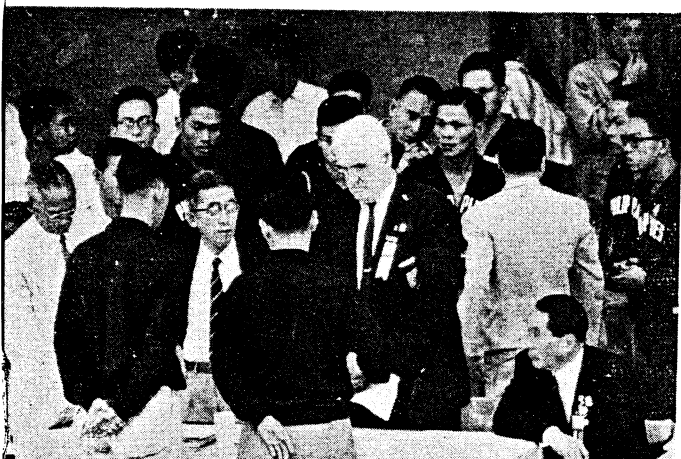
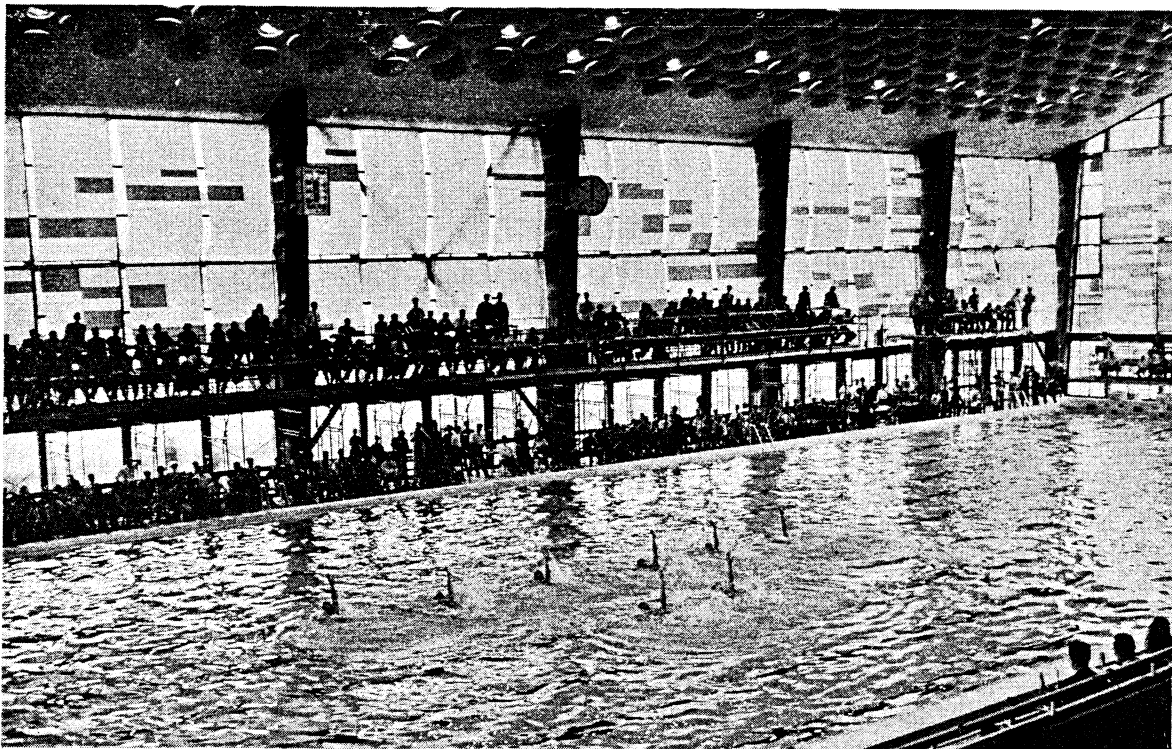
女子飛板飛込に優勝の津谷選手 →



優勝に輝く日本水球チーム ↑



エキシビジョンのシンクロ・スウイミング ↓



女子400mメドレーリレー日本チーム
に対する失格宣言に抗議する日本チーム
(後向, 右北村監督 左太田コーチ,
白髪はF.I.N.A. 競技委員長ジョンソン氏
その左, F.I.N.A. 副会長 定部輝太郎氏)

(写真は毎日提供)

第3回 アジア大会水上競技総合成績

(競泳はすべてタイムレース 100mは上位7名, その他は上位9名入選 ○印入選者)
5月 28日 ~31日 於 東京都屋内プール (50m) 公認

競 泳

男子100m自由形

予選1組

1. ○古 賀 学 (日 本) 59.1
2. ○高 嘉 弘 (中 国) 1:00.4
3. ○エルネスト・マビリ (フィリピン) 1:01.4
4. ○ライオネル・チー (シンガポール) 1:03.5
5. ○ブルマント・ムサ (イ ラ ン) 1:04.1
6. 趙 志 玲 (マ ラ ヤ) 1:05.2

予選2組

1. ○横 地 森 太 郎 (日 本) 59.3
2. ○ダクラー・アラバニ (フィリピン) 59.6
3. A. マ リ ク (パキスタン) 1:05.8

決 勝

1. 古 賀 学 (日 本) 58.3
2. 高 嘉 弘 (中 国) 58.8
3. 横 地 森 太 郎 (日 本) 59.1
4. ダクラー・アラバニ (フィリピン) 59.2
5. エルネスト・マビリ (フィリピン) 1:02.2
6. ライオネル・チー (シンガポール) 1:03.3
7. ブルマント・ムサ (イ ラ ン) 1:04.3

男子200m自由形決勝 (予選なし)

1. 福 井 誠 (日 本) 2:08.2
29.8 1:01.8 1:34.6
2. 藤 本 達 夫 (日 本) 2:08.3
29:4 1:02.5 1:35.9
3. ハビブ・ナスチオン (インドネシヤ) 2:11.7
31.6 1:04.3 1:37.6
4. 高 嘉 弘 (中 国) 2:13.2
31.9 1:02.1 1:38.0
5. アガビート・ロサダ (フィリピン) 2:13.6
29.8 1:02.7 1:36.8
6. ウルピアーノ・パポール (フィリピン) 2:15.3
30.1 1:03.1 1:39.4
7. 林 敏 善 (中 国) 2:21.1
32.4 1:07.2 1:43.7
8. ウング・ケイ・クオン (ホ ン コ ン) 2:31.0
33.4 1:10.5 1:51.1

9. A ・ マ リ ク (パキスタン) 2:32.6
32.2 1:08.7 1:49.8

男子400m自由形決勝 (予選なし)

1. 山 中 毅 (日本) 4:23.9 (世界新)
1:01.2 2:08.0 3:16.6
2. 丸 山 長 敏 (日本) 4:36.1 (大会新)
1:04.3 2:14.6 3:25.5
4. バナ・サイラニ (フィリピン) 4:40.9 (大会新)
1:04.7 2:15.8 3:29.3
4. ハビブ・ナスチオン (インドネシヤ) 4:46.9
1:07.3 2:20.1 3:34.2
5. ウルピアーノ・パポール (フィリピン) 4:55.1
1:05.1 2:19.5 3:36.9
6. 林 敏 善 (中 国) 5:18.4
1:10.2 2:31.5 3:55.2
7. 呉 祺 光 (ホ ン コ ン) 5:27.4
1:10.6 2:33.1 4:00.9

男子1500m自由形決勝 (予選なし)

1. 山 中 毅 (日本) 18:00.3 (大会新)
2. 石 井 宏 (日本) 18:28.8 (")
3. バナ・サイラニ (フィリピン) 18:45.9 (")
4. パニン・ムナップ (フィリピン) 20:18.3
5. 孫 克 勤 (中 国) 22:01.7

途中時間表 (太字は正式計時)

	山 中	丸 山	サイラニ	ムナップ	孫
m					
100	1:04.1	1:05.0	1:07.2	1:08.5	1:10.8
200	2:13.5	2:16.4	2:18.3	2:26.0	2:31.3
300	3:24.5	3:29.7	3:31.8	3:46.0	3:55.5
400	4:35.8	4:43.6	4:45.8	5:07.0	5:22.6
500	5:48.4	5:58.2	6:00.8	6:29.2	6:52.2
600	7:00.0	7:12.4	7:15.6	7:52.5	8:23.2
700	8:12.4	8:27.0	8:31.1	9:16.5	9:55.1
800	9:25.7	9:41.4	9:46.9	10:39.0	11:28.0
900	10:39.5	10:56.0	11:02.7	12:01.8	13:00.5
1000	11:53.0	12:10.9	12:19.2	13:24.8	14:34.9
1100	13:06.8	13:26.5	13:36.6	14:46.7	16:07.8
1200	14:21.7	14:42.6	14:54.4	16:11.4	17:36.3
1300	15:36.4	15:58.5	16:13.0	17:34.7	19:05.1
1400	16:51.8	17:15.0	17:31.0	18:57.6	20:34.3
1500	18:00.3	18:28.8	18:45.9	20:18.3	22:01.7

男子100m背泳決勝 (予選なし)

1. 長谷 景治 (日 本) 1:05.6 (大会新) (31.2)
2. 二 宮 英 雄 (日 本) 1:07.4 (31.2)
3. ルディオ・アグスチン(フィリピン)1:09.5 (33.4)
4. ペドロ・カイコ (フィリピン) 1:10.0 (33.4)
5. マハメッド・ナジール (パキスタン) 1:10.2(一)
6. リム・ヘン・チェック (マラヤ) 1:12.7 (34.0)
7. エマデイ・アシュテニアニ・マンズール
(イラン) 1:14.8 (36.1)
8. 袁 忠 明 (中 国) 1:18.8 (37.9)

男子200m背泳決勝 (予選なし)

1. 富 田 一 雄 (日 本) 2:22.3
32.8 1:08.3 1:44.8
2. 渡 辺 和 夫 (日 本) 2:26.8
33.2 1:09.3 1:47.5
3. ロレンゾ・コルテス (フィリピン) 2:32.6
35.3 1:12.4 1:51.9
4. レムベルト・ロザダ (フィリピン) 2:35.2
35.2 1:12.7 1:53.5
5. 林 奥 熾 (マ ラ ヤ) 2:45.6
36.4 1:17.7 2:00.7
6. 袁 忠 明 (中 国) 2:54.5
マハメッド・ナジール (パキスタン) は失格

男子100m平泳**予選1組**

1. ○李 岑 生 (中 国) 1:17.2
2. ○M.A.ウイリヤムズ (セ イ ロ ン) 1:18.0
3. ○杉 山 明 男 (日 本) 1:18.1
4. ○アントニオ・サロン (フィリピン) 1:18.5

予選2組

1. ○太 田 勝 (日 本) 1:17.5
2. ○徐 興 泰 (中 国) 1:17.6
3. ○アブバカル・シヤルマーニ
(フィリピン) 1:18.5
4. アブドル・カディール・ルビス
(インドネシヤ) 1:22.8
ガラム・アマシユガル (パキスタン) は失格

決 勝

1. 太 田 勝 (日 本) 1:14.8
2. 杉 山 明 男 (日 本) 1:16.8
3. 李 岑 生 (中 国) 1:17.1
4. 徐 興 泰 (中 国) 1:17.3
5. アブバカル・シヤルマーニ
(フィリピン) 1:18.3
6. M.A.ウイリヤムズ (セ イ ロ ン) 1:18.4
7. アントニオ・サロン (フィリピン) 1:18.7

男子200m平泳**予選1組**

1. ○和 氣 統 (日本) 2:47.5 (1:21.4)
2. ○徐 興 泰 (中国) 2:55.6 (1:27.1)
3. ○M.A.ウイリヤムズ (セイロン)
2:58.1 (1:25.6)
4. ○マリキル・アブドウガフル (フィリピン)
2:59.9 (1:26.1)
5. ○アブドル・カディール・ルビス (インドネシヤ)
3:01.1 (1:26.9)
6. ユセフザーテ・トーフイク (イラン)
3:04.2 (1:27.4)

予選2組

1. ○古 川 勝 (日本) 2:53.2 (1:23.3)
2. ○アントニオ・サロン (フィリピン)
2:53.9 (1:22.6)
3. ○李 岑 生 (中国) 2:56.2 (1:23.0)
4. ○リ・チュアン・キ (インドネシヤ)
2:58.4 (1:25.1)
5. ガラム・アシュガール (パキスタン)
3:08.5 (一)

決 勝

1. 古 川 勝 (日 本) 2:44.0
37.8 1:19.2 2:02.2
2. 徐 興 泰 (中 国) 2:47.3
39.0 1:21.7 2:05.2
3. 和 氣 統 (日 本) 2:47.9
38.7 1:21.3 2:05.3
4. アントニオ・サロン (フィリピン) 2:52.3
39.2 1:22.0 2:06.2
5. 李 岑 生 (中 国) 2:55.6
39.5 1:23.9 2:10.7
6. M.A.ウイリヤムズ (セ イ ロ ン) 2:56.1
41.3 1:26.2 一
7. リ・チュアン・キ (インドネシヤ) 2:58.2
40.5 1:24.3 2:11.6
8. マリキル・アブドウガフル (フィリピン) 3:00.2
42.5 1:28.3 2:14.0
9. アブドル・カディール・ルビス(インドネシヤ)3:00.8
42.0 1:26.0 2:12.9

男子100mバタフライ**予選1組**

1. ○石 本 隆 (日 本) 1:11.8
2. ○ウォルター・ブラウン (フィリピン) 1:15.5
3. ○ガジ・シャール (パキスタン) 1:17.9

予選2組

1. ○増 永 文 昭(日 本) 1:02.7
2. ○リ・チュアン・キ(インドネシヤ) 1:08.6
3. ○フレッド・エルザルデ(フィリピン) 1:13.6
4. ○ファン・フー・ザオン(ベトナム) 1:18.6
5. M.A.ウイリヤムズ(セイロン) 1:18.8

決 勝

1. 石 本 隆(日 本) 1:01.4 (28.3)
2. 増 永 文 昭(日 本) 1:02.0 (29.5)
3. ウォルター・ブラウン(フィリピン)
1:06.9 (31.7)
4. フレッド・エリザルデ(フィリピン)
1:07.4 (30.4)
5. リ・チュアン・キ(インドネシヤ)
1:08.6 (31.5)
6. ファン・フー・ザオン(ベトナム)
1:17.4 (34.9)
7. ガジ・シャー(パキスタン) 1:17.9 (36.8)

男子200mバタフライ決勝(予選なし)

1. 石 本 隆(日 本) 2:21.4
32.2 1:09.6 1:47.5
2. 開 田 幸 一(日 本) 2:24.2
33.5 1:09.6 —
3. フレッド・エリザルデ(フィリピン) 2:47.7
37.5 1:20.4 2:01.0
4. リ・チュアン・キ(インドネシヤ) 2:48.9
39.1 1:23.5 —
5. エバー・ハムサイン(フィリピン) 2:50.0
35.9 1:18.2 2:04.6
6. ファン・フー・ザオン(ベトナム) 2:56.8
7. M.A.ウイリヤムズ(セイロン) 2:59.6
8. ガジ・シャー(パキスタン) 3:00.2
39.3 1:25.0 2:13.1

男子800mリレー決勝(予選なし)

1. 日 本 8:29.5 (大会新)
山 中 毅 59.5 2:03.6 {正 式
福 井 誠 1:00.5 2:07.5 {世界新
藤 本 達 夫 1:00.8 2:08.6
梅 本 利 三 1:00.6 2:09.8
2. フィリピン 9:06.7 (大会新)
アガピート・ロサダ 1:02.3 2:14.1
ウルピアノ・パボール 1:03.6 2:19.5
バナ・サイラニ 1:03.0 2:16.5
ダクラー・アラバニ 1:04.7 2:16.6
3. 中 国 9:39.0
林 敏 善 1:07.5 2:20.7
孫 克 勤 1:06.9 2:26.3
李 岑 生 1:06.1 2:32.8
高 嘉 弘 1:06.1 2:19.2

4. シンガポール 10:13.8
ライオネル・チー 1:(7.8 2:27.7
ディホ・ジム・ホック 1:(8.2 2:34.4
エリク・イエオ・フン・タト 1:13.4 2:39.5
ガン・エン・ガン 1:12.0 2:32.2

男子400mメドレー・リレー決勝(予選なし)

1. 日 本 4:17.2 (世界新)
長 谷 景 治 1:05.5 (正式)
古 川 勝 1:13.4
石 本 隆 1:00.4
古 賀 学 57.9
2. フィリピン 4:37.7
ルディ・アグステン 1:10.0
J・カイコ 1:18.9
フレッド・エリザルデ 1:10.4
ダクラー・アルバニ 58.4
3. インドネシヤ 4:48.0
チオ・シヨー・ホン 1:14.8
アブドル・ガディール・ルビス 1:22.7
リ・チュアン・キ 1:10.7
ハビブ・ナスチオン 59.8
4. パキスタン 4:56.3
アハメッド・ナジール 1:10.2
ガラム・アシュガル 1:17.6
ガジ・シャー 1:18.5
アブドル・マリク 1:05.5
5. 中 国 5:00.5
袁 忠 明 1:18.8
李 岑 生 1:17.6
林 敏 善 1:24.5
高 嘉 弘 59.6
6. ホンコン 5:17.8
ウオン・ケイ・チュ 1:23.5
ウオン・クン・ファイ 1:26.2
パン・チー・シュイ 1:21.2
ウン・ケイ・クォン 1:06.9

女子100m自由形決勝(予選なし)

1. 佐 藤 喜 子(日 本) 1:06.0(大会新) (31.6)
2. ヘイデイ・C・エスピノ(フィリピン)
1:06.4(大会新) (31.7)
3. 神 野 眸(日 本) 1:06.7(大会新) (31.6)
4. ニンファ・リム(フィリピン) 1:13.5 (34.8)
5. 区 婉 玲(中 国) 1:13.8 (34.4)
6. タラ・デ・セーラム(セイロン) 1:14.5 (35.2)
7. 李 雅 子(韓 国) 1:21.8 (—)

女子200m自由形決勝(予選なし)

1. 佐 藤 喜 子(日 本) 2:26.9
32.3 1:08.0 1:46.6
2. ヘイデイ・C・エスピノ(フィリピン) 2:32.2
34.6 1:12.5 1:52.5

3. 大宮涼子(日本) 2:36.5
35.2 1:13.7 1:54.7
4. ヴィクトリヤ・カレン(フィリピン) 2:41.9
36.1 1:16.5 2:00.2
5. 廖喜代(中国) 2:51.1
36.4 1:17.9 —
6. 王雙玉(中国) 3:01.3
38.7 1:22.2 2:12.6

女子400m自由形決勝(予選なし)

1. 芝原笑子(日本) **5:15.8**(大会新)
1:11.4 2:29.7 3:52.8
2. ヘルトルーデス・ロザダ(フィリピン)**5:16.3**(**ク**)
1:10.5 2:29.5 3:53.1
3. 和田映子(日本) **5:30.6**(**ク**)
1:14.2 2:38.1 4:04.8
4. タラ・デ・セーラム(セイロン) 5:43.5
1:16.3 2:41.8 4:12.3
5. コラゾン・ロザダ(フィリピン) 5:52.8
1:15.1 2:43.9 4:17.5
6. 廖喜代(中国) 6:16.2
1:26.5 3:02.7 4:40.2
7. エルシー・リム(シンガポール) 6:22.9
1:26.2 3:03.7 4:41.5
8. 王雙玉(中国) 6:43.5
1:28.6 3:09.8 4:55.3

女子100m背泳決勝(予選なし)

1. 田中聰子(日本) **1:15.3**(大会新)(36.5)
2. 岡本節子(日本) **1:19.0**(**ク**)(38.0)
3. シルビア・ボンギース(フィリピン) **1:20.0**
(**ク**)(37.7)
4. 区婉玲(中国) **1:21.0**(**ク**)(38.0)
5. ジョスリン・ボンギース(フィリピン) **1:21.0**
(**ク**)(39.3)
6. キー・エスター・フン・ハ(ホンコン) 1:23.5
(37.5)
7. 馮凝姿(中国) 1:25.4 (38.7)
8. エルシー・リム(シンガポール) 1:25.6 (39.6)
9. タテ・デ・セーラム(セイロン) 1:25.9 (41.3)

女子100m平泳決勝(予選なし)

1. 高松好子(日本) 1:24.1 (40.4)
2. 青木政代(日本) 1:27.7 (42.5)
3. リア・トビン(インドネシア) 1:28.3 (40.7)
4. ヴィクトリヤ・カガヤット(フィリピン)
1:29.7 (42.3)
5. コラゾン・カレン(フィリピン) 1:31.9 (43.5)
6. ダーリヤ・トビン(インドネシア) 1:32.6 (44.5)

7. 張宗慈(中国) 1:32.6 (一)
- 女子200m平泳(予選なし)

1. 高松好子(日本) 2:55.6
40.7 1:24.8 2:10.5
 2. 小田切紀子(日本) 3:02.6
43.1 1:28.6 2:16.0
 3. ヴィクトリヤ・カガヤット(フィリピン) 3:09.3
43.4 1:31.0 2:20.0
 4. コラゾン・カレン(フィリピン) 3:13.9
44.3 1:32.6 2:23.0
 5. 張宗慈(中国) 3:19.5
44.2 1:33.6 2:25.8
 6. リヨン・ライ・メン(マラヤ) 3:48.4
50.5 1:48.2 2:48.9
- リア・トビン(インドネシア) ダリヤ・トビン(インドネシア)は失格

女子100mバタフライ決勝(予選なし)

1. 宮部シズエ(日本) 1:13.1(34.4)
2. サンドラ・ボンギース(フィリピン) 1:17.9
(35.4)
3. 寺垣内達代(日本) 1:19.6 (37.6)
4. ヘルトルーデス・ロザダ(フィリピン) 1:20.3
(35.8)
5. タラ・デ・セーラム(セイロン) 1:29.2 (41.0)
6. 梁沼氷(中国) 1:35.8 (42.5)

女子400mリレー決勝(予選なし)

1. 日本 **4:27.3**(大会新)
佐藤喜子 1:05.8 (正式)
島田節子 1:06.6
中沖滋代 1:07.6
神野眸 1:07.3
2. フィリピン 4:50.4
ヴィクトリヤ・カレン 1:12.6
コラゾン・ロザダ 1:16.5
ゲルトルーデス・ロザダ 1:10.7
ヘイデイ・C・エスピノ 1:10.6
3. 中国 5:31.5
馮凝姿 1:28.9
廖喜代 1:20.4
王雙玉 1:21.4
区婉玲 1:20.8

女子400mメドレー・リレー(予選なし)

1. フィリピン 5:22.2
ジョセリン・ボンギース 1:21.3
ヴィクトリヤ・カガヤット 1:28.9
サンドラ・ボンギース 1:18.9
ヘイデイ・C・エスピノ 1:13.1
2. 中国 5:50.7

馮	癡	姿	1:26.3
張	宗	慈	1:33.3
梁	沼	冰	1:34.8
区	婉	玲	1:16.3

日本チームは第3泳者と第4泳者間にフライングあり失格 参考時間次の通り

田	中	聰	子	1:15.1	(正式)
高	松	好	子	1:23.6	
宮	部	シ	ズ	1:12.6	
佐	藤	喜	子	1:05.8	
				4:57.1	

飛 込

男子飛板飛込決勝

1. 馬 場 豊 (日 本)	142.49
規 定 飛	63.29
前 飛 (蝦)	8.9 12.46
後 飛 (蝦)	7.6 12.92
前 逆 飛 (蝦)	7.7 14.63
後踏切前飛 (蝦)	7.8 10.14
前飛半回捻り	7.3 13.14
選 択 飛	79.20
前宙返り二回半 (蝦)	7.3 16.79
前宙返り一回半回捻り (蝦)	7.3 15.33
前逆宙返り一回半 (蝦)	6.6 15.84
後宙返り一回半 (伸)	7.0 15.40
後踏切前宙返一回半 (蝦)	7.2 15.84
2. 坂 本 章 八 (日 本)	133.91
規 定 飛	57.49
前 飛 (伸)	6.3 10.08
後宙返り一回半 (蝦)	7.0 11.90
前 逆 飛 (伸)	7.7 14.63
後踏切前飛 (伸)	6.7 10.05
前飛半回捻り (伸)	5.7 10.83
選 択 飛	76.42
前逆宙返り一回半 (抱)	6.8 14.96
後宙返り一回半 (伸)	6.1 13.42
後踏切前宙返り一回半 (蝦)	7.2 15.84
後踏切前飛一回捻り (伸)	6.9 15.18
前宙返り二回半 (蝦)	7.4 17.02
3. F・マヌーチェヘル (イ ラ ン)	112.74
規 定 飛	51.12
前 飛 (蝦)	6.7 9.38
後 飛 (抱)	4.7 7.99
前 逆 飛 (伸)	6.2 11.78
後踏切前飛 (蝦)	7.4 9.62
前飛半回捻り (伸)	6.5 12.35

選 択 飛	61.62
前宙返り三回 (抱)	6.7 14.07
後宙返り一回半 (伸)	5.0 11.00
前逆宙返り一回 (抱)	6.1 9.15
後踏切前宙返り一回半 (蝦)	7.3 16.06
後踏切前飛半回捻り (蝦)	6.3 11.34
4. 李 弼 中 (韓 国)	68.73
規 定 飛	
前 飛 (伸)	2.6 4.16
後 飛 (伸)	6.2 10.54
前 逆 飛 (伸)	2.9 5.51
後踏切前飛 (伸)	6.4 8.32
前飛半回捻り (蝦)	1.2 2.16
選 択 飛	
前宙返り一回半 (蝦)	5.4 8.64
後宙返り一回 (伸)	2.6 4.16
前逆宙返り一回 (抱)	4.6 6.90
後踏切前宙返り一回半 (抱)	6.2 12.40
後踏切前飛半回捻り (蝦)	3.3 5.94

男子高飛込決勝

1. 馬 淵 良 (日 本)	153.46
制限選択飛	82.37
後踏切前宙返り一回半 (蝦)	7.9 14.22
前逆飛 (S)	7.9 14.22
前宙返り一回半 (蝦) (R)	7.5 12.00
後宙返り一回	7.7 13.09
逆立ち中抜け後飛	7.4 15.54
前逆飛半回捻り (S)	7.0 13:30
自由選択飛	71.09
前宙返り二回半 (蝦)	7.5 16.50
後宙返り一回 (伸)	8.3 19.09
後踏切前宙返り二回半 (抱)	7.7 18.48
前宙返り一回半一回捻り (蝦)	7.4 17.02
3. 山 野 外 嗣 夫 (日 本)	149.51
制限選択飛	78.67
前宙返り一回半 (蝦)	7.2 11.84
後 飛 (蝦)	7.2 13.68
前 逆 飛 (蝦) (R)	6.4 12.80
後踏切前宙返り一回半 (蝦)	6.3 11.34
前宙返り一回半一回捻り (蝦) (R)	7.5 17.25
逆立ち飛 (伸)	8.4 11.76
自由選択飛	70.84
前宙返り一回半 (蝦) (R)	8.0 17.60
後宙返り一回半 (蝦)	6.6 14.52
前宙返り一回半 (蝦) (R)	7.6 19.76
後踏切前宙返り二回半 (抱)	7.6 18.96

3. アザミ・ハッサン (イ ラ ン)	104.45	前飛半回捻り (伸)	8.1	15.39	
制限選択飛	59.75	選 択 飛	69.00		
前宙返り一回半 (蝦) (R)	7.0	11.20	前飛宙返り一回半 (蝦)	8.0	12.80
後宙返り (伸)	6.2	10.54	後飛宙返り一回半 (蝦)	6.9	15.18
後踏切前宙返り一回半 (蝦)	6.2	11.16	後踏切半回捻り (蝦)	7.7	13.86
前逆宙返り一回 (抱) (S)	6.0	9.00	後踏切宙返り一回半 (抱)	7.9	15.80
逆立ち宙返り (蝦)	7.0	11.20	前逆飛宙返り一回半 (抱)	4.8	10.56
前逆宙返り一回半	3.5	6.65	3. 戴 霞 (中 国)	78.01	
自由選択飛	44.70	規 定 飛	44.52		
後途中宙返り一回 (抱)	6.7	11.39	前 飛 (蝦)	6.4	8.96
後踏切前飛 (伸)	7.3	11.68	後 飛 (伸)	6.5	11.05
逆立ち中抜け飛 (抱)	7.7	11.55	前後踏切 (蝦)	5.7	7.41
前 飛 (伸) (S)	6.3	10.08	前飛半回捻り (伸)	3.6	6.84
4. 李 彌 中 (韓 国)	74.63	前 逆 飛 (伸)	5.4	10.26	
制限選択飛	45.00	選 択 飛	33.49		
前 飛 (伸) (S)	4.6	6.44	前飛宙返り一回半 (蝦)	6.6	10.56
後宙返り一回 (伸)	3.0	5.10	後飛宙返り (伸)	2.2	3.52
後踏切前飛 (伸)	6.9	11.04	後飛一回捻り (伸)	3.6	5.76
前逆飛半回捻り (伸) (S)	3.0	5.70	後踏切宙返り一回 (抱)	5.3	7.95
逆立ち宙返り (蝦)	6.4	10.24	前逆宙返り一回 (抱)	3.8	5.70
前逆飛 (伸) (S)	3.6	6.48			
自由選択飛	29.63				
前宙返り一回半 (蝦) (R)	6.9	10.72			
前逆宙返り一回 (抱) (R)	4.0	6.40			
後踏切宙返り一回半 (蝦)	3.7	6.66			
逆立ち中抜け飛 (抱)	3.9	5.85			
女子高飛込決勝					
1. 渡 辺 久 美 子 (日 本) 81.76					
		制限選択飛	37.89		
		前途中宙返り一回半 (蝦) (R)	4.9	8.82	
		後 飛 (伸)	8.1	15.39	
		前 逆 飛 (伸)	7.6	13.68	
		自由選択飛	43.87		
		逆立ち中抜け後飛 (蝦) (R)	6.9	14.49	
		前宙返り二回半 (蝦) (R)	7.3	16.06	
		後踏切前宙返り一回半 (蝦)	7.4	13.32	
2. 宮 本 ま さ み (日 本) 80.15					
		制限選択飛	37.67		
		前途中宙返り一回半 (蝦) (R)	6.2	9.92	
		後 飛 (伸)	7.5	14.25	
		後踏切前宙返り一回半 (蝦)	7.5	13.50	
		自由選択飛	42.48		
		逆立ち中抜け (後飛蝦) (R)	7.0	14.78	
		前宙返り二回半 (蝦) (R)	6.9	15.18	
		後 飛 (伸) (S)	7.0	12.60	
女子高飛込は外国選手の参加なく日本人2名で決勝を行った。					
女子飛込只一人の外国選手、中国の戴霞 (ヤストロボフ・タイシャ) 嬢は武運拙く3位に止まったが、同嬢は白系ロシア人で国籍は中華民国 (台湾) 住所はホンコンと極めてやゝこしい人、おまけに同行の許婚氏がアメリカの海軍士官ときているので、もしローマオリンピックにできれば今度はアメリカ人として出場することになろう					

水 球

第1試合

フィリピン 0 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \text{ --- } 8 \\ 0 \text{ --- } 7 \end{array} \right\}$ 15 シンガポール

NTMFOFPTCTGTFTG										GFTGTCTPTOOFMFNT									
0	0	0	0	0	3	0	0	W・トリニダッド	(G. K)	F・T・タン	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	1	4	0	0	0	0	0	L・イドシラニ	(L. B)	E・T・ガン	2	5	0	0	0	7	0	0	
0	0	9	0	0	0	2	0	F・ドヨラ	(R. B)	G・H・ティオ	1	9	0	1	0	0	0	0	
0	0	12	0	0	0	2	0	A・アニュアリ	(H. B)	J・B・ミッチェル	0	0	0	0	0	4	0	0	
0	1	9	0	0	0	1	0	S・サムラニ	(L. F)	E・G・ガン	3	3	0	6	0	0	0	0	
0	0	2	0	1	0	3	0	E・ベルニス	(C. F)	E・ヤオ	7	9	0	0	1	1	0	0	
0	0	5	0	0	0	5	0	A・アマブーシ	(R. F)	E・B・タン	2	14	0	0	0	1	0	0	
0 2 41 0 1 3 13 0										15 40 0 7 1 13 0 0									

審判員 名取正也(日本) ゴールジャッジ 近藤静夫(日本) 奥田精一郎(日本)

第2試合

日 本 22 $\left\{ \begin{array}{l} 11 \text{ --- } 0 \\ 11 \text{ --- } 0 \end{array} \right\}$ 0 ホンコン

NMTFOFPTCTGTFTG										GFTGTCTPTOOFMFNT									
0	0	0	0	0	1	0	0	加 藤	(G. K)	C・C・パ	ン	0	0	3	0	0	0	0	0
0	0	5	0	0	0	5	2	浅 沼	(L. B)	G・E・G	キュー	0	0	0	0	0	5	0	0
0	0	1	0	0	0	4	0	荒 川	(R. B)	K・C・ウ	オン	0	1	0	0	0	3	1	0
0	0	0	0	0	0	2	4	沢 村	(H. B)	B・チ	ョイ	0	0	0	0	0	3	0	0
0	0	0	0	0	0	2	2	宮 村	(L. F)	K・W・ウ	オン	0	4	0	0	0	4	0	0
0	0	0	0	0	0	2	5	佐 藤 孝	(C. F)	Y・S・ウ	オン	0	0	0	0	0	5	0	0
0	0	0	1	0	0	7	9	高 木	(R. F)	C・S・パ	ン	0	1	0	0	0	1	0	0
0 0 6 1 0 1 22 22										0 6 3 0 0 0 21 1 0									

審判員 A・エラヒ(イラン) ゴールジャッジ 金子 巍(日本) 飯田寿平(日本)

第3試合

シンガポール 10 $\left\{ \begin{array}{l} 4 \text{ --- } 0 \\ 6 \text{ --- } 2 \end{array} \right\}$ 2 インドネシヤ

NTMFOFPTCTGTFTG										GFTGTCTPTOOFMFNT													
0	0	0	0	0	3	0	0	T・E・リ	ャ	ン	(G. K)	A・ゴ	ーフ	ル	ー	0	0	6	0	0	0	0	0
0	0	4	0	0	0	3	1	G・E・ベ	ック	(L. B)	L・S・リ	エン	0	1	0	0	0	8	0	0			
0	0	4	0	0	0	3	1	G・B・ホ	ック	(R. B)	B・イ	ドリ	ス	0	1	0	0	0	4	0	0		
0	0	8	0	0	0	1	0	J・B・ミ	ッチ	ェル	(H. B)	T・T・ホ	ン	0	4	0	0	0	5	0	1		
0	0	3	0	2	0	1	1	P・E・ヴ	ァ	ン	(L. F)	L・S・ロ	ック	0	2	0	0	0	3	0	0		
0	0	1	0	2	0	6	5	T・E・ボ	ック	(C. F)	O・T・ピ	ー	2	8	0	0	0	3	0	0			
1	0	2	0	1	0	10	2	E・イ	エ	オ	(R. F)	R・O・T	イ	ー	0	6	0	0	0	1	0	0	
1 0 22 0 5 3 24 10										2 22 6 0 0 24 0 1													

審判員 和田幸一(日本) ゴールジャッジ 田島直季(日本) 菅原 平(日本)

第4試合

フィリピン 4 { 2 — 5 } 8 ホンコン
 { 2 — 3 }

NTMFOFPTCTGTFTG							GFTGTCTPTOFMFNT												
0	0	1	0	0	1	0	0	W・トリニダッド (G. K)	C・C・パ	ン	0	0	1	0	0	1	0	0	
0	0	5	0	0	0	1	0	L・イドジラニ (L. B)	K・C・ウ	オン	0	3	0	0	0	7	0	0	
0	1	6	0	0	1	4	0	F・ドヨラ (R. B)	K・F・ウ	オン	1	6	0	0	0	1	0	0	
0	0	4	0	0	0	0	0	A・アニュアリ (H. B)	G・F・G・ギ	ュー	0	2	0	0	0	4	1	0	
0	0	5	0	0	1	2	1	D・ヘスース (L. F)	K・W・ウ	オン	0	3	0	0	0	5	0	0	
0	1	1	0	0	0	13	0	E・ベルニス (C. F)	Y・S・ウ	オン	5	6	0	0	1	3	0	0	
0	0	2	0	1	0	4	3	A・アミフーシ	ン (R. F)	C・S・パ	ン	2	6	0	0	0	2	0	0
0	2	26	0	1	3	24	4				8	26	1	0	1	23	1	0	

審判員 小野四郎 (日本) ゴールジャッジ 菅原 平 (日本) 金子 巍 (日本)

第5試合

日本 8 { 3 — 1 } 2 インドネシア
 { 5 — 1 }

NTMFOFPTCTGTFTG							GFTGTCTPTOFMFNT											
0	0	0	0	0	0	0	0	加藤 (G. K)	A・ゴーフ	ルー	0	0	5	0	0	1	0	0
0	1	2	0	0	0	2	0	小野 (L. B)	B・イド	リス	0	4	0	1	0	3	0	0
0	1	3	0	1	0	1	0	浅沼 (R. B)	L・S・リ	エン	0	1	0	0	0	2	0	0
1	3	4	0	1	0	0	2	沢村 (H. B)	T・T・ホ	ン	0	1	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	0	0	0	2	宮村 (L. F)	L・S・ロ	ック	0	2	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	2	1	佐藤 (C. F)	O・T・ピ	ー	2	5	0	1	2	0	1	2
0	1	2	0	0	0	3	3	高木 (R. F)	L・S・プ	ン	0	1	0	0	0	1	0	0
1	6	12	0	2	0	8	8				2	14	5	2	2	7	1	2

審判員 C・K・ウー (ホンコン) ゴールジャッジ 近藤静夫 (日本) 奥田精一郎 (日本)

第6試合

フィリピン 0 { 0 — 9 } 17 日本
 { 0 — 8 }

NTMFOFPTCTGTFTG							GFTGTCTPTOFMFNT											
0	0	1	0	0	4	0	0	P・イルデフォン	ゾ (G. K)	佐藤 賢	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	6	0	0	0	4	0	L・イドジラニ (L. B)	浅沼		2	3	0	0	0	2	0	1
0	0	1	0	0	0	2	0	F・ドヨラ (R. B)	小野		1	5	0	0	0	2	0	0
0	1	2	0	0	0	2	0	A・アニュアリ (H. B)	荒川		0	1	0	0	0	0	0	0
0	0	2	0	0	0	0	0	R・アギラ (L. F)	沢村		2	1	0	0	0	1	0	0
0	0	3	0	0	0	2	0	E・ベルニス (C. F)	高木		7	6	0	0	0	4	0	0
1	0	5	0	0	0	2	0	A・アミフーシ	ン (R. F)	佐藤 孝	5	3	0	1	1	3	0	0
1	1	20	0	0	4	12	0				17	19	0	1	1	12	0	1

審判員 シヤープ (ホンコン) ゴールジャッジ 田島直季 (日本) 飯田寿平 (日本)

第7試合

シンガポール 11 $\left\{ \begin{array}{l} 11 \\ 8 \end{array} \right\} 0$ ホンコン

NTMFOFPTCTGTFTG								GFTGTCTDPTOFMFNT													
0	0	0	0	0	1	0	0	E・L・タ	ン	(G. K)	C・C・パ	ン	0	0	5	0	0	0	0	0	
1	0	3	0	0	0	2	3	E・T・ガ	ン	(L. B)	K・C・ウ	オン	0	2	0	0	0	2	0	1	
0	0	3	0	0	0	1	2	G・H・テ	ィオ	(R. B)	K・F・ウ	オン	0	2	0	0	0	1	0	0	
0	1	0	0	0	0	2	0	J・B・ミ	ツチ	エル	(H. B)	G・E・G・	キュー	0	2	0	0	0	1	0	0
0	0	0	0	0	0	1	2	E・G・ガ	ン	(L. F)	K・W・ウ	オン	0	0	0	0	0	2	0	0	
0	0	0	0	0	0	1	7	E・B・タ	ン	(C. F)	Y・S・ウ	オン	0	1	0	0	0	1	0	0	
0	0	1	0	2	0	1	5	E・イ	エ	オ	(R. F)	C・S・パ	ン	0	2	0	0	0	1	1	0
1	1	7	0	2	1	8	19						0	9	5	0	0	8	1	1	

審判員 小野四郎 (日本) ゴールジャッジ 金子 巍 (日本) A・エラヒ (イラン)

第8試合

フィリピン 0 $\left\{ \begin{array}{l} 0 \\ 0 \end{array} \right\} 11$ インドネシヤ

NTMFOFPTCTGTFTG								GFTGTCTPTOFMFNT																
0	0	0	0	0	5	0	0	W・トリ	ニダ	ッド	(G. K)	A・ゴー	フル	ー	0	0	2	0	0	1	0	0		
0	1	4	0	1	0	1	0	L・イド	シラ	ニ	(L. B)	L・S・リ	エン	1	5	0	0	0	5	0	0			
0	0	2	0	0	0	2	0	F・ド	ヨ	ラ	(R. B)	B・イド	リス	0	5	0	0	0	5	0	0			
0	1	9	0	0	0	2	0	A・ア	ニ	ユ	アリ	(H. B)	T・T・ホ	ン	0	2	0	0	0	3	0	0		
0	0	0	0	0	0	2	0	D・ヘ	ス	ース	(L. F)	L・S・ロ	ック	2	1	0	1	0	1	0	0			
0	0	0	0	1	0	3	0	E・ベル	ニス	(C. F)	L・S・プ	ン	5	8	0	0	1	3	0	0				
0	0	5	0	0	0	8	0	A・ア	ミ	フ	ー	シ	ン	(R. F)	O・T・ピ	ー	3	2	0	0	0	1	0	0
0	2	20	0	2	5	18	0						11	23	2	1	1	19	0	0				

審判員 名取正也 (日本) ゴールジャッジ シヤープ (ホンコン) 菅原 平 (日本)

第9試合

ホンコン 1 $\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 0 \end{array} \right\} 8$ インドネシヤ

NTMFOFPTCTGTFTG								GFTGTCTPTOFMFNT														
0	0	0	0	0	5	0	0	C・C・パ	ン	(G. K)	A・ゴー	フル	ー	0	0	7	0	0	0	0	0	
0	0	1	0	0	0	1	0	K・C・ウ	オン	(L. B)	L・S・リ	エン	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	1	0	0	0	1	0	K・F・ウ	オン	(R. B)	T・T・ホ	ン	0	1	0	0	0	3	0	0		
0	0	7	0	0	0	0	0	G・E・G・	キュー	(H. B)	ク	ス	ワ	ラ	1	0	0	0	0	6	0	0
0	0	3	0	0	0	1	0	K・W・ウ	オン	(L. F)	B・イド	リス	4	0	0	2	0	0	0	0	0	
0	0	5	0	0	0	2	0	Y・S・ウ	オン	(C. F)	O・T・ピ	ー	3	12	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	1	0	0	0	5	1	C・S・パ	ン	(R. F)	L・S・プ	ン	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
0	0	18	0	0	5	10	1						8	17	7	3	0	10	0	0		

審判員 和田幸一 (日本) ゴールジャッジ 金子 巍 (日本) 奥田精一郎 (日本)

第10試合

シンガポール 2 { 1 — 1 } 4 日 本
 { 1 — 3 }

NTMFOFPTCTGTFTG							GFTGTCTDTOTMFNT														
0	0	0	0	0	1	0	0	E・L・テ	ン	(G・K)	加	藤	0	0	1	0	0	1	0	0	
0	1	6	0	0	0	1	2	G・H・テ	イ	オ	(L・B)	浅	沼	0	7	0	0	0	6	0	3
1	1	6	0	0	0	2	0	E・T・ガ	ン	(R・B)	荒	川	1	1	0	0	0	2	1	0	
1	0	2	0	0	0	1	0	J・B・ミ	ツ	ェ	(H・B)	高	木	3	6	0	0	0	2	0	1
0	1	3	0	1	0	2	0	E・B・タ	ン	(L・F)	沢	村	0	5	0	0	0	0	0	0	
2	4	3	0	1	0	2	0	E・イ	エ	オ	(C・F)	宮	村	0	3	0	0	0	1	0	1
1	0	4	0	1	0	2	0	E・G・ガ	ン	(R・F)	佐	藤	孝	0	9	0	0	0	0	1	0
5	7	24	0	3	1	11	2						4	31	1	0	0	12	2	5	

審判員 A・エラヒ (イラン) ゴールジャッジ 金子 巍 (日本) 近藤静夫 (日本)

成績 1. 日 本 4勝
 2. シンガポール 3勝 1敗
 3. インドネシア 2勝 2敗

4. ホンコン 1勝 3敗
 5. フィリピン 4敗

アジア大会予選会

5月10・11日都屋内プール(50m)公認

気温 23° 23° 水温 24°5 24°5

男子100m自由形 決 予

1. 横地森太郎 (稲泳会)	59.0	58.0
2. 古賀 学 (富山トヨタ)	59.0	59.1
3. 清光雄二 (山梨ニッサン)	59.3	59.1
4. 中谷庸彦 (白水会)	59.5	59.3
5. 見上勝紀 (修道高)	59.5	59.6
6. 近藤至男 (立 大)	59.5	60.5
7. 石原勝記 (日 大)	59.8	60.0

谷川禎治郎 (富鉄釜石) 1:01.1 末永 豪 (法二高) 1:01.3
 十河 英記 (稲泳会) 1:01.3 浜田成亮 (中 大) 1:01.2
 川岡 長身 (日 大) 1:01.3 岡田洋一 (明 大) 1:01.7

男子200m自由形 決 予

1. 藤本達夫 (中 大)	2:09.4	2:09.1
2. 福井 誠 (八幡製鉄)	2:10.0	2:10.3
3. 梅本利三 (五条高)	2:11.7	2:09.6
4. 北原一彦 (稲泳会)	2:12.0	2:13.2
5. 近藤至男 (立 大)	2:12.4	1:13.0
6. 庄司敏夫 (安房一高)	2:12.4	2:13.4
7. 中谷庸彦 (白水会)	2:12.4	2:13.7
8. 横地森太郎 (稲泳会)	2:12.7	2:13.4
9. 林 利博 (日 大)	2:12.7	2:13.9

古谷武良 (日 大) 2:17.3 川岡長身 (日 大) 2:15.6

石原勝記 (日 大) 2:14.5 金谷修作 (中 大) 2:15.2
 山口安司 (立 大) 2:15.4 浜田成亮 (中 大) 2:15.1
 今井昌裕 (法 大) 2:16.4 岡田洋一 (明 大) 2:17.3

男子400m自由形 決 予

1. 山 中 毅 (稲泳会)	4:30.9	4:32.3
2. 福 井 誠 (八幡製鉄)	4:37.4	4:39.6
3. 丸 山 長 敏 (BSタイヤ)	4:38.2	4:41.5
4. 石 井 宏 (日 大)	4:38.5	4:38.4
5. 北 畑 昌 英 (")	4:41.0	4:43.2
6. 梅 本 利 三 (五条高)	4:41.1	4:39.7
7. 野々下耕嗣 (中 大)	4:45.2	4:44.0
8. 林 利 博 (日 大)	4:48.9	4:45.6
9. 庄 司 敏 夫 (安房一高)	4:49.6	4:44.2

北原一彦 (稲泳会) 4:50.6 金谷修作 (中 大) 4:54.3
 森江重雄 (法 大) 4:54.7 藤本達夫 (中 大) 4:48.8
 坂梨公昭 (明 大) 4:57.1 山口安司 (立 大) 4:54.9
 今井昌裕 (法 大) 4:56.5 坪田 暲 (中 大) 4:57.1

男子1500m自由形 決 予

1. 山 中 毅 (稲泳会)	18:25.6	18:53.4
2. 石 井 宏 (日 大)	18:29.5	18:36.9
3. 北 畑 昌 英 (")	18:39.6	19:08.4
4. 丸 山 長 敏 (BSタイヤ)	18:50.1	19:14.0
5. 野々下耕嗣 (中 大)	19:12.8	19:31.3
6. 坂 梨 公 昭 (明 大)	19:18.5	19:28.8
7. 坂 元 昭 紀 (法 大)	19:23.2	19:26.3
8. 越 智 静 雄 (今 治 高)	19:41.6	19:45.6
9. 森 江 重 雄 (法 大)	19:52.2	19:38.6

坪田 暲(中大) 19:58.3 池尻月男(日大) 20:10.9
 八木清三郎(日大) 20:14.0 新宅七郎(日大) 20:15.3
 島田勇次郎(法二) 20:16.4 佐藤光伸(法二) 20:20.8
 内山 敏(明大) 20:34.0 中坊昌美(伊都高)20:39.1
 三楯 兼造(中大) 20:51.7

男子100m平泳

決 予

1. 杉山明男(日大) 1:16.2 1:16.1
 2. 太田勝(稲泳会) 1:16.5 1:16.4
 3. 古川勝(大丸) 1:16.5 1:15.4
 4. 中村昌彦(宇和島東高) 1:16.6 1:17.0
 5. 木村基(日大) 1:16.8 1:16.5
 6. 増田勲(〃) 1:16.8 1:17.2
 7. 和氣統(瀬戸田高) 1:17.7 1:17.0

宮本英(山鹿高) 1:17.7 中川平悟(日体大) 1:18.5
 篠田広史(中大) 1:18.1 大崎剛彦(稲泳会) 1:18.8
 三木圭三(中大) 1:18.8 豊池守(立大) 1:17.5
 永井正貞(日大) 1:18.1 菊池満隆(富鉄釜石) 1:18.7

男子200m平泳

決 予

1. 古川勝(大丸) 2:45.5 2:48.6
 2. 和氣統(瀬戸田高) 2:47.5 2:46.5
 3. 豊池守(立大) 2:48.3 2:45.1
 4. 太田勝(稲泳会) 2:48.3 2:49.0
 5. 中村昌彦(宇和島東高) 2:48.7 2:47.6
 6. 増田勲(日大) 2:48.7 2:48.0
 7. 木村基(〃) 2:49.8 2:47.2
 8. 篠田博史(中大) 2:50.1 2:49.4
 9. 永井正貞(日大) 2:50.7 2:50.4

宮本英(山鹿高) 2:50.4 吉村昌弘(日大) 2:53.3
 三木圭三(中大) 2:55.7 菊池満隆(富鉄釜石) 2:50.5
 杉山明男(日大) 2:53.1 辻野浩(中大) 2:53.4
 宮下宗重(〃) 2:55.7 大崎剛彦(稲泳会) 2:53.6

男子100mバタフライ

決 予

1. 石本隆(無煙ボイラー) 1:01.5 1:01.7
 2. 増永文昭(日大) 1:02.5 1:03.5
 3. 開田幸一(中大) 1:03.2 1:02.7
 4. 武市啓志(高知高) 1:05.0 1:05.8
 5. 坂井逸次(稲泳会) 1:05.3 1:05.2
 6. 吉無田春男(稲泳会) 1:06.6 1:06.3
 7. 那須純哉(立大) 1:07.3 1:06.9

長島務(明大) 1:08.2 飯田智康(法二高) 1:09.5
 長谷川浩造(八幡製鉄) 1:09.9 俵口頼康(明大) 1:07.5
 鏡原友義(日大) 1:08.2 田中誠也(八幡製鉄) 1:09.6
 北田稔(富鉄釜石) 1:10.0 太田一郎(日大) 1:10.1
 小島英光(法大) 1:10.1 鈴木竜二(中大杉並) 1:10.4

男子200mバタフライ

決 予

1. 石本隆(無煙ボイラー) 2:24.4 2:30.6

2. 開田幸一(中大) 2:24.5 2:28.1
 3. 増永文昭(日大) 2:26.4 2:27.9
 4. 那須純哉(立大) 2:27.9 2:27.9
 5. 武市啓志(高知高) 2:31.2 2:28.2
 6. 俵口頼康(明大) 2:31.2 2:32.7
 7. 長島務(明大) 2:32.0 2:32.7
 8. 吉無田春男(稲泳会) 2:35.1 2:33.1
 9. 坂井逸次(〃) 2:35.9 2:37.4
 丹羽勝治(法二高) 2:45.3 北田稔(富鉄釜石) 2:48.4
 鏡原友義(日大) 2:37.4 飯田智康(法二高) 2:38.3
 田中誠也(八幡製鉄) 2:38.8 渡辺常也(中大) 2:40.3
 小島英光(法大) 2:38.5 長谷川浩造(八幡製鉄) 2:42.9

男子100m背泳

決 予

1. 二宮英雄(慶大) 1:06.5 1:08.9
 2. 長谷景治(倉敷レ) 1:06.7 1:08.0
 3. 渡辺和夫(日大) 1:07.4 1:07.8
 4. 富田一夫(〃) 1:08.3 1:08.8
 5. 山下栄隆(明大) 1:09.3 1:09.1
 6. 林芳人(八幡製鉄) 1:10.2 1:10.4
 7. 中島勝昭(明大) 1:12.0 1:11.5
 尾組昇(富鉄釜石) 1:11.6 石橋幸男(浮羽高) 1:11.8
 浜崎健(日大) 1:11.9 沼忠慶(明大) 1:12.0
 才野武士(立大) 1:12.0 徳武茂(中大) 1:12.3
 徳永誠哉(日大) 1:12.9

男子200m背泳

決 予

1. 富田一雄(日大) 2:26.2 2:28.5
 2. 長谷景治(倉敷レ) 2:28.1 2:33.2
 3. 渡辺和夫(日大) 2:28.8 2:33.5
 4. 二宮英雄(慶大) 2:30.5 2:30.7
 5. 才野武士(立大) 2:33.1 2:31.4
 6. 中島勝昭(明大) 2:34.4 2:36.4
 7. 林芳人(八幡製鉄) 2:34.7 2:35.9
 8. 浜崎健(日大) 2:36.0 2:36.0
 9. 高木忠之(稲泳会) 2:36.2 2:36.7
 山下栄隆(明大) 2:37.4 尾組昇(富鉄釜石) 2:39.6
 沼忠慶(明大) 2:38.2 徳武茂(中大) 2:39.1
 石橋幸男(浮羽高) 2:37.1 徳永誠哉(日大) 2:37.8
 中島進(法大) 2:40.5 大滝正勝(明大) 2:40.3

女子100m自由形

決 予

1. 佐藤喜子(天理大) 1:06.7 1:06.8
 2. 神野眸(淑徳学園) 1:07.1 1:08.1
 3. 中沖滋代(白木屋) 1:08.3 1:10.0
 4. 島田節子(東洋レ) 1:09.6 1:11.3
 5. 後藤貞子(天理大) 1:11.1 1:11.4
 6. 小牧順子(旭化成) 1:11.7 1:11.0
 7. 中西満子(五条高) 1:12.4 1:12.8

松田 昌子(東洋レ)1:14.6 天野 敬子(金城大)1:18.1
 水野日出代(淑徳高)1:18.9 坪井查雅子(天理大)1:18.3
 窪 美代子(五条高)1:13.5 鍵山陽子(高知水連)1:17.2
 伊藤 倍江(淑徳高)1:18.6 吉村 睦恵(二階高)1:19.5

女子200m自由形

決 予

1. 佐藤 喜子(天理大) 2:29.5 2:31.7
 2. 神野 眸(淑徳学園) 2:31.0 2:34.3
 3. 芝原 笑子(天理高) 2:33.8 2:33.0
 4. 大宮 涼子(東洋レ) 2:35.3 2:37.8
 5. 中沖 滋代(白木屋) 2:35.5 2:36.1
 6. 島田 節子(東洋レ) 2:37.6 2:39.0
 7. 和田 映子(天理大) 2:37.7 2:37.2
 8. 後藤 貞子(〃) 2:38.2 2:39.0
 9. 小牧 順子(旭化成) 2:39.3 2:39.5
 江坂君代(椛山中) 2:43.7 中西 満子(五条高)2:45.7
 松田昌子(東洋レ) 2:48.0 窪 美代子(五条高)2:40.1
 中岡角子(五条高) 2:43.1 大高 幸子(東洋レ)2:42.1
 寺井貴子(五条高) 2:46.1 和田多恵子(天理大)2:48.2

女子400m自由形

決 予

1. 芝原 笑子(天理高) 5:29.0 5:28.8
 2. 和田 映子(天理大) 5:32.8 5:41.0
 3. 大宮 涼子(東洋レ) 5:34.9 5:37.7
 4. 大高 幸子(〃) 5:41.0 5:45.4
 5. 中岡 角子(五条高) 5:41.3 5:43.1
 6. 江坂 君子(椛山中) 5:44.9 5:43.1
 7. 寺井 貴子(五条高) 5:49.3 5:50.3
 8. 虎野 昭子(帝塚山高) 5:57.3 5:50.3
 9. 和田多恵子(天理大) 5:59.4 5:54.4
 西岡佐代子(伊都高)5:55.7 千葉 幸子(成女高)6:14.4
 行縄 美代(二階高)6:17.0 川村ヨネ子(二階高)6:08.3
 薦野 良江(天理高)6:13.2 小池 久子(二階高)6:18.2
 森 茂子(川口女高)6:25.9

女子100m平泳

決 予

1. 高松 好子(天理大) 1:24.1 1:23.2
 (日新) (日新)
 2. 小田切紀子(旭化成) 1:28.4 1:28.7
 3. 青木 政代(三冷社) 1:29.7 1:33.4
 4. 中田 澄子(天理大) 1:29.9 1:30.9
 5. 青木 幸子(伊都高) 1:30.9 1:30.6
 6. 村島 悳志乃(五条高) 1:32.8 1:32.5
 7. 田中 清恵(九度山中) 1:32.8 1:32.5
 8. 西田千穂子(高知水連) 1:33.0 1:33.4
 塚本治代(天理大) 1:34.0 浜中 翠(椛山中) 1:35.6
 青木康江(天理高) 1:37.3 小林文枝(二階高) 1:37.3
 恩地洋子(帝塚山高) 1:39.1 日野稔子(阿北高) 1:36.7
 岩田靖子(成女高) 1:38.6 小沢幸子(天理高) 1:38.4

青木和代(二階高) :41.5

女子200m平泳

決 予

1. 高松 好子(天理大) 2:56.1 2:57.7
 (日新)
 2. 小田切紀子(旭化成) 3:07.5 3:09.0
 3. 青木 政代(三冷社) 3:08.2 3:08.0
 4. 田中 清恵(九度山中) 3:10.6 3:13.1
 5. 青木 幸子(伊都高) 3:12.3 3:11.0
 6. 中田 澄子(天理大) 3:12.6 3:10.1
 7. 西田千穂子(高知水) 3:12.6 3:15.2
 8. 塚本 治代(天理大) 3:18.7 3:18.7
 9. 浜中 翠(椛山中) 3:21.3 3:20.7

女子100mバタフライ

決 予

1. 宮部シズエ 天理大 1:16.7 1:19.5
 2. 寺垣内達代 帝塚山高 1:21.7 1:22.0
 3. 片岡 幸子 五条高 1:21.7 1:22.4
 4. 松枝喜代美 賀茂遊泳会 1:23.6 1:21.6
 5. 松中佐江子 帝塚山高 1:24.7 1:21.9
 6. 山谷トシ子 五条高 1:26.0 1:22.5
 7. 高嶺由紀子 旭化成 1:29.7 1:28.3
 富山清美 二階堂高 1:29.7 宮原真紀子 成徳高 1:31.4
 森下多恵子 鳴門一中 1:29.1

女子100m背泳

決 予

1. 田中 聰子(筑紫女高) 1:18.5 1:17.5
 (日新) (日新)
 2. 岡本 節子(白木屋) 1:20.2 1:20.7
 3. 村瀬 里子(天理大) 1:20.5 1:21.0
 4. 橋本須美子(小川ポンプ) 1:21.4 1:20.4
 5. 田淵 恵子(五条高) 1:21.7 1:21.0
 6. 雑賀 佳子(天理高) 1:22.3 1:21.8
 7. 新実 里美(東洋レ) 1:24.7 1:24.5
 社本良江(淑徳高) 1:30.5 池田由喜子(二階高)1:34.5
 山本淳子(帝塚山高)1:26.6 鏡味 満子(椛山高)1:28.3
 赤谷宣子(二階高) 1:32.4 大坪 尚子(二階高)1:33.4
 松井明子(成女高) 1:36.4

○ 新博士二人

目下岐阜県の御母衣ダム工事に活躍しておられる伊丹康夫理事は、建設機械関係の論文で昨32年6月工学博士となりました。又プールの深谷俊明常務理事は鉄道橋関係の論文が通過し、本年5月同じく工学博士となりました。心からお慶び申し上げますと同時に、今後の御活躍を大いに期待して止まない次第です。

アジア大会強化合宿を振り返りみて

赤 檉 卓 爾
浦 畑 チ ズ 子

アジア大会を控えての強化合宿を冬から春にかけて行なったが、その実施状況を次の通り報告する。

○1月東大合宿 1月4日—13日 45名(男21,女24)

1. 本合宿は各大学の了解をえ、男子は高校生のみ参加させる。選手の構成が高校生単一なので若く、はりがあり、練習計画も一本に絞られ略満足すべき合宿であったと思う。

2. 女子については1部の選手を除き大半は男女同一の練習が初めての経験であったと思うが、合宿後半に至り全員不満なく練習を行った。

3. 参考記録会で自己の最高をマークした9名(男6,女2)は共に年少者であり、それぞれ合宿前に練習を行って来た者である(別府合宿, 峯温泉, 釜石プール等)。

4. 参加者の中水泳教室出身者は 男 14 名 女 6 名

5. 25mプールと多人数のため、1月合宿の合計練習量は各人約30,000mにとどまる。

6. 東アジア大会団長より注意のあった選手の規律面については特に注意をはらい凡ゆる機会を通じて指導した結果、全員候補選手にふさわしい態度で終始したもののと思う。

○4月別府合宿 4月1日—10日 52名(男30,女22)

合宿を見学された諸先生方から日課, 練習量についてくわしく知りたいとの希望があったので、特に詳細に述べてみたい。

シーズン当初の練習ではあるが人員, 時間, その他種々の面で制約された練習であることを考慮の上御批判願いたい。

日 課

7.10	起 床 (体操)
7.30	朝 食
9.20	出 発
9.30~12.30	練 習
13.00	昼 食
15.20	出 発
15.30~18.80	練 習

19.00 夕食 (15~30分散歩)

20.00~21.00 入 浴

21.30 消 灯

合宿の注意事項

1. アウトドアに直結する合宿であるから大いに頑張ること。
2. 練習の主眼をビートにおく。
3. 当プールで引続き合宿練習に参加した者は特に気分を一新すること。
4. 練習は泳いで来た者を対象に進めて行くが受験勉強等で練習の出来なかった者はあせらないこと。
5. 市の厚意により市民注視の中で練習するのであるからすべての行動は規則正しく。
6. 大学生は高校生の模範たる行動をとること。
7. 動作の機敏, 時間厳守, 往復時の服装, 外出禁止
8. 健康状態給食の不満等は速に役員に連絡のこと。

練 習

(全員の泳ぎを見て練習計画を作成)

第1日午後	①ロング 1000	②ビート 500	③コンビ 300~600	
第2日午前	①ロング 1000	②ビート 1000	③コンビ 400~600	
午後	①ビート 800	②コンビ 400~600	③ 50×2回 ④ロング 1000	
第3日午前	①ロング 1000	②ビート 1000	③コンビ 400~600	
午後	① 800	②インターバル 100×2回	③ビート 600~800	④コンビ 400~600
第4日午前	①ビート 1000	②コンビ 400~500	③ロング (スプリント 1500 を加える)	
午後	① 400	②インターバル 100×3回	③ビート 600	④コンビ 600~800
第5日午前	①ロング 1500	②ビート 600	③コンビ 300~400	
午後	①自由形800	②インターバ ル 100×4回	③ビート 400	④コンビ 800~1000
第6日午前	①ロング 1500	②自由練習 40分		
午後	休養			

第7日午前①ロング ②インターバ ③ビート ④コンビ
1000 ル100×2回 600 300~500

午後① ②インターバ ③ビート ④コンビ
200 100×2回 400 400~600

第8日午前①ロング ②インターバ ③ビート ④コンビ
1000 ル100×2回 600 500~800

午後① ②ダッシュ ③ビート ④コンビ
1500 50×4回 400 300~500

第9日午前① (天皇皇后植樹祭御出席の交通制限
1000 のため練習時間短縮)

午後 記録会 ②ビート ③コンビ
400 500~800

第10日午前①ロング ②ビート ③コンビ
1000 400 300~600

練習量合計 約40,000~42,000

別府合宿を終り感じたこと。

1. 男女同一の練習方法については今回の合宿で全く不平の声なし。

2. シーズン始めのしかも種々の制約を受けた今回の合宿では必然的に練習量も少ないため、男女差が無くて問題ないがシーズン最高時の練習においては現在の女子の実力からして多少困難の恐れがある、しかし将来はやはり男女の別ない様な練習方法にもって行くことが女子を向上させることになると思う。選手に対する根気と愛情は特に女子には必要だが世界の進歩は急激だからより一層の奮起を望むや切である。

3. 水連強化合宿には予め各地方水連又はチームで各自練習の上参加すること。

今回の参加者大半が良く練習して来てをり(九州水連合宿、日大、天理大合宿)非常に能率的であった。

4. アジア大会候補選手の強化合宿であったため社会人大学生高校生と混成されたが今後の冬期強化合宿は中学生、高校生を主体としてやった方がよい。

大学生については技術面は勿論のこと凡ゆる面中で、高校生の模範たりうる大学選手を各種目1名をコーチの助手として選んで参加してもらう様にすれば、後進の指導の面でよいのではないか、水連の強化合宿を総花式に終らせず、より成果を上げるには少数精鋭主義で練習の焦点を絞り、英才教育に徹すべきことを痛感した。

話は多少飛躍するが広い底辺の必要なことは勿論いうまでもないが、その底辺をどこにおくか再考の余地がある。

小学生を底辺とし一番進歩度合の著しい素材たる中学生に強化の主眼をおくのが強化の強化と考えるそのために早急に小学生のランキング作成の必要がある。

5. 従来とかく批判のあった練習量の少ない点は今回特

に考慮したがやはり人数の関係で計画通り運べなかった。合宿参加人員については今後の研究課題に俟つとしても全国的規模の合宿でありながら、ある学校がその所属水泳選手を1名も参加させなかったことは甚だ残念でならないと共に今後の候補選手選考制度の可否についても一考の余地がありそうである。

6. 各選手共最高の記録に挑戦する以上もっと意慾を燃し平素よりスタート、クイックターンの練習に励みたい。

7. 記録の短縮は単に力と技だけでなくそれにとともなる精神面での成長がなければ達し得ないことを強調した。

2つの強化合宿記録会のデータが示す如く殆んどの選手がシーズン当初にベストに近いタイムを出したことは目前にアジア大会をひかえたことながら、水連の強化合宿前後に可成り練習した裏付けがあるからであり、その意味で来年度の室内選手権大会を如何にするか、一つの判定資料になるだろう。

最後に別府合宿において、別府市及市体育協会がわれわれに与えて下さった物心両面の援助に対し心から御礼を申上げて、この報告をおわる。

(赤櫻記)

○ 4月9日の記録会の成績

男子100米自由形	3. 丸山 長敏 19:36.5
1. 石原 勝紀 1:00.9	4. 北畑 昌英 19:44.3
2. 中谷 庸彦 1:01.3	5. 越智 静雄 20:05.2
3. 十河 英記 1:01.3	6. 藤本 達夫 20:27.0
4. 見上 勝紀 1:01.7	7. 内山 敏 20:36.0
男子200米自由形	男子100米背泳
1. 山中 毅 2:09.8	長谷 景治 1:07.7
2. 福井 誠 2:11.8	男子200米背泳
3. 大谷 康夫 2:31.6	1. 渡辺 和夫 2:30.0
男子400米自由形	2. 富田 一雄 2:33.9
1. 林 利博 4:50.5	3. 二宮 英雄 2:36.4
2. 庄司 敏夫 4:58.9	4. 林 芳人 2:36.8
男子1500米自由形	男子200米平泳
1. 山中 毅 18:17.0	1. 増田 勲 2:47.2
1:04.5 2:15.0	2. 和氣 統 2:50.5
3:26.2 4:38.4	3. 宮本 英 2:51.0
5:51.4 7:05.4	4. 中村 昌彦 2:52.3
8:20.4 9:34.0	5. 松本健次郎 2:52.6
10:49.5 12:03.8	男子200米バタフライ
13:18.5 14:33.9	1. 増永 文昭 2:25.1
15:49.7 17:05.0	2. 武市 啓志 2:30.8
2. 石井 宏 18:58.2	3. 那須 順也 2:32.5

女子100米自由形

1. 神野 脩 1:10.0
2. 島田 節子 1:10.2
3. 中沖 滋代 1:14.2

女子200米自由形

1. 佐藤 喜子 2:33.8
2. 大高 幸子 2:41.5
3. 大宮 涼子 2:42.2
4. 小牧 順子 2:44.6

女子400米自由形

1. 芝原 笑子 5:39.1
2. 和田 映子 5:43.3
3. 江坂 君子 5:44.8
4. 虎野 昭子 5:59.9

女子100米背泳

1. 田中 聰子 1:21.3
2. 岡本 節子 1:22.6
3. 村瀬 里子 1:23.0
4. 雑賀 佳子 1:24.2

女子200米平泳

1. 高松 好子 3:02.3
2. 小田切紀子 3:11.7
3. 田中 清恵 3:17.3
4. 西田千穂子 3:23.0

女子100米バタフライ

1. 宮部シズエ 1:16.8
2. 寺垣内達代 1:22.8

毎日の時間ががち組まれ選手たちにとって予想以上にきつい生活であったにもかかわらず、晴れの大会をめざしている選手の生活態度は真剣そのものであった。とかく現在の青少年の行動が批判される中で、こうした規律正しい生活を懸命につづけている選手たちがいることをうれしく思うと同時に、この人たちとたとえわずかでも一緒に生活できたことは、非常な幸せであったと思っている。

さて、今回の合宿を全般的に眺めて、特に目だったことは、練習量において、男女差が全々つけられなかったということだ。とかく女子選手のレベルが、世界的に見て、低調だとの声が聞かれ、事実、その点ではまだまだ改良されるべきであると常に思っていたが、今度の思い切った試みによって、その効果たるや、めざましいもの

があった。「女だから」という甘い考えから、効果のあがるのを予想するだけで、なお実行できなかった今迄に比べて、格段の進歩をしたと思う。女子選手も今後は、技術方面、練習量において、男子と同等のものを求め様と努力しなければ、更に進歩は望めないだろう。ここ数年來、女子の体力が急激に発達したにもかかわらず、女子選手の記録が沈滞しているのは、案外こうした女子に対する一種のいたはりが原因しているのではないだろうか。「情は人(女子)のためならず」。こんな言葉を、女子選手自身も強く望んでいるのではないだろうか。

その他、生活方面の細いことを反省すれば、いろいろあるが、現在の日本最高チームともいえる候補選手が集まっているだけに、そこには絶えず緊迫感があり、何か息が詰まるような気分がみなぎり、それに柔らげるべく、できるだけ選手たちに話しかける様にし、一緒に床を並べて寝るというふうなこともやってみたが、さすが最終予選会を一ヶ月後に控えての選手たちの緊張は意外に大きく、表面上さりげない話題を交しているが、各々寝につけば、転々反側、おそくまで眠れない様だ。この面における精神的な援助などは私自身全く術もなかった。唯こうしたことによって、選手たちの性格に或る程度、ふれ得たことは、私の大きな収穫であったとよろこんでいる。

何分付添いが、すべての点において未熟な者ですから、不十分な点は多々あつただろうし、私自身も決して満足すべき役割を果たしたとも考えられないけれども、無事合宿が終了したことは、何等かの期待を含めて、私にはうれしく感じている。

(浦畑記)

飛 込 準 備 そ の 他

川 島 正 之

屋内プールの基本的設備に関しては、施設担当委員より詳細の報告があると思われるので、飛込に関してはタワー完成後について項目別に簡単に報告すると共に感じた点を記してみたい。

○タワーについて

設計及び予算上の都合から我々の希望通りのものができなかったことは甚だ残念である。

即ち10m台より飛び出した場合、天井の傾斜に向って飛ぶことになり、危険性は全くないことは分かっているが

プレーヤーがかなりの圧迫感を感じることは事実である

○飛板のとりつけ (3m三基, 1m一基)

3m用としては木製(檜), アルミニウム合金, グラスファイバーの3種類。

1m用としては 木製を用意。

どの製品をどの場所にとりつけるかという点について日本選手に実際に使用してもらい、これを参考にして取りつけた。外国選手到着後はその意見も聞いたが、参加全選手の意見が一致して試合当日のような設置方法

をとった。

(注) 板が不幸にして折れた場合も考慮に入れ、他に木及びアルミの飛板(水泳連盟所有のもの)各一個を予備として準備。

○電動式採点板

従来は手動式の採点板を使用していたが、本大会に備え電動式のものをつくって競技に使用。

(注) ①各審判の横に点数を記入した金属板の入ったボックスを設備、これが各審判の手もとの点数別ボタンに電動で直結。

②選手のプレー終了後、審判長の合図で、手もとのボタンを押す(セットされた時は赤ランプがつく。採点板はまだ上らない)。最後に審判長がメインスイッチ(出)を押せば採点板は一勢に上って点数を示す。再びスイッチ(入)を押せば一勢に下りる。これは非常に好評で外国関係者の賞讃の的となった今後の研究課題としてはこれをもっとポータブル式のものにし、簡単に他の競技場に持ち運びできるようにしたいことである。

○照 明

非常に立派な照明設備であるが、あまりにも水がきれいであることと電気照明、ガラス窓を透して入ってくる日光の水面反射が原因し、波立てパイプ(水が余りにきれいなためプールの底が見え、かえって水面が判定しにくいので、わかり易いように水面に向かって注水し、波を立てせる装置)を利用して選手が落下時の水面の位置をつかみにくい点があったので種々テストの結果、練習及び競技時は窓(観覧席と反対側)のカーテンをおろし、飛込台側天井の照明を消して行った。

○マイク設備

テストの結果、感度は良好だが、スピーカーの向きの関係上、観覧席側は良く聞えるが、反対側(窓側)は聞きとりにくい点があり、通告員で何度もテストした結果ボリュームを変えたり、発声法を変えたり、種々研究した。そのような努力にも拘らず、窓側の審判員にとっては極めて聞きとりにくく苦労したので、今後窓側天井にもスピーカーの設置が望ましい。

○種目整理

参加国の中でF.I.N.A.ルールを充分理解していない所があり、種目の申込に不備な点があったので、監督及び選手に直接説明し、申込みの選択種目を日本語及び英語に清書、試合当日用とした。

又韓国選手(男子)が日本語、英語ともにわからないため、韓国飛込監督と密接に連絡すると共に競技当日特に連絡員を一人つけた。

○練習時間割宛

練習時間については各国監督者会議で決定し、最初は割当時間通りの練習方法であったが、間もなく参加国より「アジア諸国での飛込先進国である日本チームの練習状況を見学し、目からの勉強をしたい」との希望が出、「更に進んで共に練習して指導を願いたい」との希望があり、後半は合同練習のような状態となり、まるで内輪同志のような和やかな雰囲気となった。

○競 技

飛込競技は特殊種目のため、参加選手は少数であり、技術的には学ぶべき何ものもなく、順当に日本チームの勝利に帰したが、外国参加選手(特にイラン)の練習及び競技当日の熱心な態度に学ぶべきものがあつた。

実際に日本到着直後はじめて練習にあらわれた時の技術と、その1週間後の競技当日頃の技術とは非常に進歩のあとがみられる。勿論、この蔭には日本チーム岩佐コーチの親切な助言があつたことを明記しなければならないが、彼等から非常に感謝され、国際親善の一助になったことを卒直に感じた。

以上、無事国際競技を終えたことを喜ぶとともに、最後に飛込競技参加選手の増加と技術の向上を願って止まない。
(筆者は本連盟飛込委員)

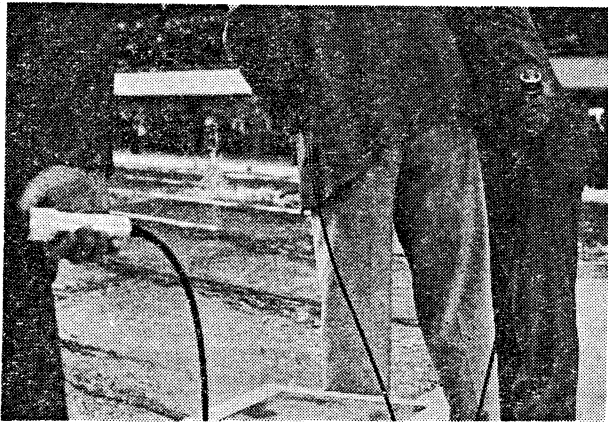
アジア大会で使用した新しい機械計時器デカトロンはピストルの音波で動き出すようになっているが、その感度が鋭いため、人間がピストルの火をみてストップウォッチを押すのより大体0.2秒位早く動き出す。女子モデルレーレーでは機械計時によるタイムが4:57.1ストップウォッチによる参考計時が4:56.9、従つてもし反則がなくて従来通りストップウォッチによるタイムを正式に採用すれば、公認世界記録4:57.0を破つたことになる。

まことにきわどい話である。又感度が鋭いため、ピストルの音波をうけるマイクロホンのそばで大きな声を出すと、すぐ感じてデカトロンが動き出す。

200m平泳の予選の時であつたが、スターターの「ヨーイ」かがよつてからマイクロホンのそばで、国旗掲揚係の自衛隊員が少し大きな声を出したため、ピストルの号音前にデカトロンが動き出し、あわてやり直したことがあつた。この新鋭機械もまだ時々故障をおこすので100%の信頼はおけない。従つて、どうしてもストップウォッチによる計時を併用せざるを得ない現状にある。(宍道)

競技用機械関係設備について

深谷 俊明



計時員が押ボタンを押しているところ

1. 機械計時器

ヘルシンキ大会当時より、国際水連では、時計による計時が、誤差を伴いやすいことから、計時の機械化を要望する声がおこり、日本水連でも、ヘルシンキ大会後、機械審判委員会を設け、安部輝太郎、松沢一鶴、伊丹康夫、川田友之、深谷俊明が委員にあげられ、これに東京大学工学部応用物理学教室の菅義夫教授、筒井俊正教授、神山雅英助教授、柴田正助手および時計主任加藤倉吉氏等に専門委員を依頼し、これが研究を始めた。

当時は、機械の取扱いが簡単であることを主目標にし、まづ、着順判定に重点をおいて試作し、主なる競技会に試用した。しかし、実際に使用して見ると思わぬところで失敗し、改良に改良を加えて、NSR式自記着順判定器を完成した。

この機械は着順判定器として使用するにはよいが、ペン記録から時間を読取るのに多くの時間を必要とするため、電気的な機械装置を完成する必要にせまられた。

ここに、計時用としては、メルボルン大会において、オメガ時計が採用したデカトロン（数読み真空管）の使用による機械計時器の研究が、32年4月より具体化することとなり、委員会開催数は13回にも及んだ。

これは、メルボルン大会において使用されたオメガシステム以上の機能を目指して、前記の着順判定器による競技会における経験を生かし、また、菅、筒井、神山教授の指導により、デカトロンのメーカーとしてわが国第一の技術を誇る日本無線KK内の医理学研究所の真島鉄柱氏によって完成したのである。その後、競技運営の立場からの松沢一鶴、川田友之、安部輝太郎の助言を取入れ、世界に誇る機械審判器の3セットが、アジア大会に登場し、これがI.O.C.の委員を驚嘆せしめ、アジア大会の最大の話題の一つとなり、これが立派に活用できたことは、ヘルシンキ大会以降、これの完成

に努力した関係者一同の大きな喜びである。

この機械の機能の大様はつぎの通りである。

（医理学研究所製作）

電源 交流 100V 50～1.5KVA以下

計測範囲 100/1秒～99分 直読

精度 1時間に 10^{-4} 秒以下

マイクにより、音波をとらえ、100KCの水晶発振器より数的の逡減回路を使用し、1/100秒の基準インパルスを発生せしめて、これを3セット、27組の計時回路に同時に送り込んで、デカトロンによって計時するものである。

2. 飛込採点表示器

飛込競技における採点表示が、メルボルン大会で問題となり、採点表示を公平化する機械装置の研究が企図され、国際水連ではオリンピック大会には機械による表示器を採用することが規定化されたので、アジア大会においても、これを作製したのである。これは審判員7箇所採点表示盤を設置し、審判員長位置に一括表示および復旧を行う押ボタンをおき、各審判員の採点を一斉に表示するようにしたものである。

飛込採点表示を機械化したのはベルリン大会以来のことであり、ベルリン大会より数段の進歩が見られた。

この採点表示器の電気的特性は下記の通りである。

入力側 AC/100V 50～60e/s 6A

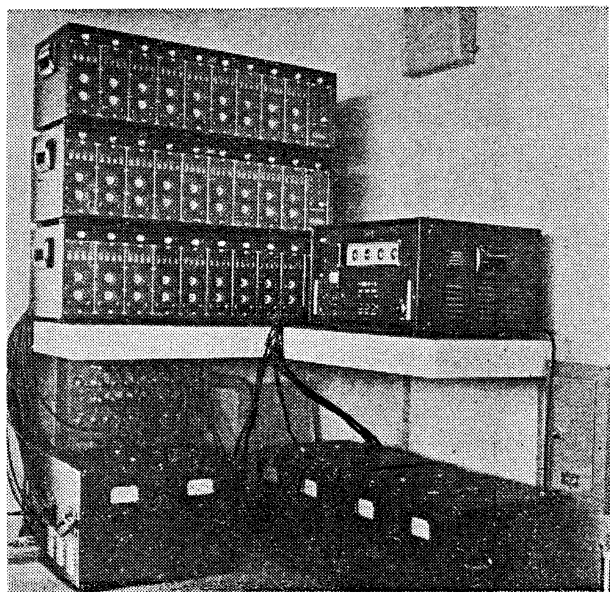
出力側 DC 24V 10A

計器 電圧計65型角 AC 100V

電流計 " DC 1A

電圧調整器 24V ±5%

（筆者は本連盟常務理事、施設委員長）



機械全景

アジア大会あれこれ

○陸上競技場の方で切符を売りすぎて問題となったが、プールの方でも前売を多く発売しすぎていることが分り、途中で回収したり、大会直前に仮のスタンドを作ったりして、事なきを得たが、切符売すぎのことが新聞にデカデカと報ぜられたため、水上競技で一かせぎしようとしたタブ屋の切符がサッパリ売れなかった由。又仮設スタンドは一般スタンドの反対側に作られたが、一般スタンドが、光の反射のため見にくかったのに反し、仮のスタンドはそのようなこともなく、その上プールに極めて近く見易かったと非常に好評であった。

○スタンドから見易い所に大型ストップウォッチが取付けられたが、これは大変評判がよかった。大体の結果が公表を待たずして分るし、特に世界新記録を予期されるようなときは、スタンドの目は一せいにこの時計に集注した。公表のタイムと少しでも違ってはうまくないという説も出たが、参考計時であることを観覧者に知らせておけばよいのだから、それ程神経質にならなくてもよさそうだ。

ただ泳者がこの時計を見乍ら泳ぐと、ペースメーカーの代りとなって、規則に反するという話も出たが、どんなものだらうか。

○大会第3日目に両陛下がお出でになった。丁度男子400m自由形決勝が行われ、山中が世界新で優勝したことを大変お喜びだったそうだが、その時の天皇陛下の階段のあがりおりが非常に慎重だったと、そばにいたSさんの話。多分この大会の少し前に国技館に相撲を見にお出でになったとき、つまづかれたことから、慎重に行動されたのだと推察される。それでなくてもスタンドの階段は普通の階段と違って、蹴上げが不規則だから不注意だとつまづく。

○水球審判のエラヒ氏(イラン)の審判振りはユーモアたっぷりの中々おもしろい。時々妙なゼスチュアをして観客を喜ばせる。それでいて細心の注意を払っているから反則は絶対に見逃さない。右を見ているかと思うと左の反則を発見する、誠に妙技であった。

○女子400m自由形の決勝は日本の芝原とフィリピンのロザダの一騎打ちであった。芝原は4コース、ロザダは9コース、所がどうしたことか、スタート直前に9コース側の水中照明が一斉につき、そのままレースが始まった。役員がこれに気がつき、照明係を探したが行方が分らず、さわいでいる中に大接戦で芝原が勝った。ロザダが水中照明のためうまく泳げなかったかも知れないが、フィリピン側から苦情も来なかったもので、志村審判長一安心。

○中国の女子飛込選手のヤストロボフ嬢にはコーチ兼世話役として許婚の米国海軍士官が同行。一飛び毎に彼に抱えられるようにしてプールからあがって来るので、若い審判員は気がイライラ。

○フィリピンチームには2組の水泳一家が人気を集めている。その一組はボンギース一家、他はロザダ一家である。ボンギース一家は4人姉妹で上から、ジョセリン(21)ソニヤ(19)サンドラ(18)シルビア(17)それにお母さんのパシータ夫人がシヤペロンとしてついでにきている。又ロザダ家の方は、長兄のアガピート(自)、次男のリンバード(背)、長女のヘルトルデス(自)次女コラゾン(自)の4人兄妹でお父さんのカタリノ氏はフィリピンチームのトレーナーである。次女コラゾンさんは11歳で参加選手中の最年少者。クルクルした目の可愛いお嬢さんだ。

○メルボルン大会では国旗が垂直にあげられるのに、場内は無風なので、所謂ハタめかず、どこの国の旗だか見当がつかなかった。これを何とかしてハタめかせるため、始めは送風機で風を立てせよという話も出たが、それでも日本のように中央に赤い丸だけあるような簡単なものはよいが、フィリピンのような旗は果してそれでよいのか、又裏返しにでもなったら大変だと式典委員長の松沢一鶴氏もわざわざフィリピン大使館にでかけて照会するなど大変な気の使いようだった。

○I. O. C. 総会に出席のため来日したブランデー会長以下各国委員、新設プールを見て何れも感心。特に水連御自慢のデカトロンは一同を驚かせ質問が続出した。又或る委員は飛込台にどうしてリフトをつけなかったかとか、スタンドの上は混雑し易いが、換気の点は心配ないか、などと細い所まで注意して見ていた。

○飛込台は極めてエレガントな形だが10m固定台がゆれて困ったようだ。どんなに頑丈に作っても多少はゆれるものだがスタンドから見てもよく分る程ゆれる。規則では10m台は固定ということになっているが、この飛込台は10mのスプリングだと或る選手がボヤいていた。又この台は屋根の下り傾斜に向って飛込むようになっているので、精神的に何となく危険を感じることや、天井の照明が水面にうつりすぎて飛込むときに眩しかったり、プールの底に45°のスロープがとってあるため、入水してから浮き上るときにそのスロープにぶつかりそのような感がしたり、上の方が暖かくて下の方が冷たかったり、とかく文句の多く出る飛込プールではある。

(X・Y・Z生)

親 善 使 節

クロトワージー

柴 原 恒 雄

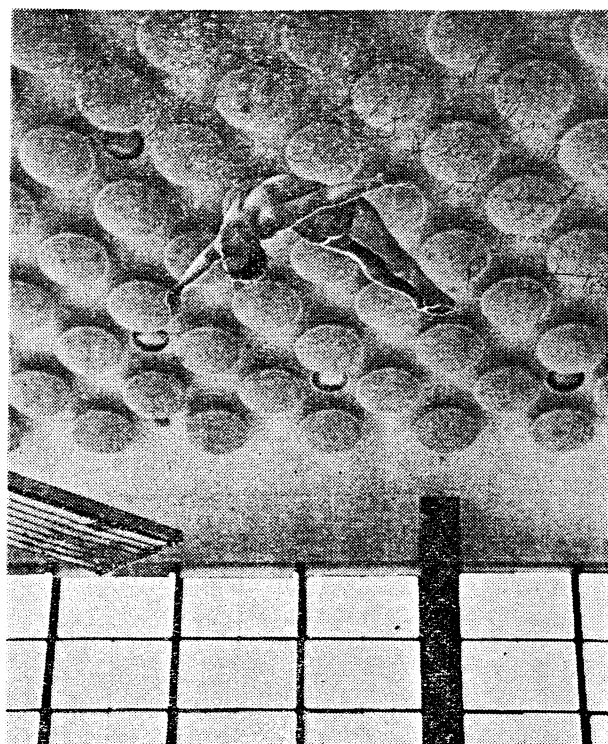
5月中旬アメリカ大使館からメルボルン大会飛板飛込優勝者ロバート・クロトワージーがスポーツ特使として来日するから在日中のスケジュールを宜敷くとの連絡を受けた私は一昨年以来外国選手と接していないので特にヘルシンキ大会に第3位、メルボルン大会に優勝と好成績を挙げている同選手に戦前のスミズ、デエグナー、ウエイン、ルートと戦後のマリノ、ハリスン、ハーパー、サミーリー等長年に亘る幾多の名選手のアメリカにおける飛込技術の流れを見る絶好の機会となった。

クロトワージー選手は御承知の如く、アメリカのコーチ、ギレンやチューディック、アレン等の手を経て、伝統ある名門オハヨーステート大学の名コーチ、マイクペッペの愛弟子の一人で、過般日米対抗に来朝したハーパー、ハリスン、マリノの外グレン、ホワイト等の有名選手と相前後する同じオハヨーグループの一員であり、ダイバーによく見受けられる小柄な、しかもすなおに育った9年半の飛込経歴を持つ27才の好青年である。

今年のアメリカ飛込界は、クロトワージーが今回ニューハンプシャーのダートマスカレッジの飛込コーチとして、プロ入りしてからは依然として光っているのは、何んといっても高飛込のトビアンであろう。

クロトワージー選手の飛込技術そのものに付いては、戦後派のサミーリーは別として、ハリスン、ハーパー等と大きな変化はないが、どのアメリカ選手にも見られる様に必ずといってよい位基礎練習がよく積まれていることは来日選手毎回の事乍ら感じ入る次第である。さてここでクロトワージー選手に日本の現役選手に対する批判を求めて見たところ、予想通り基礎練習の不完全ということが第一で、第二にはその練習方法があくまで練習のための練習であって、競技に対する練習の心構えというか、一発一発の飛び方に競技にそなえる精神的な圧力が加わっていない、いわゆる単に練習の範囲を超えていないということを指摘していたが全く同感であった。

この機会にグッチスミス、シマイカ、デゲナー、ウエイン等力に満ちた強引且つスケールの大きい戦前の各選手と戦後のマリノ、ハーパー、クロトワージー等を比較して見ると、戦後の行き方は空中のフォームそのもの



ということよりむしろ空中における重心の流れということに重点をおいて、この流れを充分利用した無理のない飛び方という風に変化して来て、「必要以上に高さを取らない、必要以上に部分的なフォームに力を集中しない」見るからに自然の線を崩さないという所に飛込の真の美を求めていることが戦前の飛込と大きな差異を作っているが総体的にアメリカの飛び方を自ら具える条件を無にして必要以上に鶴呑みにする傾向が見受けられ、又アメリカの方法に追従しては絶対に勝目の無い日本に於ては今後これが指導方法については大きな課題となっている。

最後に同選手が到着と同時に都営屋内プールにおいて簡単な初練習を行った際、10米固定台の前宙返り3回半を水面の不鮮明から失敗をして呼吸が苦しい様に見受けられたが、間断なく同様な事を3回繰返し乍ら尙且微突を忘れない同選手の態度たるや実に見上げたものである。今頃はセイロンを始め世界各国スポーツ親善の大きな使命を終えてニューハンプシャーに帰着したことであろう同選手の健康を祈って止まない。

(筆者は本連盟常務理事)

クロトワージー氏は、この度アイゼンハウワー大統領のスポーツ特使として各国を歴訪の途中、6月3日来日、素晴らしい演技をみせて6月16日離日した。

なお大統領のスポーツ特使としては昭和31年の暮に同じく飛込選手であるサミー・リー氏が来日している。

日本水泳指導者協会総会

小 泉 正 延

日 時 昭和33年3月30日(日)午前10時～午後4時
会 場 岸 記 念 体 育 会 館 (お茶の水)
来 賓 (8名) 樋口一成氏 小山賢之助氏
宮畑虎彦氏 高橋清彦氏 外山高一氏
佐々木救氏 阿部壮次郎氏 多治見祐孝氏

出席会員 (38名) (受付順, 敬称略)

(福 島 県) 渡辺邦夫

(栃 木 県) 田中武男

(東 京 都) 内藤徹 阿部由起子 有安恵徳 岡田幸雄
熊谷武男 金田平八郎 塩田粹 横山正司
真野博 桑保太郎 牧野豊一郎 米谷義郎
小倉良介 左近允正矩 明石いく子
岡本良作 清水英樹 彦坂英子 中上正
乾康子 伊東稔子 吉田勝平 伊東ひで子
佐藤忠義

(神奈川県) 白山源三郎 小泉正延 牧田勝 黒川光子
森田喜美子 高橋寛至 野尻正幸 橋本阿撥
森下章 今井正七 広中千鶴子

(石 川 県) 阿部壮次郎

開会のことば (内藤徹副会長) 本日の予定について

白山会長挨拶

本年はアジア大会もあり、将来オリンピックの開催の予想もあって水連は益々多事となる。水連普及委員会としては、今後指導者層の底辺を広げる意味で、もっと人数をふやすと共に、本会員が一段と活躍して貰う様はからねばならない。本会の性格は、水連の事業を推進してゆくための協力団体である故に、相互の技術をみがき、指導能力を向上させる事に力を注ぎつつ、組織をかため、水泳普及発展に貢献する事が使命である。それ故に、本会は水連にとってはなくてはならぬものである。

経過報告 (小泉正延庶務幹事)

資本もなく再発足した本会にとって、この一年間は苦斗と試練の年であった。昨年の総会以来各幹事は各々運営の係を定め、それぞれその任に当たった。先ず会報第一号を発行するとともに、会費の徴収にかかったが、納

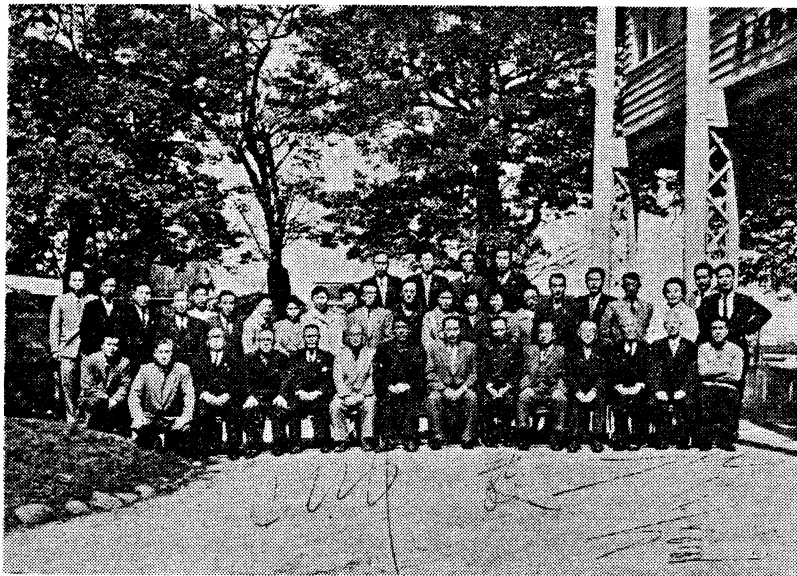
入率がわるく閉口した。もとより会費がその財源の唯一のもの故、その督促に苦慮したが数ヶ月の後になっても僅かに200名を越えたにすぎなかった。それ故にその後は凡て自給自足のわく内でやらざるを得なくなった。でも極力積極性を失わぬ様努力し、先ず会員の資質向上をめさす研修会を計画した。ところが、たまたま、例年文部省と水連との共催になる中央講習地が地方9ブロックの講習会に変わったので、本年に限り水連より委託をうけて本会が中央にて指導者養成講習会を催すことになった。このことについては既に機関誌「水泳」に掲載したので省略するが、初期の目的を果し得たことは喜ばしいことであった。次に会報第2号の編集に或は会員名簿の作成に主力を注いたが、幸にも多治見印刷所の協力を得て、第2号は特に一段と立派なものになり、記事内容も、充実した。然し未だ地方会員からの投稿のない事がいかにであった。その他、会員との諸連絡通信に、相互の意見の交換のための「会員の声」の報告に、或は、アンケートによる水泳の実態調査等に、最初の年とて多事であった。庶務も時には連日出勤、幹事会も十数回に及んだが、どうか赤字も出さず、やりとげたことは多としていただきに。

会計報告 (今井正八会計幹事)

昭和32年度決算報告異議なく承認。予算案について (内藤徹氏) 未だ今年度の会費の納入がないために、いかなながら今日その提出ができないことは申訳ない。今年度も会報によって後日事業計画と共にはかる予定である。

議 事 (岡田幸雄氏議長, 岡本良平氏司会)

1. 支部結成の件 (米谷義郎幹事) 原案提示
支部結成は必要であるが、これは会員の多いところから結成することにし、まだ全国的にというところまでには至らない。今後検定規約等の改訂により会員の数が増す様になれば、それが可能となってくる。現在ではごく大ざっぱな規準を打出す程度でよいと思う。即ち各地の実態に応じて出発する必要があり、それをきまげぬ最



少限度の条件として、次の三点をあげてみた。

イ、支部は加盟団体の地域毎に作る。本会は水連の外廓団体という性格上末端に行って混乱のおこらぬよう、水連の組織と平行させる。

ロ、支部長は加盟団体の長又はそれに準じた者とする。

ハ、支部に属する会費納入、通知等は支部を通じて行う。

これによって本部の経費を節約する他本部と支部との直結をはかることが出来る。

質 疑 (左近允正矩氏)

支部結成にはもう少し具体的な方針を示した方が、実施やすいと思うが。

(岡田議長) 支部結成については、加盟団体区域内の会員によって、自発的に行う必要がある。結成に際しては中心となる人もきめ、準備会などを持つ事も必要であろうし、又中央の水連に対しても筋の通った方法をとる事が大切故、その点をよく検討して頂きたい。

(左近允氏) 愛知の例を説明願いたい。

(小泉氏) 既に数年前から結成して県水連へ加盟し、支部会報など発行している。支部のモデルとすべく、目下詳細は問い合わせ中である。

(左近允氏) 本部の意図しない支部のできる可能性もあると思うので準則をよく考えて設置する必要がないか。

(小泉氏) 支部に入るためには先ず本会の会員になる必要があり、入会する事によって互いに磨かれよりよい指導者になり、またよい支部ともなるのである。

(米谷氏) 検定合格者以外の者が入会していれば、本部から警告を発すればよいから、余りむずかしい準則を設けると発足をおくらせるので最少限度がよくないか。

(左近允氏) 本部で資金難に苦しんでいられる様だが、愛知の会費納入状況はどうか。

(小泉氏) 9名位まとめて納入し、成績は大変によい。

(岡田氏) 支部と本部の性格について、本来ならば地方で自発的に結成し、本部に報告されるのが順であるが、本部との密接な関連をとることについてどう考えるか。

(米谷氏) 各地に混乱する程支部ができるなら誠に結構な話であるが、現状ではそうは思われないので、現状に立って、この三方針程度で出発するのがよいと思う。

(左近允氏) 地方では中央の考えているようには行かず、加盟団体が行う事業を支部

が行うようになるおそれがあるので先程の三方針の他にあと一つ、手続上の方針を追加しておいたなら、方向をあやまらない支部ができると思う。

(岡田氏) 以上の事をふくめて事を進めることを異議なしと認める。

役員改選の件 (小泉氏) 原案提示

総会の準備委員会において現在の幹事が差支えない限り、再任してはとの意見あり、なお必要に応じ止むを得ない範囲で補充するという原案だが。

(岡田氏) 原案に異議なしと認める。以上で議事終了。

来賓祝辞 (要旨)

(樋口水連会長)

水連へ三十余年ぶりでカムバックして何より驚いたことは、中学へ入学する生徒のうち約半数は泳げないということをかいたことである。昔われわれの学生時代とくらべてもどうしたことか考えられない。現在の水泳界の方向は選手養成にかたむいているむきがあるが、水泳人口増加の要望に応じて、先ず指導者の大量養成が急務であると共に、従来の先輩指導者の方々の積極的な活躍が望ましい。この意味において本協会の発展を心より祈るものである。

(小山専務理事)

先程指導者に特典云々との話が出たが、水泳人はあくまで、アマチュア精神でゆきたい。自分の持つ力を奉仕して水泳の発達に貢献されることを望む。本協会が単なる親睦のためのみでなく、水泳の普及発展に実績を挙げられるならば、水連として出費は惜しまない筈である。各部とも一率にこの方針をとっている。折角健全な発展を望む次第である。(以上で午前の予定終了)

講演 (要旨)

(宮畑虎彦講師)

本協会の運営に当って会員がみんなアマチュアであることのなやみがある。

戦後水泳指導の面では教員養成の成果があがらぬ。男子教員中泳げる者30%。紫雲丸事件以後、島根、香川、滋賀の諸県は泳げぬ者は教員に採用しない。高知では水泳検定に受験しないものは卒業させない。

小学校では泳げなくとも職務上教えなければならぬ立場にある。初心者指導が敬遠されることは、初心者指導技術が身につけていないからである。泳ぎを覚えた時期を忘れる人は少い。しかし簡単な技術的なことを注意されぬためにうまく泳ぐまでいかなことが多い。講習会等には初心の子供を教えて見せるがよい。10名のグループを流れ作業で教え1時間で5米泳げた例もある。初心者指導入門として広く多くの方々から種々な経験をきかせて頂ければ泳げぬ者の余りに多い現状を打破する一助となろう。以下初心者指導法実例略

(2) シンクロについて (要項のみ)

高橋清彦講師 (シンクロ委員)

イ、シンクロの歴史

1930年にシカゴで開催された万国博覧会でショーとして始めてシンクロが行われた。1949年から全米選手権、昭和28年以後日本をはじめ欧州にエキシビジョンで廻る。現在12ヶ国で行われている。昭和25年日米大会の折に日本泳法のみを組立てふりつけして大阪で行う。水中の動作が多いので、日本泳法のように水面上の動きの多い方が面白そうに見えた時代もあった。28年米国チーム来日、実際に見ると考えているものよりはるかに美しく、その後串田さんと研究グループを作り競技会をするところまでこぎつけた。今年は米国チームは来日しないが、監督がきて指導したい旨連絡があった。

ロ、シンクロ競技

ルールが最近非常に変わりつつある。初期はショーとして発達。はなやかなものからスポーツとして地味なものに変わりつつある。(競技法と審判法は別項)シンクロは競泳と違って練習すれば楽しい面が多いので普及するものと思う。現在我が国の実力は全米決勝で6、7位のところに行っている。

懇談 (座長米谷義郎幹事)

はじめに座長より次の三点を主として特に簡潔にそのものズバリの発表をされたい旨の望要があった。

1. 協会組織運営面について、
2. 指導活動について、
3. 研究的問題について、

(吉田勝平氏) 私見発表 座長の指名により

1. 泳ぎに関する価値判断が過少である。2. 基本能力の価値が小さく評価されている。3. 交通事故死者は年間7501名だが、水難は1万以上ときく。4. 水泳指導の大切な点は施説と指導者の二つにつきる。5. 指導者は水泳技術より指導能力が更に大切。6. 水泳能力検定は国家試験にしてほしい。

(清水英樹氏) 私見発表

本会の発展策を真剣にはからねばならぬ。現実として会費納入者が少いことなども、もっとほり下げて考えてみなければいけないと思う。スキー連盟の指導者の立場として例をとってみれば、指導員と準指導員があり、その下に一級、二級等のクラスがある。このクラスを通らなければ指導員になれない。指導員になれば自分で検定を行うことができる。それを本部に報告して本部が認定する。従って指導員になるために多額の入会金を納めても入会するが、本会では会員にどのような特典を与えているか。この会に入ることによって何等かの特典が与えられるとすれば喜んで入会もすれば加盟もする。支部本部の関係も密接になると思う。スキー連盟の例を併せ研究されたい。水泳指導は好きなものだけにまかしては皆泳の実はあがらない。もう一つ、小中学校の水泳に、技術的な面で援助する計画等をされたい。尚本会の同窓会的存在は反対である。

阿部壮次郎氏 (富山県代表理事)

地方水泳界では現在競泳のみ重点をおき、泳法指導面には余り態度が見られない。支部組織を早めて、そうした指導力を研究し合い、なお多数指導者を養成しなければならない。なお初心者指導法として、自分は浮身から入ることが、恐怖心がとれて、進歩が早いと思う。

(佐々木教氏)

子供に水心をつける事は、早くからした方がよい。アメリカで1年6ヶ月で泳げる様になった例すらある。水にもぐってあがったとき鼻に水を入れないため、口を開けて呼吸する事を教える事が大切である。清潔な風呂ならどこ家庭でもできる。これは水泳指導でなく育児法の常識として家庭で行われたい。競技のおよぎと、人生の常識としての泳ぎとは別個のものである。

次に津市の女学校教師の水泳事故で刑事問題にとわれ、多くの教師が罰せられたが、これを何と考えるべきか。

(塩田稔氏) 呼吸法の指導について

泳ぎの呼吸法をすべての生活に応用する。浅い呼吸、深い呼吸、アウンの呼吸、イブキの呼吸、動作がかたい

ことは呼吸がうまくいっていないからである。

浮身の呼吸は浅い呼吸でないとできない。潜水は深い呼吸、アウンの呼吸は分分、イブキの呼吸は長時間顔を水につかせる時の呼吸である。

(左近允氏) 最近の学校の水泳指導の面では進むことを重視して、手だけで浮く指導が指導課程にとり入れてない。手をたくみにつかって体を自由にこなす技術の指導が大切ではないか

(串田氏) 手の動きのみで競争させる事を教材にとり入れたらどうか、シンクロの進歩にもなる。

(阿部氏) 女子の場合、手を先に教える事は、顔をぬらさぬため、進歩が早い。

(彦坂英子氏) 子供の母として、いかに水泳の普及がなっていないかあきれている。立派なプールがありながら子供は4年生になっても泳げない。文部省か教育委員会を通じて強調して貰いたい。水連としては、級を設ければ子供もはげみがつくと思う。

閉会のことば (白山会長)

課題を沢山残して終ることは将来の発展に対して喜ばしいことと思う。

開会后一同は千駄ヶ谷の国立競技場及び屋内プールを参観して散会した。

なお総会に対する反省と本会の在り方について幹事の意見をまとめてみると、

1. 総会には協会の行き方について充分の時間をかけて討議しなかった。枝葉末梢的な事は極力さげ、会の死活問題から重点的に協議しなかった。

2. 目下会員の切望することは何か。それらをつかんで、その要望に答える様に進めたい。

3. 本会の在り方について今後要望されることは、イ、水連と本会との結びつきがしっくりいっていない感がある。現状では普及委員会とはうまくいっても水連との関連に何かそぐわぬものがあるようである。

ロ、水連の主軸になっている方々ともっとよく話し合い、充分の認識を深めて貰う必要がある。なお本協会に入って貰って指導して貰いたい。

ハ、水連と本協会とは表裏一体となる筈である。もとより会員は水連の目的を体し、第一線でその指導にあたっているものである。水連の手足となってやっているものであれば水連からの指導鞭撻はよこんでうけ、又それによって激励されるのである。

ニ、千余の会員がかりに大同団結して国民皆泳の目標にあたったなら会、全国的にレベルの上ることは

明かである。

ホ、現在200余人の会員だけが、ついて来ている状態に対して大いに反省しなければならぬものがあると思う。

ヘ、第一線の水泳指導はたしかにつらいものがある。時には重労働である上に責任をもたされる。その上、上からさほど奨められない場合が多い。その他幾多のあい路があるために、これを続けることは至難である。

ト、かつては、好きなものとか、熱意のあるものだけの指導者によって、事足れた時代があったかは知らぬが、今後全国的に大量の指導者がこれにあたるようにならなければならぬには、それらの人だけでは到底望まれない。

チ、ことに本会員の大多数が小中高の学校職員であれば、文部省よりの強力な奨励によらぬ限り到底皆泳の実は挙げられないと思う。

以上を敢て附記し大方の御批判と御指導御鞭撻を仰ぐ次第である。 (筆者は本連盟普及委員)

(41頁より続く)

424	前宙返りえび型	1.2
425	前宙返りかかえ型	1.1
426	サマー・サブ	1.5

第5群 その他種目

501	コルクスクリュウ	1.2
502	クレーン	2.0
503	フロート	1.1~1.5
504	ログ・ロール	1.1
505	ログ・ローリング	1.5
506	マーリン	1.2
507	オイスター	1.2
508	ペンドラム	1.8
509	リヴァース・ペンドラム	1.9
510	ペリスコープ	1.5
511	ブランク	1.4
512	シャーク	1.2
513	サークル・シャーク	1.3
514	8の字シアーク	1.5
515	スパイラル	1.8
516	ソードフィッシュ	1.7
517	ストレート・レック・ソードフィッシュ	1.7
518	テールスピン	1.9
519	トービドー	1.3
520	タブ	1.1
521	バック・ウォークオーヴァー	1.4
522	フロント・ウォークオーヴァー	1.4
523	ウォーター・ホイール	1.3

シンクロ競技関係事項

シンクロ委員会

○春の講習会について

例年の様に本年も二回の講習会を開くことを予定し、先ずシーズン始めのものとして、

1. ルールの改正を伝える。
2. 新人の養成
3. 5月に控えたアジア大会に多数で構成したものを行いたい、

と、三つの目標をおいた。

参加者36名、内高校生13名、大学生10名、これは学生の中にシンクロが普及してきたあらわれであり、又学校単位での参加は講習会終了後にも、デュエット・チームの演技構成が容易になり、その普及も根を下ろしたものとなり、新人養成への明るい希望ももてる。ルール改正の説明にあわせて競技会参加の概略、練習方法、音楽の選び方、構成にあたっての注意等、毎日約一時間の時間を設け、受講生からの熱心な質問も出た。若い人の参加が多く、最初の日に感じた泳ぎこみの不足は、日を経るにしたがって、その頑張りや習得の早さで十分に補われ、最終日にはアジア大会に備えてのフォーメーションの一部をえがいてみるまでになり、この講習会の目的は八分通り果されたように思った。(高橋静子記)

講習会の実施概要

主催 日本水泳連盟
場所 Y M C A 室内プール
期日 昭和33年3月24日～29日
参加人員 36名
時間 実技、講義とも20時間
講師 串田正夫、松沢一鶴、白山源三郎
助教 高橋静子、染谷幸子、飯田紀子、
三浦洋子、渡辺久子、和田民子、
松沢洋子、西沢苔子、立石佳子、

シンクロ競技規則改正

(1958年4月)

シンクロ競技規則の一部が次の様に改正され、これにより本年度の全日本シンクロ競技を行うことにした。要約すると次の通りである。

シンクロ・スイミング競技要項

1. 競技種目 ソロ(1人) デュエット(2人1組)

チーム(4人から8人まで)

2. 出場制限 各種目に1人各1回出場することができる
3. 予選及び決勝 各種目において7組以上申込みがあった場合は予選を行い、上位7位までを決勝出場資格者とする。
4. 演技構成 各種目とも全体所要時間は5分以内とし陸上動作を入れる場合は20秒以内とする。構成に当って、規定のスタunts群(別紙規定スタunts一覧表参照のこと)の内から必ず5種のスタuntsを選び組み入れなければならない。この規定スタuntsの選択については、1群から2つまでは選択することができる。
5. 演技構成難易率 規定スタunts 5種の難易率合計は、8.5を最高限度とする。
6. 平均難易率 難易率合計を5で除し、少数点以下2位までとする(3位以下切捨)。但し、最高1.70として得点計算を計う。
7. 演技時間 各種目ともそれぞれの演技時間は5分を超えてはならない。演技開始の際、陸上動作を行う場合は20秒を超えてはならない。
8. 演技の開始と終了 審判長の合図により音楽とともに始め、音楽と同時に終らなければならない。演技開始は陸上からでも、水中からでもよいが、終了は必ず水中で終らなければならない。
9. 審判員 5人
10. 採点 「完遂度」と「美しさ」の2つの観点から採点する。「完遂度」は、技術の正確さについて採点する。「美しさ」は、同調性、表現力、演技態度等を総合し全体的表現の美しさについて採点する。
11. 採点基準 「完遂度」及び「美しさ」とともに0点から10点までの点を表示する。

完全なる失敗	0	不満足	½～2½
不十分	3～4½	満足	5～6½
充分	7～8½	完全	9～10
12. 得点計算 ①「完遂度」の得点5人の審判員の表示した採点の最高最低の各1を除き、残り3つの点を合計し、平均難易率を乗じて求める。
②「美しさ」の得点5人の審判員の表示した採点の最高最低の各1を除き、残り3の点を合計する。
①+②を得点合計とし、若し反則があった場合は得

点合計から減点する。

13. 加算点 チームの場合において、4人をこえて1名を増す毎に得点合計に点を加算する。
14. 順位 総合得点により順位を決定するが、同点の場合は同順位として発表する。
15. 反則 次の場合は反則として5点減点する。
 ①演技構成記載用紙に記載したとおりに演じなかった場合(省略、順位の変更等)
 ②演技構成の中に組み入れた規定スタンツの5種を規定のとおり行わなかった場合
 ③演技の開始、終了が伴奏音楽と同時に行われなかった場合
 ④デュエット、チームの場合に規定スタンツ5種について同時に行わなかった場合。
 次の場合は、2点を減点する。
 ①陸上動作が20秒を超えた場合。
 ②演技全体が5分を超えた。
 ③陸上動作中に、動作を中止、あらためてやりなおした場合。
16. 失格 入水後において動作を中止した場合は失格とする。
17. 水着審判長において水着が適当でないと認めた場合は、演技を許可しないことができる。

規定スタンツ一覧表

第1群 バレー・レグ種目

番号	名 称	難易率
101	片足バレー・レグ	1.5
102	片足交互バレー・レグ	1.6
103	両足バレー・レグ	1.8
104	カタリーナ	1.8
105	カタリーナ半回ひねり	1.9
106	カタリーナ1回ひねり	2.0
107	リヴァース・カタリーナ	1.7
108	アメリカン・アイフェル・タワー	1.6
109	フラミング	1.9
110	フラミング半回ひねり	2.0
111	フラミング1回ひねり	2.1
112	ひざ曲げフラミング	1.7
113	ひざ曲げフラミング半回ひねり	1.8
114	ひざ曲げフラミング1回ひねり	1.9
115	サブマリン	1.5
116	両足バレー・レグ・サブマリン	1.9

第2群 ドルフィン種目

201	ドルフィン	1.5
202	ドルフィン半回ひねり	1.6
203	ドルフィン1回ひねり	1.7
204	バレー・レグ・ドルフィン	1.6
205	ひざ曲げドルフィン	1.4

番号	名 称	難易率
206	ひざ曲げドルフィン半回ひねり	1.6
207	ひざ曲げドルフィン1回ひねり	1.7
208	フライング・ドルフィン	1.3
209	フライング・ドルフィン半回ひねり	1.4
210	フライング・ドルフィン1回ひねり	1.5
211	ダブル・フライング・ドルフィン	1.5
212	チェーン・ドルフィン(2人)	1.6
213	ミックス・チェーン・ドルフィン(2人)	1.6
214	ピンホイール・ドルフィン	1.8
215	8の字ドルフィン	1.7

第3群 フット・ファースト・ドルフィン種目

301	フット・ファースト・ドルフィン	1.7
302	フット・ファースト・ドルフィン半回ひねり	1.8
303	フット・ファースト・ドルフィン1回ひねり	1.9
304	ひざ曲げフット・ファースト・ドルフィン	1.7
305	ひざ曲げフット・ファースト・ドルフィン半回ひねり	1.8
306	ひざ曲げフット・ファースト・ドルフィン固ひねり	1.9
307	バレー・レグ・フット・ファースト・ドルフィン	1.8
308	サブマリン・フット・ファースト・ドルフィン	1.9
309	フット・ファースト・チェーン・ドルフィン(2人)	1.8
310	ピンホイール・フット・ファースト・ドルフィン(3人)	2.0
311	8の字フット・ファースト・ドルフィン	1.9
312	8の字フット・ファースト・ドルフィンのヴァリエーション	1.9

第4群宙返り種目

401	バラクーダ	1.8
402	バラクーダ半回スピン	1.9
403	バラクーダ1回スピン	2.0
404	後宙返りえび型バラクーダ	1.9
405	後宙返りえび型バラクーダ半回スピン	2.0
406	後宙返りえび型バラクーダ1回スピン	2.1
407	ヘロン	1.8
408	ヘロン半回スピン	1.9
409	ヘロン1回スピン	2.0
410	キップ	1.6
411	スプリット・キップ	1.6
412	キップ半回ひねり	1.7
413	スプリット・キップ半回ひねり	1.7
414	キップ1回ひねり	1.8
415	スプリット・キップ1回ひねり	1.8
416	ポーパス	1.4
417	ポーパス半回ひねり	1.5
418	ポーパス1回ひねり	1.6
419	フライング・ポーパス	1.3
420	ダブル・フライング・ポーパス	1.5
421	シール	1.5
422	後宙返りえび型	1.4
423	後宙返りかかえ型	1.1

(38頁へ続く)

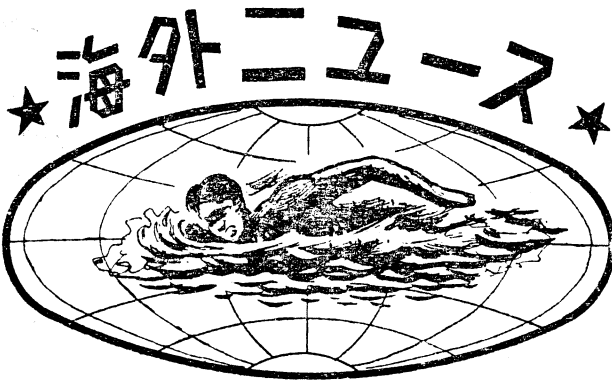
日本水泳連盟役員

(昭和 33 年 9 月末 現在)

会 長	樋口 一成	千葉 真一	小野田 一雄	高島 文雄	中山 正善
顧問	西本 竜三	野村 駿吉	野村 憲夫	松本 滝蔵	松沢 一鶴
	中尾 保	藤田 明	佐々木 救	斎藤 恵吉	沢田 武治
	藤井 正太郎	関屋 悌蔵	杉本 伝		
	本井 功	石田 恒信	入谷 唯一郎	磯野 百男	原 正一
評 議 員	岩崎 忠雄	林 年松	長谷川 俊雄	仁田 順三郎	外山 高一
	原 秀夫	大橋 国太郎	渡辺 寛二郎	渡辺 文蔵	川口 又男
	奥野 良	高石 勝男	鶴田 義行	中村 元一	村松 正一
	吉本 祐一	野田 一男	山崎 辰雄	松本 治平	藤本 秀松
	上野 徳太郎	児玉 清雄	小山 賢之助	安部 輝太郎	斎藤 武五郎
	小林 高志	斎藤 劍次	菊田 保孝	宮畑 虎彦	白山 源三郎
	斎藤 享				
	島崎 保正				
専務理事	小出 靖彦				
名誉主事	安部 輝太郎				
会計理事	志村 義久				
常務理事	吉村 伝治郎	吉田 勝平	勝村 肇	古橋 広之進	岩合 伝
	須山 英伍	村上 勝芳	太田 光雄	長久 勝之	藤沢 有
	菊池 章	深谷 俊明	内藤 徹	牧野 豊一郎	北村 久寿雄
	伊藤 三郎	鈴木 朝治	柴原 恒雄	小川 道郎	栗村 中丸
	穴道 洋一	串田 正夫	安永 弘	宮畑 虎彦	小野 四郎
	白山 源三郎	岡本 勁一	赤樫 卓爾	志村 文一郎	
理 事	川田 稔	瀬川 政雄	田松 長次郎	石井 辰五郎	池谷 君夫
	神山 富雄	高橋 庄之助	社本 義信	阿部 壮次郎	岡山 四郎
	松本 治平	高畑 秋介	重松 利生	石田 恒信	中田 清一
	鎌田 寿夫	鶴田 義行	中山 健介	高木 恒夫	飯田 寿平
	西本 竜三	広崎 格五郎	小山 幸雄	藤尾 恒九郎	林 康雄
	上野 徳太郎	多治見 祐孝	清水 治	清川 正二	阪本 响一
	竹林地 文雄	岩佐 道雄	川島 正之	鷺田 武	金子 巍
	伊丹 康夫	村山 修一	和田 幸一	小柳 富男	山崎 桂一郎
	渡辺 太郎	岡本 進	塚本 利三郎	赤坂 三芳	小野 寺明
	武田 政明	服部 博	谷 貫太郎	斎藤 輝夫	河合 守久
	三原 淳雄				
監 事	渡辺 寛二郎	奥野 良			

日本水泳連盟学生部会役員

部会長 奥野 良 名誉主事 太田 光雄 名誉会計 赤樫 卓爾



豪 州

1958年度の開幕を承る豪州勢は、昨年の休眠から覚め、凄まじい前進を開始し、世界新記録の空前の大量生産を以て、世界中を驚かせている。

ニューサウス・ウェールズ州選手権 1/4~18

シドニー・オリンピックプール (55 y 塩水)

男 子

		予選	決勝
110 y 自	1. デ ヴ ィ ッ ト ②①	57.4	56.1
	2. チ ャ プ マ ン ⑱	57.2	57.2
	3. シ ブ ト ン ⑮	57.5	57.7
	4. オ ハ ロ ラ ン ②①	58.6	58.0
	5. グ ド マ ン ⑮	59.7	58.7
220 y 自	1. コ ン ラ ッ ズ ⑮	2:07.6	2:04.8 (m y 世新)
		28.5	1:00.2 1:32.2
	2. チ ャ プ マ ン	2:09.5	2:05.2 (m y 世新)
			59.5
	3. ハ ミ ル ト ン ⑮	2:07.6	2:07.4
440 y 自	1. コ ン ラ ッ ズ ⑮	4:36.2	4:25.9 (m y 世新)
		1:03.7	2:10.5 3:18.0
	2. ウ イ ン ラ ム ②①	4:39.5	4:34.4
	3. ハ ミ ル ト ン	4:35.1	4:34.5
	4. キ ッ セ イ ン ⑮	4:43.9	4:35.9
880 y 自	1. コ ン ラ ッ ズ	9:24.7	9:17.7 (m y 世新)
		1:04.6	2:14.0 3:32.8 4:32.5
		5:42.0	6:54.2 8:07.0
	2. キ ッ セ イ ン	9:48.0	9:33.4
	3. ガ ャ レ ッ テ ィ	9:38.6	9:41.4
4. ハ ミ ル ト ン	9:57.2	9:51.1	

	5. ウ イ ン ラ ム	9:55.8	9:51.6
	6. カ ー テ ィ ス ⑮	9:59.8	9:55.6
1650 y 自	1. ウ イ ン ラ ム		18:14.8
	2. キ ッ セ イ ン		18:39.5
	3. ガ ャ レ ッ テ ィ		18:40.8
110 y 平	1. ガ ャ ザ コ ー ル ②②	1:17.6	1:14.8
220 y 平	1. "	2:45.6	2:43.5
110 y バ	1. ウ イ ル キ ン ソ ン	1:03.8	1:04.0 (y 世新)
			(y 世新) 29.4
220 y バ	1. "	2:33.6	2:24.9
	2. タ ー ナ ー ⑮	2:37.4	2:31.7
110 y 背	1. モ ン ク ト ン ⑮	1:06.9	1:03.0
	2. ヘ イ ヤ ー ズ ⑮	1:05.6	1:06.5
	3. キ ャ ロ ル ⑮		1:07.4
220 y 背	1. モ ン ク ト ン	2:26.5	2:18.8 (m y 世新)
		32.2	1:06.5 1:42.5
	2. ヘ イ ヤ ー ズ	2:26.6	2:24.0
	3. キ ャ ロ ル	2:34.3	2:30.2
440 y 混	1. ガ ャ レ ッ テ ィ	5:28.4	5:29.0
	2. ウ イ ル キ ン ソ ン	5:39.4	5:32.2
男子ジュニア (16才以下)			
110 y 自	1. コ ン ラ ッ ズ	59.5	58.5
	2. グ ド マ ン	58.5	59.2
220 y 自	1. "		2:12.2
	2. バ ー		2:13.9
110 y 背	1. キ ャ ロ ル		1:07.2
女 子			
110 y 自	1. ク ラ ッ プ ⑮	1:06.3	1:04.7
	2. ハ ス テ ラ ー ル ス (和)		1:05.1
	3. モ ー ガ ン ⑮	1:06.0	1:05.3
220 y 自	1. ク ラ ッ プ	2:24.4	2:21.4
	2. ハ ス テ ラ ー ル ス (和)		2:22.8 (欧州新)
	3. モ ー ガ ン	2:23.8	2:24.8
	4. シ ム メ ル (和)		2:28.6
	オ フ ァ レ ル	2:23.0	
	コ ン ラ ッ ズ ⑮	2:26.4	
440 y 自	1. ク ラ ッ プ	5:04.5	4:48.2
		1:08.9	2:24.4 3:38.0
	2. コ ン ラ ッ ズ	4:59.2	4:58.8
		1:08.1	2:25.4 3:42.5
	3. シ ム メ ル (和)		5:13.5
	モ ー ガ ン		5:09.2
880 y 自	1. コ ン ラ ッ ズ	11:01.4	10:17.7 (m y 世新)
		1:10.0	2:29.4 3:47.0 5:05.6
		6:24.0	7:43.0 9:01.5

2.	シムメル	10:45.6	
3.	オフアレル	11:01.8	11:01.7
4.	ヘイワード	11:01.2	11:11.2
110y平	1. エバンス ^⑮	1:27.2	
220y平	1. ホーガン ^⑯	3:05.6	3:04.6
	2. エバンス	3:05.0	
	3. ホイラー	3:05.3	
110yバ	1. ベインブリッジ ^⑰	1:15.8	1:15.7
	2. ノットル	1:16.7	1:15.7
110y背	1. ベケット ^⑱	1:17.0	1:15.6
220y背	1. "	2:53.4	2:46.3
	2. ハンティングフォード	2:50.8	2:52.7
	3. パヨール(洪)	2:53.5	2:52.7

女子14才以下

110y自	1. コンラッズ	1:06.8	
-------	----------	--------	--

全豪学生選手権

110y背	1. タイラ	1:05.1	
-------	--------	--------	--

ヴィクトリア州選手権 1/15 メルボルン (55y)

女子

110y自	1. フレーザー ^⑳	1:03.5	
	2. ハステラールス(和)	1:06.4	1:05.0 (欧州新)
	3. コルクホーン ^㉑	1:07.4	1:06.1
	4. リーチ	1:06.3	
44'y自	1. コンラッズ	4:59.9	
	2. シムメル(和)	5:19.7	5:16.6

東ヴィクトリア州選手権 1/下旬 メルボルン (55y)

久しぶりでハンガリーの亡名選手の名前が出たが昔日の俤はない。

男子

880y自	1. ザボルスキー(洪)	10:05.4	
1650y自	1. "	20:01.9	
220yバ	1. ウイルキンソン	2:35.1	
	2. アッツ(洪)	2:45.2	
220y背	1. モンクトン	2:19.2	(m y 世新)

女子

110y自	1. ハステラールス(和)	1:05.7	
-------	---------------	--------	--

南豪州選手権 1/31 アデレード (55y)

女子

110y自	1. フレーザー	1:02.4 (世新)	
880y自	1. "	11:05.3	

2/上旬 シドニー (55y 塩水)

女子 440y自	1. モーガン	4:56.2	
----------	---------	--------	--

2/9 シドニー (55y 塩水)

男子 440y継	1. ニューサウス・ウエールズ	3:47.3 (世新)	
----------	-----------------	-------------	--

(デヴィット, チャプマン, コンラッズ, シプトン)	55.9	57.5	57.5	56.4
-----------------------------	------	------	------	------

女子

110y自	1. クラップ	1:05.9	
220y自	1. コンラッズ	2:23.3	
	2. モーガン	2:23.6	
440y継	1. ニューサウス・ウエールズ	4:28.0	
	(クラップ, フレーザー, コンラッズ, モーガン)	1:06.1	1:09.1
		1:05.4	1:07.5
440y混継	1. ニューサウス・ウエールズ	5:07.3	
	(ベケット, ホーガン, ベインブリッジ, クラップ)	1:18.4	1:26.7
		1:15.8	1:06.4

2/10 アデレード (55y)

女子

220y自	1. フレーザー	2:17.7	
		(m y 世新)	30.0
			1:06.0

440y継	1. 南豪州	4:31.1	
-------	--------	--------	--

全豪選手権 2/15~22 メルボルン (55y)

男子

110y自	1. デヴィット	57.3	55.9
	2. チャプマン	57.4	56.4
	3. シプトン	57.7	57.7
	4. ディクソン	59.2	58.6
	5. ハミルトン	59.2	58.9
	6. デイ	59.3	59.0
220y自	1. コンラッズ	2:05.9	2:05.1 (m y 世新)
	2. チャプマン	2:08.8	2:06.3
	3. デヴィット	2:11.2	2:08.5
	4. ハミルトン	2:09.6	2:10.1
	5. オハロラン	2:10.5	
440y自	1. コンラッズ	4:36.4	4:21.8 (m y 世新)
		1:00.5	2:06.4
	2. ギャレット	4:40.9	4:37.7
	3. ハミルトン	4:42.0	4:38.8
	4. ウインラム	4:39.6	4:40.1
	5. オハロラン	4:42.2	
880y自	1. ウインラム	9:46.0	
	2. キッセイン	9:52.0	
	3. カーティス	9:52.9	
1650y自	1. コンラッズ	17:28.7	(m y 世新)
		1:04.5	2:14.4
		3:24.0	4:34.5
		5:44.5	6:54.5
		8:04.8	9:14.5 (m y 世新)
		10:24.9	11:35.2
		12:45.8	13:56.5
		15:08.0	16:19.3
		1500m	17:23.8

	2.	ウインラム	18:45.0	
	3.	ギャレットィ	19:22.8	
	4.	キッセイン	19:25.0	
110y平	1.	ハント ^⑤	1:15.0	
	2.	ギャザコール	1:16.9	1:17.1
220y平	1.	〃	2:47.8	2:44.7
110yパ	1.	ウイルキンソン	1:04.4	
	2.	アンダーソン	1:07.1	
	3.	マッケンジー	1:07.2	
220yパ	1.	ウイルキンソン	2:27.0	
	2.	アンダーソン	2:33.3	
	3.	ターナー	2:34.0	
110y背	1.	モンクトン	1:04.2	1:01.5 (m y 世新) 29.5
	2.	ヘイヤーズ	1:09.7	1:04.6
	3.	キャロル	1:09.7	1:07.6
	4.	フィングルトン		1:08.7
220y背	1.	モンクトン	2:18.4 (m y 世新)	
			30.1	1:04.6 1:40.6
	2.	ヘイヤーズ		2:24.4
	3.	キャロル		2:29.2
	4.	フィングルトン		2:32.1
440y混	1.	ウイルキンソン		5:27.4
880y継	1.	ニューサウス・ウエールズ (コンラッツ、デヴィット、チャブマン、ギャレットィ)	8:49.4	
	2.	西豪	8:59.4	
440y混継	1.	ニューサウス・ウエールズ (モンクトン、ギャザコール、ウイルキンソン、デヴィット)	4:19.4 (世新) 1:01.4 1:16.4 1:04.9 56.7	

男子ジュニア

110y自	1.	グドマン	1:00.5	59.2
	2.	ウェブスター	1:00.8	59.2
	3.	マホニー	1:00.8	59.4
440y自	1.	ウッド	4:46.4	
	2.	マホニー	4:46.4	
	3.	リグビー	4:47.7	
	4.	カーティス	4:50.4	
110y背	1.	キャロル	1:07.0	
女子				
110y自	1.	フレーザー	1:04.6	1:01.5 (m y 世新) 55y 29.0 100m 1:01.1
	2.	クラブ	1:06.9	1:04.4
	3.	モーガン	1:05.8	1:04.9

	4.	コルクホーン	1:05.8	1:05.2
	5.	クリーグ	1:06.2	1:06.3
	6.	コンラッツ	1:07.9	1:06.4
220y自	1.	フレーザー	2:14.7 (m y 世新)	
			29.8	1:03.9 1:38.6
	2.	クラブ		2:22.0
	3.	ギブソン		2:30.0
440y自	1.	フレーザー		4:55.7
	2.	コンラッツ		4:56.2
	3.	モーガン		5:01.5
	4.	クラブ		5:03.3
880y自	1.	コンラッツ	10:16.2 (m y 世新)	
			1:10.6 2:27.3 3:44.4 5:03.2	
			6:21.8 7:40.8 9:00.0	
	2.	ゼベンブーム		11:13.6
	3.	オフアレル		11:16.1
	4.	ガイルズ		11:22.4
110y平	1.	ラシグ	1:26.0	1:25.9
	2.	ホーガン	1:27.0	1:26.1
	3.	エバンス	1:27.3	1:27.0
	4.	ウォーマルド		1:27.1
220y平	1.	エバンス	3:05.8	3:02.4
	2.	ホーガン		3:05.2
		ホイラー	3:05.9	
110yパ	1.	ベインブリッチ		1:15.5
	2.	ノットル		1:16.7
110y背	1.	ベケット	1:18.1	1:14.0
	2.	ネルソン	1:16.8	1:15.6
220y背	1.	ベケット	2:49.5	2:45.1
	2.	ネルソン	2:51.9	2:51.6
440y継	1.	南豪		4:22.9
		(フレーザー、クリーグ、ギブソン、ゼベンブーム)		
	2.	ニューサウス・ウエールズ		4:27.2
440y混継		〃		5:06.9
		(ベケット、ホーガン、ベインブリッチ、クラブ)		

女子ジュニア

110y自	1.	モーガン	1:06.0	1:05.2
	2.	コルクホーン	1:05.7	1:05.4
	3.	コンラッツ	1:06.0	1:06.7
	4.	クリーグ	1:06.6	1:06.8
220y自	1.	〃		2:25.8
	2.	コルクホーン		2:27.7
110y平	1.	ホーガン		1:26.3
110y背	1.	ネルソン		1:14.8

この競技会は7月イギリスで催される英連邦大会の選考を兼ねて行われ、次の男女9名宛の選手が選ばれた。

なお出発前ブリスベーンで6週間の合宿練習を行う由。
ヘンリックスとローズはアメリカに留学中で、またタイ
ラは学業に専念するため出場せず、この3強豪は選に漏
れた。

男子 デヴィット^⑳ (主将) チャプマン^⑲
コンラッズ^⑮ シプトン^⑮
ウインラム^㉑ モンクトン^⑲
ヘイヤーズ^⑲ ウイルキンソン^⑲
ギャザコール^㉒
女子 クラップ^⑲ コルクホーン^⑮
フレーザー^㉑ コンラッズ^⑮
モーガン^⑮ ベケット^⑰
ネルソン^⑮ べインブリッチ^⑲
エバンス^⑮ (主将)

水上カーニバル 3/3 ブリンズーン (50m)
男子 400m継 英国遠征チーム 3:46.3 (世新)
(チャプマン,コンラッズ,シプトン,デヴィット)
57.0 57.0 57.2 55.1

男子 50m自 1. デヴィット 24.2
" 100m自 1. " 57.5
" 400m自 1. コンラッズ 4:37.8
" 200m平 1. ギャザコール 2:42.8
" 100mバ 1. ウイルキンソン 1:04.1
" 100m背 1. モンクトン 1:02.6
女子 400m自 1. コンラッズ 5:02.7
" 100m背 1. ネルソン 1:14.0
" 400m継 1. 選抜チーム 4:23.7
(フレーザー, コンラッズ, モー
ガン, フレーザー)

水上カーニバル 3/5 シドニー (55y 塩水)
男子 880y継 1. 選抜チーム 8:24.5 (世新)
コンラッズ 2:03.2 (")
28.6 58.3 1:31.8 2:03.2
デヴィット 2:06.2
チャプマン 2:05.6
ハミルトン 2:09.5

男子 110y自 1. デヴィット 55.5
2. チャプマン 57.2
3. ヘイヤーズ 57.3
" 440y自 1. コンラッズ 4:36.6
2. ウインラム 4:40.4
" 220y平 1. ギャザコール 2:43.5
" 220yバ 1. ウイルキンソン 2:28.2
2. ケーブル 2:33.3
" 110y背 1. モンクトン 1:02.5
2. ヘイヤーズ 1:04.4
3. キャロル 1:06.0
女子 440y継 1. 選抜チーム 4:18.9 (世新)

(フレーザー, モーガン,
1:03.8 1:04.2
コンラッズ, クラップ)
1:05.8 1:05.1

" 110y自 1. クラップ 1:05.5
" 440y自 1. コンラッズ 4:53.3
1:08.2 2:22.2 3:37.6
2. モーガン 5:01.3
" 220y平 1. ホーガン 3:04.0
2. エバンス 3:04.1
3. ホイラー 3:04.3
" 110yバ 1. べインブリッチ 1:16.6
" 110y背 1. ベケット 1:15.2
2. ネルソン 1:16.2

3/中旬 シドニー (55y 塩水)
男子 110y自 1. コンラッズ 57.5

5/中旬 タウンスヴィル (55y)
男子 110y平 1. ギャザコール 1:14.0
女子 110y自 1. コンラッズ 1:05.9

6/上旬 タウンスヴィル (非公式 55y)
女子 880y自 1. モーガン 10:15.0
2. コンラッズ 10:16.2

6/上旬 タウンスヴィル (55y)
男子 110y自 1. デヴィット 57.0
" 220y自 1. ウイルキンソン 2:09.7
2. シプトン 2:13.9

男子 440y自 1. チャプマン 4:39.0
6/7 タウンスヴィル (55y)

男子 440y自 1. コンラッズ 4:27.2
2. ウインラム 4:38.4

" 110y平 1. ギャザコール 1:13.5 (世新)
" 110y背 1. ヘイヤーズ 1:04.4
2. モンクトン 1:05.2

女子 110y自 1. フレーザー 1:02.2 (世新)
2. コルクホーン 1:03.7

" 440y自 1. コンラッズ 4:59.4
" 880y自 1. モーガン 10:17.8 (世新)

6/13 ブリスベーン (55y)
男子 110y自 1. デヴィット 57.5

" 220y平 1. ギャザコール 2:40.5 (世新)
" 110y背 1. モンクトン 1:03.9

" 1哩自 1. コンラッズ 18:56.4 (世最高)
1:05.0 2:15.2 3:25.5
4:36.3 5:46.4 6:57.5
8:09.5 9:20.3 10:32.4
11:44.6 12:56.3 14:08.2
15:20.6 16:32.8 17:45.5

女子 220y自 1. コルクホーン 2:20.1
2. クリーグ 2:23.0
3. コンラッズ 2:23.3

女子 440y 自 1. クラ ッ プ 4:57.0
 " 880y 自 1. コンラ ッ ズ 10:11.8 (世新)
 1:11.0 2:27.2 3:44.7 5:02.5
 6:20.0 7:38.4 8:56.4
 " 220y 背 1. ネル ソ ン 2:43.0
 6/23 タウンズヴィル (55y)
 男子 110y 平 1. ギャザコール 1:13.0 (世新)
 6/28 タウンズヴィル (55y)
 男子 110y 自 1. デ ヴ ィ ッ ト 57.4
 2. チャプマン 57.4
 3. シ プ ト ン 57.8
 " 440y 自 1. コンラ ッ ズ 4:22.8 (世新)
 " 220y 平 1. ギャザコール 2:36.5 (世新)
 途中 110y 1:12.4 (")
 " 110y 背 1. ヘ イ ヤ ー ズ 1:04.1
 2. モ ン ク ト ン 1:04.9
 女子 110y 自 1. フ レ ー ザ ー 1:02.7
 2. コルグホーン 1:03.6
 3. コンラ ッ ズ 1:04.6
 " 440y 自 1. " 4:57.8
 2. モ ー ガ ン 4:59.0
 " 220y 平 1. ラ シ グ 2:59.8
 " 110y 自 1. ベインブリッチ 1:14.9
 " 110y 背 1. ネル ソ ン 1:14.5

南 ア メ リ カ

ブラジル水泳コーチ協会杯 1/中旬
 男子 100m 自 1. M・ドスサントス 57.3(南米新)
 アルゼンチン選手権 1/15~17 ブエノスアイレス (50m)
 男子 800m 自 1. メ ザ ド ラ 10:10.4
 2. フィオリオト 10:14.3
 " 1500m 自 1. メ ザ ド ラ 19:33.8
 " 100m 自 1. ファンジュル^⑮ 1:06.4
 " 200m 自 1. " 2:30.6
 女子 200m 背 1. バルトレッティ 2:52.3
 南米選手権 2/8~16 モンテヴィデオ (50m)
 南米にも遂に56秒台の選手が現われたことは大変な進歩である。
 男 子
 100m 自 1. M・ドスサントス(伯) 56.6(南米新)57.2
 2. メリノ(ペルー) 1:00.0 59.6
 400m 自 1. K・ドスサントス(伯) 4:45.0
 2. メ ザ ド ラ(亜) 4:50.4
 1500m 自 1. " 19:17.0
 2. K・ドスサントス 19:25.0
 100m 平 1. モビグリア(伯)1:17.5 1:16.4
 100m 自 1. ファンジュル(亜)1:06.7 1:06.9

200m 自 1. ファンジュル 2:35.7 2:34.4 (南米新)
 100m 背 1. ゴンザルヴェズ(伯)1:10.0 1:08.0
 2. アルメイダ(伯)1:09.4 1:09.4
 200m 背 1. ゴンザルヴェズ 2:33.4 2:27.6
 2. アルメイダ 2:31.5 2:30.7
 男子 800m 継 1. ブラジル 9:02.1
 女子 200m 背 1. バルトレッティ(亜) 2:49.2
 2. アルメイダ(伯) 2:52.9
 1.伯 195 2.亜 125
 3.ペルー 71 4.ウルグアイ 22

ア フ リ カ

南ア連邦 4/上旬 ダーバン (55y)
 男子 880y 自 1. マクラ克蘭 9:50.8(南ア新)

ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド

3/15 オークランド オリンピック プール (55y)
 女子 110y 背 1. ゴ ー ル ド 1:12.5 (世新)
 ニュージーランド選手権 オークランド (55y)
 男子 440y 自 1. マクファーデン 4:47.4
 女子 220y 背 1. ゴ ー ル ド 2:43.0

フ ィ リ ピ ン

フィリピン選手権 3/6~9 リザール プール (50m)
 男子 100m 自 1. ア ラ バ ニ 59.8
 " 200m 自 1. サ イ ラ ニ 1:15.3
 2. パ ボ ル 2:15.5
 3. ロ ザ ダ 2:15.5
 400m 自 1. サ イ ラ ニ 4:46.8
 2. ロ ザ ダ 4:52.9
 1500m 自 1. サ イ ラ ニ 19:51.3 19:40.2
 100m 自 1. エリザルデ 1:06.5
 100m 背 1. ボ ニ 1:10.0 1:10.1
 2. オーグスティン 1:10.4 1:10.4
 3. コルテズ 1:10.4
 200m 背 1. " 2:34.6
 2. ロ ザ ダ 2:35.4

南 ア フ リ カ

3/8 ダーバン (55y)
 女子 440y 混 L・デナイス(和) 5:49.1 (世新)

ア メ リ カ

全米学生選手権 3/27~29 アンアーバー (25y)
 50y 自 1. モ ー リ ス 22.6 22.4

	2.	ウエストファル	22.4	22.4
	3.	コンネル	23.3	22.7
100m自	1.	D・パタソン	50.1	49.5
	2.	モーリス	50.3	49.5
	3.	アンダーソン	49.8	49.8
220y自	1.	〃	2:05.8	2:03.7
	2.	ハンレー	2:07.0	2:03.6
	3.	ファーレル	2:08.3	2:08.4
440y自	1.	ステュアート(南ア)	4:38.8	4:34.3
	2.	アンダーソン		4:38.6
	3.	ウーリー	4:40.4	4:40.0
1500m自	1.	ステュアート(南ア)	18:45.8	
	2.	パークス		18:46.2
	3.	レンズ		18:56.1
100y平	1.	モダイン	1:05.0	1:05.2
	2.	スタンレー	1:05.9	1:05.6
	3.	ホプキンス	1:06.3	1:05.9
200y平	1.	モダイン	2:28.0	1:25.4
	2.	ホプキンス	2:27.4	2:25.5
	3.	ハンセイカー	2:27.5	2:25.7
100yバ	1.	タシュニク	55.5	54.6
	2.	ハモンド	55.5	55.3
	3.	コレズ	57.5	56.2
200yバ	1.	タシュニク	2:07.8	2:04.2
	2.	ジェコ	2:11.2	2:08.1
	3.	ネルソン	2:12.1	2:11.7
100y背	1.	ドルビー	59.2	57.8
	2.	ペンバトン	58.2	58.1
	3.	ハーリング	59.9	58.7
200y背	1.	ペンバトン	2:11.5	2:08.0
	2.	ハーリング	2:11.5	2:08.3
	3.	ミス	2:11.9	2:10.9
400y継	1.	オハイオ州大		3:23.1
400y混継	1.	エール大		3:48.6
	1.	ミシガン大 72		
	2.	エール大 63		
	3.	ミシガン州大 62		

全米室内選手権 4/3~5 ニューヘブン (25y)

100m平	エキジビション			
	サンギリー(キューバ) 1:14.8(米新)			
1500m自	1.	ローズ(豪)⑳	18:28.5	
	2.	ハインリッヒ⑰	19:02.8	
	3.	ホプキンス⑯	19:02.9	
	4.	キャス⑰	19:07.5	
	5.	ソマーズ⑯	19:08.5	
	6.	メリル	19:25.5	

以上の二種目は50mプールで行われた。

100y自	1.	ラーソン⑰	49.5	49.5
	2.	アンダーソン	50.7	49.7
	3.	ヘンリックス(豪)㉑	50.0	49.6
	4.	オーブリー(豪)㉒	50.1	50.1
220y自	1.	ローズ〃	2:05.8	2:02.5
	2.	ヘンリックス〃	2:04.3	2:02.5
	3.	ハンレー㉑	2:05.9	2:03.5
	4.	アンダーソン	2:06.0	2:05.6
440y自	1.	ローズ(豪)	4:34.5	4:21.6 (米新)
	2.	ヘンリックス〃	4:39.6	4:36.1
	3.	ハインリッヒ	4:39.2	4:37.6
	4.	ギョルフィ(洪)	4:40.2	4:37.5
	5.	ノードストローム	4:42.3	4:37.6
100y平	1. サンギリー(キューバ)			
			1:06.0	1:04.2 (米新)
	2.	コレット	1:05.6	1:05.1
	3.	マンシュ	1:04.8	1:04.9
200y平	1.	〃	2:41.3	2:38.5 (米新)
	2.	コレット	2:40.9	2:39.8
	3.	グリフィン	2:42.6	2:41.7
100yバ	1.	タシュニク⑱	55.2	54.3 (米対)
	2.	ラーソン	54.8	54.3 (〃)
	3.	ジェコ㉑	55.5	55.0
200yバ	1.	ヨージク㉒	2:20.2	2:18.0 (米新)
	2.	タシュニク	2:23.1	2:18.4
	3.	ジェコ	2:23.1	2:21.6
100y背	1.	マッキニー⑱	56.9	56.6
	2.	シェーファー⑰	56.5	56.9
	3.	ビティック⑰	56.9	57.4
200y背	1.	マッキニー	2:21.1	2:16.9 (米新)
	2.	ビティック	2:20.9	2:17.6 (〃)
	3.	ビーヴァー	2:26.5	2:24.0
400y混	1.	ハリソン⑱	4:50.2	4:41.3 (米新)
400y継	1.	南加大 (ウインターズ, レディントン, 51.5, 50.3)		3:20.4
		ローズ, 49.7	ヘンリックス) 48.9	
	2.	ニューヘブン		3:21.2
400y混継	1.	ニューヘブン		3:46.6
	2.	北カロライナ		3:48.2
	1.	南加大 55		2. ニューヘブン 54
個人	1.	ローズ 21		2. マッキニー 14
				2. ヘンリックス 14

ヨーロッパ

○イギリス—106.5 西独—63.5

4/18. 19 カーディフ (55y)

男子 110y 自 1. フェール(ド) 58.4

2. マッケチニー⑩ 59.1

3. クラーク 59.4

〃 440y 自 1. ブラック⑰ 4:45.1

2. スリーナン 4:55.2

3. ブリーケル(ド) 5:02.1

〃 220y 平 1. ボディングル(ド) 2:45.5

2. ビーヴァン 2:49.0

3. デイ 2:49.1

〃 220y バ 1. ブラック 2:27.5

2. ウェーベル(ド)⑱ 2:29.6

3. シモンズ⑳ 2:29.9

男子 110y 背 1. サイクス㉑ 1:06.0

2. ミールシュ(ド) 1:08.5

3. リグビー 1:09.9

〃 880y 継 1. イギリス 8:58.2

〃 440y 混継 1. " 4:31.9

女子 110y 自 1. ウイルキンソン⑭ 1:06.9

2. サムエル 1:08.7

〃 440y 自 1. ファーグソン 5:18.6

2. ウインクラー(ド) 5:23.1

〃 220y 平 1. ゴスデン 3:01.0

2. ローグモン(ド) 3:04.2

女子 110y バ 1. ゴスデン 1:16.1

2. ミューレル(ド) 1:20.9

〃 110y 背 1. エドワーズ 1:12.4(世新)

2. グリンハム⑲ 1:15.3

440y 継 1. イギリス 4:30.5

○ソ連 ブラウダ杯 4/19~21 キエフ (50m)

男子

100m 自 1. ソローキン (27.6) 57.5

2. ポレボイ (27.0) 58.2

3. ルシコフスキー (27.6) 58.5

4. ニコラエフ (27.7) 58.6

5. モルガチェフ (27.0) 58.7

400m 自 1. ニキティン㉒ 4:36.0

(1:03.0 2:12.7 3:23.5)

2. アンドロソフ⑲ 4:45.0

(1:07.0 2:21.0 3:33.0)

3. ボヴィッチ 4:45.5

(1:08.0 2:20.5 3:33.5)

1500m 自 1. チェミコフ (10:10.9) 19:03.3

2. プレス (10:11.1) 19:07.6

3. メシュチェロフ (10:12.9) 19:12.6

4. グロコフスキー (10:16.5) 19:16.4

200m 平 1. ゴロフチェンコ (1:16.6) 2:41.8

2. プロコペンコ (1:18.3) 2:42.7

3. ヤスニスキー (1:18.0) 2:44.0

4. ムキン (1:18.7) 2:44.2

200m バ 1. ジェネンコフ (1:11.0) 2:27.4

(ソ連新)

2. アボヴィアン (1:11.1) 2:29.9

(ソ連新)

3. ユルチェンコ (1:11.8) 2:33.1

100m 背 1. バルビエル (30.9) 1:06.4

2. クヴァルディン (31.1) 1:07.2

3. セーロフ (31.6) 1:07.8

4. クリルキン (31.7) 1:07.9

800m 継 1. 陸軍 8:47.7

400m 混継 1. " 4:28.8

女子

100m 自 1. フィリップ (33.0) 1:08.8

400m 自 1. フーグ (1:10.5 2:29.5 3:51.0) (ソ連新)

200m 平 1. ウースミース (1:25.0) 2:57.7

100m バ 1. カマエヴァ (34.0) 1:13.5

(ソ連新)

100m 背 1. クリボヴァ (36.2) 1:17.4

400m 継 1. ダイナモ 4:39.0

400m 混継 1. スパルターク 5:11.4

ソ連 4/下旬 キエフ (50m)

男子 800m 自 1. ニキティン 9:32.8

(ソ連新)

女子 400m 自 1. フーグ 5:10.5(")

○イタリア 1 冬季選手権 4/下旬 ローマ (50m)

100m 自 1. プッチ㉓ 57.5

2. ペロンディニ㉔ 58.8

400m 自 1. ガレットィ 4:43.1

2. デンネルレイン 4:46.9

1500m 自 1. ガレットィ 9:52.3 18:58.8

(伊新) (伊新)

200m 平 1. ラザリ㉕ 2:44.8

100m 背 1. エルサ㉖ 1:09.4

800m 継 1. プッチ(第1泳者) 2:11.4

400m 混継 1. エルサ(") 1:07.8

世界記録が長水路オンリーになって、取扱いが合理的で明朗になったのは結構ですが、短水路の記録は舊のものとなって、どんなにすばらしいものでも認められないことになったのは、惜しいような気がします。それでこの欄では今後短水路のものは全米室内選手権と全米学生位に留めて、どび抜けた記録でもない限り割愛する方針で進みたいと思いますから、御諒承を願います。(坂本記)

臨時代議員会議事録

日時 昭和33年3月21日

場所 丸ビル精養軒

出席者 在籍51団体 出席34団体 委任状提出3団体

議事 会長選任に関する件

小山専務理事より下記の通り報告あり

1月26日の定例代議員会の決議により会長推薦委員会を設置した。その時直ちに第一回の委員会を開催し下記の方針により会長を選任する事を決め代議員会に報告諒承を得たのは既に御承知の通りである。即ち会長候補者としては

- A 東京在住の人である事
- B 水連の関係者である事（顧問、評議員、代議員、理事の在職者）
- C 両当事者は却って御迷惑であろうから今回は候補者としない

上記の3原則により出来るだけ早く候補者を決め改めて代議員会に諮って選任する事とした。

その後、前後3回の選任委員会を開催慎重に協議の結果、委員会としては樋口一成氏を会長に推薦する事に決定した。

就而は新会長として樋口一成氏を選任し、水泳連盟の総力を結集して、新しい方向に前進する様御協力願ひ度い。

樋口一成氏は現在、水泳連盟の顧問であり、慈恵会医科大学の東京病院長をなさって居られ、水泳歴としては水球の選手で日本選手権の優勝チームのメンバーであった事もある。

以上の報告に対し質疑の後、賛成大多数で新会長として樋口一成氏に就任願ひ事に決定した。（志村文記）

連盟日誌

昭和33年1月1日—6月30日

1月4日（土） アジア大会競泳、飛込候補選手合宿練習会始る 東大プール、太栄館
 8日（水） 中体連との打合せ会
 9日（木） 在京理事会
 13日（月） アジア大会競泳、飛込合宿練習会終る 学生実行委員会 編集委員会
 14日（火） 在京代議員会 精養軒 アジプ大会水球候補合宿始る 東大プール、太栄館
 16日（木） 常務理事会 関東学生総務委員会 岸記念館
 17日（金） 普及委員会
 18日（土） 学生実行委員会 指導者協会幹事会
 20日（月） アジア大会水球合宿練習終る 記録委員会
 21日（火） 飛込委員会
 22日（水） 競泳委員会
 23日（木） 常務理事会
 24日（金） 勤労者大会厚生省其他と打合せ会 顧問評議員会 精養軒
 25日（土） 学生代表委員会 精養軒

26日（日） 定例代議員会 精養軒 会長選考委員会 "
 31日（金） 室内プール運営打合せ会
 2月1日（土） 学生水球委員会
 6日（木） 常務理事会
 7日（金） 普及委員会
 11日（火） 神宮プール専門委員会 神宮外苑部
 12日（水） 会長選考委員会 太栄館 競泳委員会
 13日（木） 専門委員長会
 14日（金） 水球委員会
 15日（土） 飛込委員会
 17日（月） 記録委員会
 18日（火） 都室内プール関係懇談会 精養軒 比島よりの招聘について懇談会
 19日（水） 普及委員会
 20日（木） 常務理事会
 24日（月） 専門委員長会 精養軒 顧問評議員会 太栄館
 25日（火） シンクロ委員会
 26日（水） 競泳委員会
 28日（金） 会長選考委員会 精養軒

2月3日(月)	編集委員会		東大プール(5日~14日)
4日(火)	学生実行委員会	26日(土)	関東学生総務委員会 岸記念館
6日(木)	常務理事会		アジア大会準備打合せ会
7日(金)	水球委員会		規約改正打合せ会
8日(土)	記録委員会	28日(月)	学生実行委員会 記録委員会
11日(火)	学生水球委員会	80日(水)	都室内プール落成式 都体育館
12日(水)	競泳規則打合せ会	5月2日(金)	アジア大会飛込合宿練習会終る
13日(木)	常務理事会	7日(水)	競泳委員会
14日(金)	普及委員会	8日(木)	常務理事会
17日(月)	学生実行委員会		学生水球委員会
18日(火)	機械審判委員会	10日(土)	アジア大会水泳代表選考会
19日(水)	競泳規則打合せ会		第1日 都屋内プール
20日(木)	学生代表委員会	11日(日)	第2日 //
21日(金)	臨時代議員会 精養軒		// 水泳代表決定発表 //
24日(月)	記録委員会		// 水泳選手団結団式 日本青年館
25日(火)	競泳委員会	12日(月)	I.O.C.役員都屋内プール視察
27日(木)	常務理事会	14日(水)	アジア大会各国エントリー会
28日(金)	指導者協会幹事会		日本青年館
	報道関係との懇談会		記録委員会
	アメリカンクラブ	15日(土)	普及委員会
	機械審判器打合せ会	11日(金)	アジア大会運営委員会
31日(月)	水球委員会		飛込委員会
5月1日(火)	学生実行委員会	20日(火)	学生実行委員会
	アジア大会競泳合宿会始る 別府室内	22日(木)	アジア大会各国監督者会議
	プール		都屋内プール
	// 水球合同練習会始る 東大プール		// 水泳競技役員打合せ会 //
4日(金)	普及委員会		// 各国代表水連会長招待会
	室内プール関係者と懇談会 精養軒		帝国ホテル
5日(土)	アジア大会入場券打合せ会	23日(木)	常務理事会
	都室内プール落成式打合せ会	24日(金)	アジア大会水泳上訴審判懇談会
7日(月)	学生水球委員会	26日(月)	// プール準備
	アジア大会準備打合せ会	27日(火)	// //
9日(水)	普及委員会	28日(水)	アジア大会水上競技大会
10日(木)	常務理事会		第1日 都屋内プール
11日(金)	アジア大会準備打合せ会	29日(木)	// 第2日 //
	アジア大会水球合宿練習会始る	30日(金)	// 第3日 //
	野沢プール	31日(土)	// 第4日 //
12日(土)	指導者協会幹事会	6月3日(火)	クロートワーシー氏来朝
15日(火)	記録委員会		(オリンピック飛込選手)
19日(土)	指導者協会幹事会		神宮プール開き
20日(日)	アジア大会飛込合宿練習会始る		学生実行委員会
	野沢プール	5日(木)	常務理事会
21日(月)	// 水球 // 終る	6日(金)	日米対抗打合せ会 精養軒
22日(火)	水球委員会		ジョンソン氏との懇談会
23日(水)	常務理事会		クロート・ワーシー氏歓迎会 松園
25日(金)	アジア大会水球合同練習会始る		学生水球委員会

- | | | | |
|--------|---|--------|----------------------------------|
| 7日(土) | 関東学生水球リーグ戦始る
東部医歯薬大会打合せ会 | 16日(月) | 水球委員会 |
| 8日(日) | 第30回早慶対抗水上競技大会
神宮プール | 17日(火) | 都屋内プール関係慰労会 幸 楽
アジア大会役員 " 宇田川 |
| 9日(月) | 記録委員会 | 18日(水) | 機械審判関係役員" 晩翠軒 |
| 11日(水) | 普及検定小委員会 | 19日(木) | 常務理事会 |
| 12日(木) | 米派遣選手合宿練習会 日本青年館
20日迄 | 21日(土) | 米派遣選手壮行会及び出発 |
| 13日(金) | 普及委員会 | 24日(火) | 日本泳法小委員会 |
| 15日(日) | 第23回日、立、明三大学対抗水上競技
大会 神宮プール
クロート・ワジー座談会 いろは | 26日(木) | 学生水泳委員会 |
| 16日(月) | " 帰国 | 27日(金) | ロサンゼルス招待大会 3日間
ロサンゼルス |
| | | 28日(土) | 東部医歯薬打合せ会 |
| | | 30日(月) | 学生実行委員会 |

おわび

編集の不手際により本機関紙の発行が半年近くもおくれましたことを心から御詫び申し上げます。例年ならば5月末に出るべき本誌を、アジア大会特集号として6月下旬に出す予定でございました。豪州選手の招待などにより執筆者が多忙を極め、ついに年末に発行せざるを得なくなったようなわけでありました。読者の中には2回、3回と督促状をお寄せ下さった熱心な方もありました。このような方に対しては、特に申し訳けなく感じております。

次号は121号122号を合せて80頁前後の倍大号として年鑑号(1月下旬発行予定)と一しよに出す考えでおります。内容は豪州選手が我々に与えた教訓と今後の方針を中心とするもので、泳法技術関係の記事を主体にしたいと思っております。(宍道)

編集委員 (アイウエオ順●印, 委員長)

上野徳太郎	川田友之	金田平八郎	金子 巍
菊池 章	串田正夫	三枝美貴子	志村文一郎
島田桃一郎	●宍道洋一	鈴木祐一	高橋静子
多治見祐孝	中村雅明		

日本水泳連盟
機関誌

水 泳

第120号

昭和33年12月10日印刷
昭和33年12月15日発行

日本水泳連盟

編集兼
発行人 宍道洋一
印刷所 株式会社 成島印刷所
東京都中央区日本橋本石町3の4
電話日本橋(24)1701・6509・7082

定 価 (年4回発行)
1年分¥300.- (予約申込者に限り頒布) 1ヶ年前金予約は郵送料不要。

東京都千代田区丸ノ内2-2
丸ビル722区

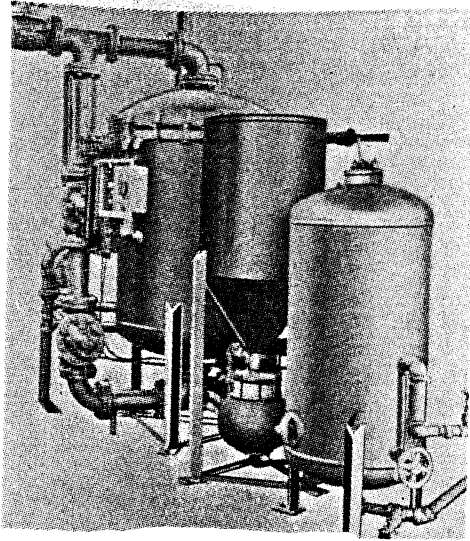
発行並
申込所 日本水泳連盟

電話和田倉(20)3090・4885番
振替口座東京5178番

近代水泳プール循環処理浄水装置

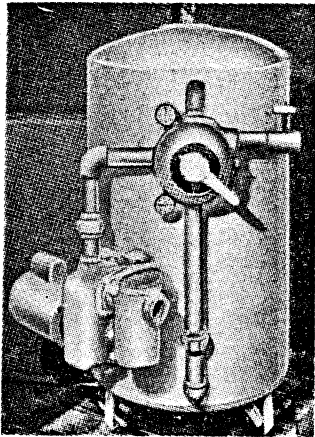
全自動式
及
半自動式
(特許出願中)

競泳プール用
娯楽プール用
学校プール用
自家用プール用



最も合理的の
経済敷設にして
維持管理は
最も容易であります

幾多の経験に基づき各装置は夫々巧妙な設計であります
製造は弊社専属工場の責任ある製作であります
御計画に対し我社の経験は各々最も経済的な誤りの無い敷設を堤供致します



新型プール用濾過機(手働式)

弊社独特の単一操作弁つき

株式会社 水処理センター

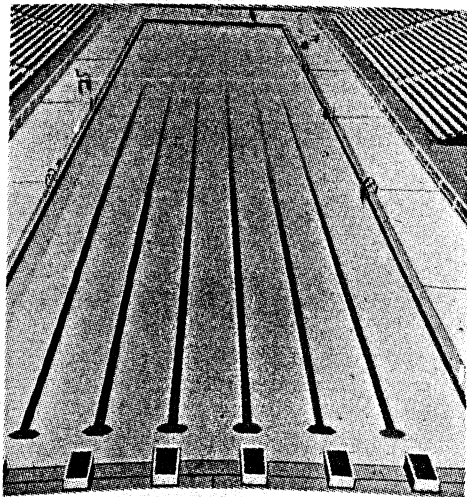
東京都大田区南千束町三一六番地
(工業大学の東南徒歩五分)

電話 (78)-9352 (56)-1596

製作工場 東京都江東区深川枝川町二ノ六

電話 (64)-0276

配管系統の設計
も致します
工事も致します



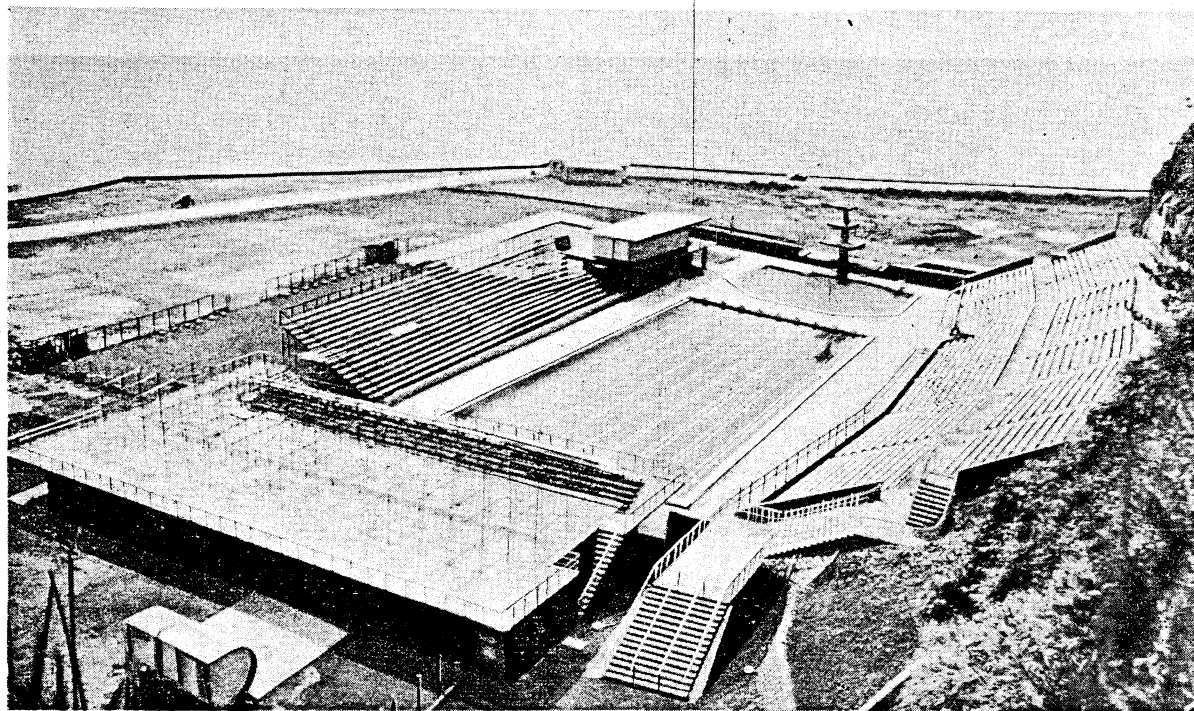
循環水は其の衛生的な純度を維持し得るターンオーバーに基づいて完全に確保されて居ます

競泳プール用 最新型循環浄化滅菌装置

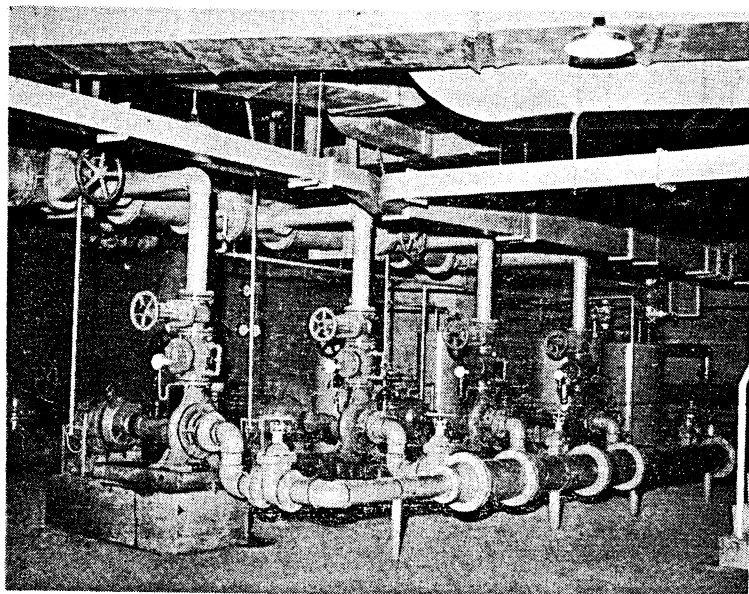
設計, 施工

50Mプール及25Mプール、徒渉プール、娯楽プール、
温泉プール、戸外プール及屋内プール用
塩素滅菌圧入式・硫酸銅液比例圧入式・急速濾過循環式

—— 循環浄化装置はこの建物の地下室



TURN-OVERS プール容量の循環換水は少くも24時中3回であります。しかも薬品自動注入方式による急速濾過機を経て完全に滅菌し、且又アルゼーの発生を防止した完全な浄水が循環致します。依つて水泳者は清浄な水の中で安全に快く泳げます。(写真は鎌倉市営プール)



アジア大会使用
東京都室内プール循環浄化滅菌装置

最近の工事施行実績	其他 米軍基地
鎌倉市営プール	アジアABプール
立教小学校プール	相模原プール
富士銀行済美山プール	高畑山プール
水産大学プール	沖縄カクタプール
茨城県営プール	岐阜プール
宮城県立第一女子高校	芦屋プール
第一生命保険株式会社	白井プール
鳥山プール	上瀬谷プール
第一銀行瀬田プール	横須賀プール
富山県営高岡プール	硫黄島プール
東京都室内プール	追浜プール
宇部市営プール	其他
慶応大学幼稚舎プール	

東工業株式会社

本社 東京都港区芝白金合町2ノ34
電話白金(44)2161・2162・2163・2164・2165・9746(経理)
工場 港区・目黒区

大阪営業所 大阪市西区靱上通1ノ35
電話土佐堀(44)2657番
九州出張所 福岡市古溪町3
電話東(3)5507番